博　多　38

—博多遺跡群第66次調査報告—

福岡市埋蔵文化財調査報告書　第330集

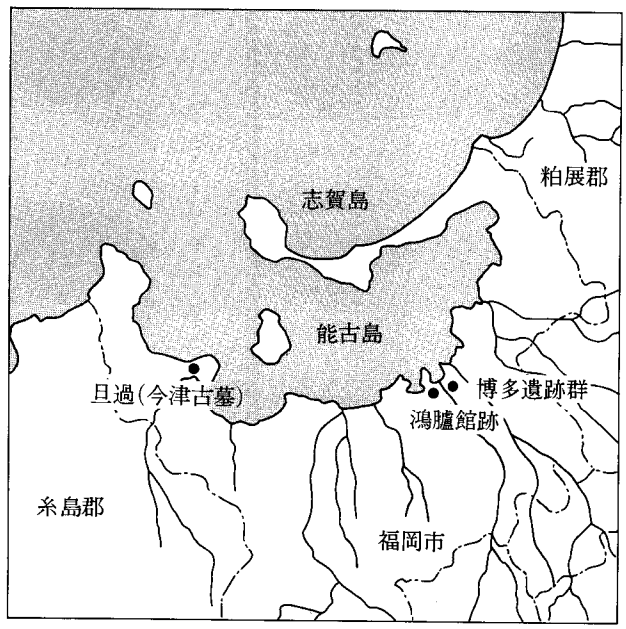
1993

福岡市教育委員会

博　多　38

—博多遺跡群第66次調査報告—

福岡市埋蔵文化財調査報告書　第330集



平成５年３月

福岡市教育委員会

序　　文

古代以来、大陸との主要な窓口であった福岡市には、数々の貴重な遺跡が残されています。とりわけ、大博通りを中心とした旧博多部には貿易拠点として平安時代から戦国時代にかけて栄えた中世都市博多が地下に眠っています。

近年、この地域は都市整備が進み、再開発事業に伴って博多遺跡群ではすでに78次に及ぶ発掘調査が実施されています。

本書は大博通りの祇園町交差点に面した第66次調査の発掘調査報告書です。

第66次調査では、平安時代から江戸時代までの遺構・遺物を発見することができました。特に鎌倉～室町時代を中心とする遺物は中世博多の生活を物語る資料として貴重なものです。

発掘調査から資料整理の期間中にご協力をいただいた飛栄産業株式会社を始めとして、多くの方々に対し、心から謝意を表するものです。

又、本書が市民の皆様の文化財に対する理解を深めていく上で広く活用されることを願っております。

平成５年１月

福岡市教育委員会

教育長　井口　雄哉

例　　言

1．本書は福岡市博多区御供所町129-1の他に於ける商業ビルの建設に伴い、福岡市教育委員会が平成２年（1990）７月２日から平成２年（1990）９月29日の期間中に発掘調査を実施した博多（はかた）遺跡群の第66次調査の報告である。
2．本書に掲載した遺構の実測は井澤洋一、吉田扶希子、多田映子、西口キミ子、西嶋彰子、福田小菊が行った。
3．遺物の実測は吉田、牛房綾子、中西香、田中昭子、多田、福田が行った。
4．遺構・遺物の製図は井澤、牛房、中西、松枝礼子が担当した。
5．遺構・遺物の写真撮影は井澤が行った。
6．本書に掲載する遺構一覧表、及び鉄製品・青銅製品一覧表は吉田が作成した。又、出土した貨銭の分類・一覧表は荻野敦子が分担した。
7．本書作成にあたって西嶋彰子、箱田香代子の協力を得た。
8．遺構番号は発掘調査時点に於いて検出した順に番号をふり、本書では遺構の略号を番号の頭に付けた。遺構の略号として用いたのはSE（井戸）、SX（その他の遺構）、SK（土壙）、SD（溝）、SP（小穴）である。
9．本書の遺物は遺構の種類毎に通し番号で示し、挿図・図版とも一致する。
10．本書では紙面の関係から遺物の説明を記述することができなかったため、各遺物の実測図番号の下に、以下の凡例に基づいて遺物の分類による記号を与えた。

土師器	○	須恵器	■	中国青磁	★
土師器糸切り	◎	須恵質土器	□	中国白磁	☆
土師器ヘラ切り	⊕	須恵器赤焼け土器	☒	中国陶器	△
土師質土器	◑	瓦器	◆	天目	▲
		瓦質土器	◇	国産陶器	※

11．遺構配置図の平面図、及び遺構の平面図に用いた方位は磁北である。
12．本書に掲載した岩石の鑑定・分析はパリノ・サーベイ株式会社に依頼した。
13．本書にかかわる図面・写真・遺物などの一切の資料は、福岡市埋蔵文化財センターに収蔵・保管される予定である。
14．本書の編集は吉田、牛房、中西の助言を得て井澤が行った。

遺跡調査番号	9022			遺跡略号	HKT-66
地番	福岡市博多区御供所町129-1他			分布地図番号	天神49
開発面積	424㎡	調査対象面積	424㎡	調査面積	324㎡
調査期間	1990年（平成２年）７月２日～1990年（平成２年）９月29日				

本　文　目　次

第１章　はじめに…… 1
１．発掘調査に至る経過…… 1
２．発掘調査の組織…… 1
第２章　調査の記録…… 3
１．試掘調査の概要…… 3
２．調査経過…… 4
(1) 調査概要 …… 4
(2) 土　層 …… 4
３．第１～３面の調査概要…… 6
４．遺構・遺物各説……12
(1) 検出遺構……12
(2) 出土遺物……41
第３章　まとめ……43

挿　図　目　次

Fig. 1　博多遺跡群調査位置図…… 2
Fig. 2　博多遺跡第66次調査位置図（縮尺1/4.000） …… 3
Fig. 3　調査区東壁面土層図（縮尺1/80） …… 4
Fig. 4　第１・２面遺構配置図（縮尺1/200） …… 5
Fig. 5　井戸 SE01・02・05・06実測図（縮尺1/60） …… 7
Fig. 6　井戸 SE07・09～11実測図（縮尺1/60） …… 8
Fig. 7　井戸 SE08・12～17実測図（縮尺1/60） …… 9
Fig. 8　SX3006・3007B・3011・3013・3020A 実測図（縮尺1/40） ……10
Fig. 9　土壙 SK2020～2022・2025・2026・2028・2032・3005・3012　実測図（縮尺1/40） ……11
Fig. 10　調査区北側壁面及び溝SD2001土層図（縮尺1/80） ……12
Fig. 11　井戸 SE01・02出土遺物実測図（縮尺1/3） ……13
Fig. 12　井戸SE03～05出土遺物実測図（縮尺1/3） ……14
Fig. 13　井戸SE05出土遺物実測図（縮尺1/3） ……15
Fig. 14　井戸SE05出土遺物実測図（縮尺1/3） ……16
Fig. 15　井戸SE05出土遺物実測図（縮尺1/3） ……17

Fig. 16　井戸SE05～07出土遺物実測図（縮尺1/3）……18
Fig. 17　井戸SE07・08出土遺物実測図（縮尺1/3）……19
Fig. 18　井戸SE09・10出土遺物実測図（縮尺1/3）……20
Fig. 19　井戸SE10～12出土遺物実測図（縮尺1/3）……21
Fig. 20　井戸SE13・14出土遺物実測図（縮尺1/3）……22
Fig. 21　井戸SE15・17・18出土遺物実測図（縮尺1/3）……23
Fig. 22　井戸SE18出土遺物実測図（縮尺1/3）……24
Fig. 23　井戸SE18出土遺物実測図（縮尺1/3）……25
Fig. 24　SX1128・2129・2152～2155出土遺物実測図（縮尺1/3）……26
Fig. 25　SX3005・3011～3013出土遺物実測図（縮尺1/3）……27
Fig. 26　SX3013～3024出土遺物実測図（縮尺1/3）……28
Fig. 27　土壙SK2020・2021・2023・2024出土遺物実測図（縮尺1/3）……29
Fig. 28　土壙SK2025～2028出土遺物実測図（縮尺1/3）……30
Fig. 29　土壙SK2028～2030出土遺物実測図（縮尺1/3）……31
Fig. 30　土壙SK2031～2032・2035・3001・3002出土遺物実測図（縮尺1/3）……32
Fig. 31　土壙SK3005出土遺物実測図（縮尺1/3）……33
Fig. 32　土壙SK3006・3009・3012・3015出土遺物実測図（縮尺1/3）……34
Fig. 33　溝SD2001（上・中層）出土遺物実測図（縮尺1/3）……35
Fig. 34　溝SD2001（上・中層）出土遺物実測図（縮尺1/3）……36
Fig. 35　溝SD2001（上・中層）出土遺物実測図（縮尺1/3）……37
Fig. 36　溝SD2001（上・中層）出土遺物実測図（縮尺1/3）……38
Fig. 37　溝SD2001（上～下層）出土遺物実測図（縮尺1/3）……39
Fig. 38　Pit及び包含層他出土遺物実測図（縮尺1/3）……40
Fig. 39　2面下包含層出土遺物実測図（縮尺1/3）……41
Fig. 40　博多第66次調査出土貨銭①（縮尺1/1）……43
Fig. 41　博多第66次調査出土貨銭②（縮尺1/1……44

表　目　次

Tab. 1　博多第66次調査遺構一覧表（中世）……43
Tab. 2　博多第66次調査出土貨銭一覧表……45
Tab. 3　博多第66次調査出土青銅製品一覧表……45

第１章　はじめに

１．発掘調査に至る経過

博多区御供所町の祇園町交差点に面した東側の一角に飛栄産業株式会社による商業ビルが計画され、昭和62年９月11日に福岡市教育委員会埋蔵文化財課に対して、事前審査願いが申請された。計画面積は196.58㎡である。同地域は博多遺跡群として周知されている地域であり、南側の第28次調査では前方後円墳なども発見しており、周辺の調査成果からも遺構の存在が予想されたため、埋蔵文化財課では同年９月28日に試掘調査を実施した。この結果、鎌倉時代から江戸時代までの遺構・遺物の存在を確認した。平成２年３月９日に飛栄産業株式会社より、事業面積が424.69㎡に変更されたことによる事前審査願いが再度提出されたため書類審査及び協議を行い、現状保存が困難な商業ビル建設範囲についてのみ記録保存のための発掘調査を行うこととなった。調査は工期の関係と調査の安全確保のためＨ鋼打ち込み工事、及び表土の鋤取り工事等の条件整備を行った後、実施することとなった。

発掘調査は平成２年（1990）７月２日に開始し、平成２年（1990）９月29日に終了した。尚、表土、及び調査中の残土の搬出作業は飛栄産業株式会社のご協力をいただいた。

２．発掘調査の組織

調査委託	飛栄産業株式会社
調査主体	福岡市教育委員会文化財部（前文化部）埋蔵文化財課
調査総括	課長　柳田純孝（前任）
	第２係長　柳沢一男（前任）
調査・整理	主任文化財主事　井澤洋一
庶務	松延好文（前任）、吉田麻由美
試掘調査	下村智、大庭康時
調査・整理補助	吉田扶希子、牛房綾子、中西香、田中昭子
調査作業	井上八郎、内田修二、内野弘行、大橋善平、大屋哲二、熊本交伸、橘良平、塚副義一郎、西嶋武司、別府俊美、山口孝、山田良成、吉川春美、横尾泰広、石川洋子、石橋テル子、荻野敦子、小山田緑、川崎道子、倉光京子、坂本ハツ子、高野タエ、武田潤子、多田映子、橘知子、谷吉美、永井鈴子、西口キミ子、西嶋彰子、箱田香代子、福田小菊、堀タケ子、安田光代、脇山喜代子、
整理作業	荻野敦子、多田映子、西嶋彰子、箱田香代子、福田小菊、松枝礼子

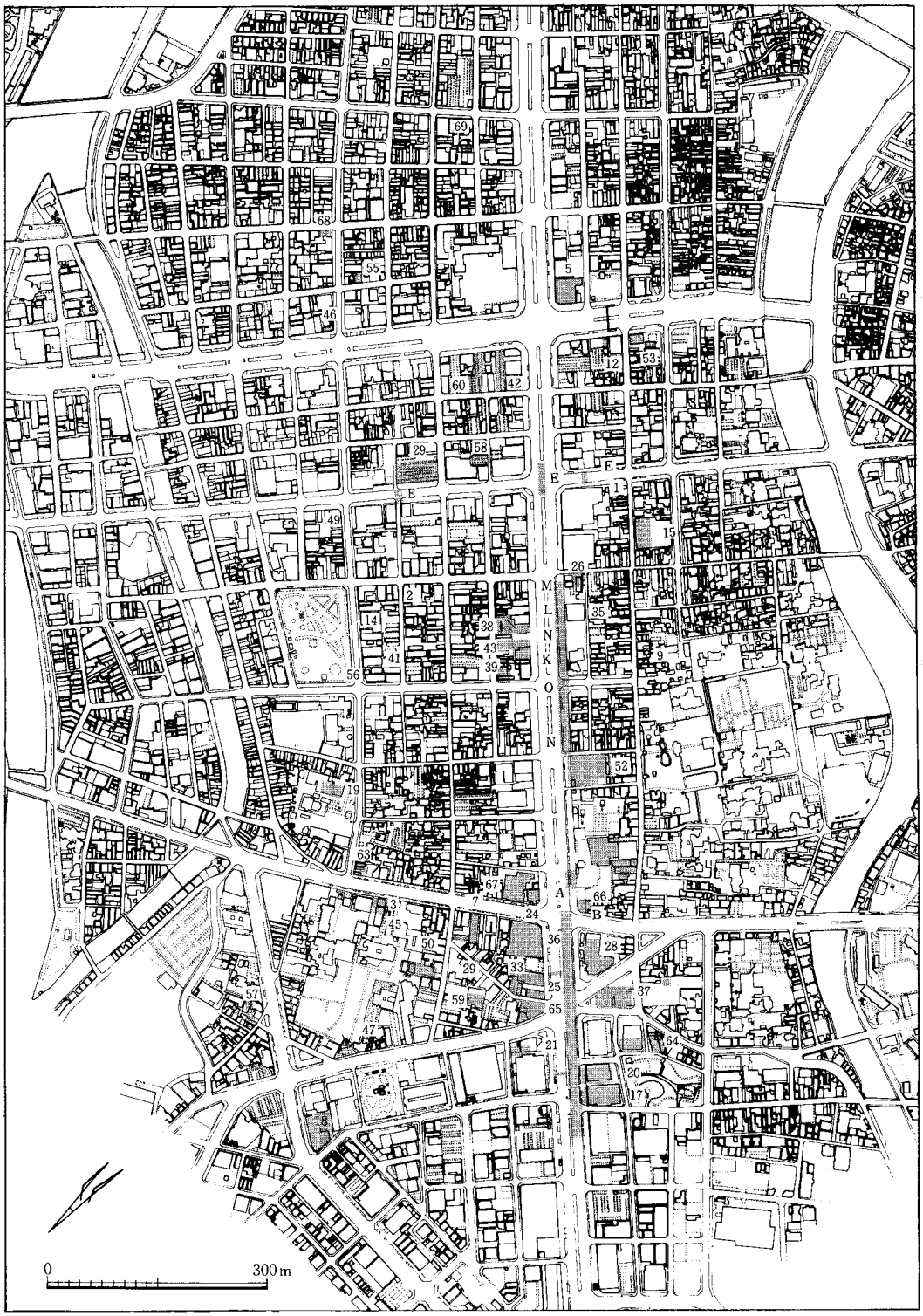


Fig. 1 博多遺跡群調査位置図（縮尺1/9.000）

第２章　調査の記録

１．試掘調査の概要

昭和62年９月28日に実施した。周辺では第28・31・37調査が行われているが、当該地はこれらの北側に位置している。従来の発掘調査によれば古墳時代から戦国時代までの遺構・遺物を検出している。

試掘調査は敷地の中央部分に南北方向のトレンチを設けた。このトレンチの長さは8.5ｍ、幅1.2ｍ、深さ３ｍを測る。トレンチ東側の土層観察では① 表土、② 瓦礫を含む攪乱層、③ 灰色砂質土、④ 黄褐色土、⑤ 灰黒色砂質土（包含層）、⑥ 黄色砂質土（地山）の層序となっている。①～④層までは盛土と考えられており、⑤層の灰黒色砂質土は数枚の文化層に分かれることを示唆している。トレンチの両端では黄色砂層を切り込んだ溝状の落ち込みがあり、覆土は灰黒色粘質土であった。又、北側でも土壙を検出している。試掘調査で出土した遺物は夥多しい量である。

２．調査経過

(1)　調査概要

発掘調査は平成２（1990）年７月２日から平成２年9月29日の期間に実施した。調査に先立っ

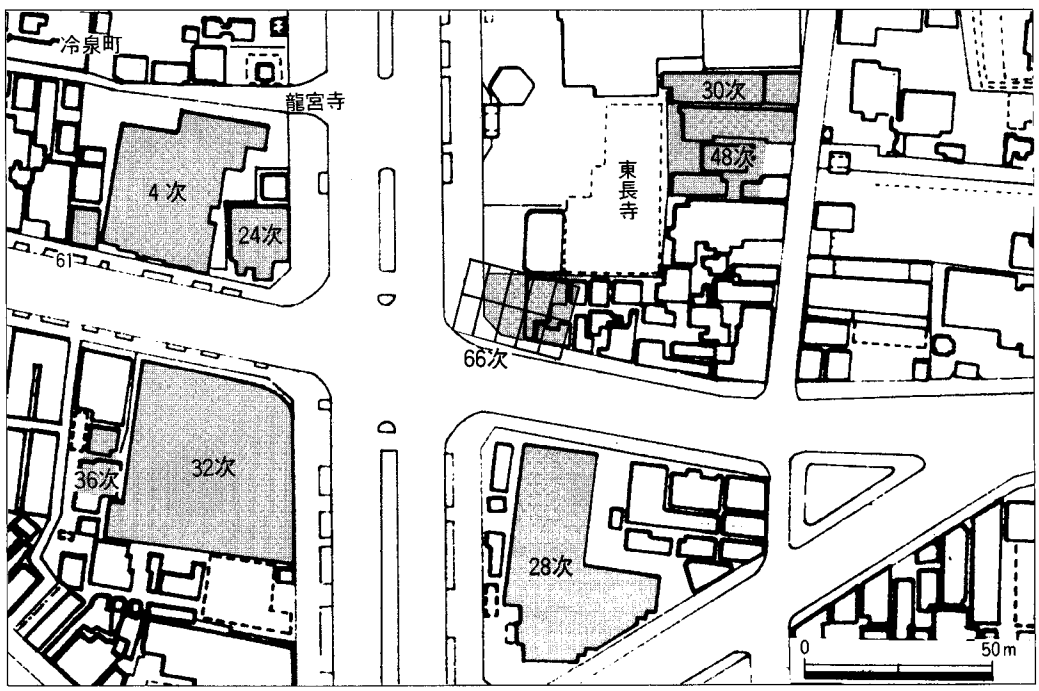


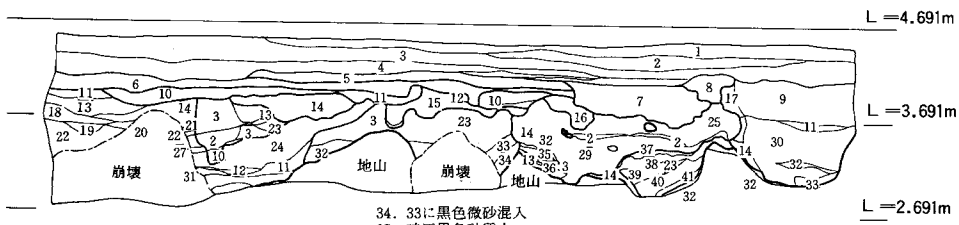
Fig. 2　博多遺跡第66次調査位置図（縮尺1/2.000）

て外周のフェンス工事、山留工事、表土の鋤取り工事が行われている。この鋤取り工事は試掘調査のデータに合わせて1.2mの深さまで、盛土層及び攪乱層を除去しており、この面の標高は約3.5mをはかる。これを便宜的に第1面とした。第2面は近世遺構や整地層と考えられる包含層を撤去した面を対象とした。遺構が複雑に切り合っていたため便宜的に地下げを行い、遺構検出が容易に行えるようにした面である。第3面は中世遺構を完掘・撤去した後に発見した遺構であるが、これも第2面と同一面から形成されている。

今回の調査範囲は建物部分に限定されたために未調査部分を残した。

(2) 土層

調査地点は砂丘上に立地しており、現在の地表面の標高は約4.7mを測る。地山は浜砂の砂堆層もしくは風成層である。遺構の切り合いが著しいことなどから、地山面は標高約3.4mの高さで部分的に検出できる。調査区東側の土層面は現地表面から約3.5m、標高約2.5mの深さまでの堆積状況や遺構の切り合い関係が観察できる。層序は上から順に① 黄茶色砂質、② 暗灰色砂質土、③ 黒灰褐色砂質土、④ ③よりも暗い砂質土、⑤ 明茶色微砂質土、⑦ 黒灰色砂質土である。これらの層は水平堆積しており、整地層と考えられる。①層はバラスが入っており、現代の表土、②～④層は江戸時代遺構の客土層であろう。⑤層の上面からは江戸時代の遺構が切り込まれており、⑤層又は⑥層は18世紀の生活面と見做すことができる。⑥層の下面も柱穴状、溝状の遺構が掘り込まれており、この面も江戸時代の生活面と考えられる。中世以前の遺構は⑦～⑪層の下位に存在する。いずれも江戸時代の遺構に削平を受けている。レベルでいえば、標高3.7m（−1.5m）前後に、中世遺構は検出できるが、調査区の西側に行くにしたがって近世遺構が多く、又深く掘り込まれており、実際の調査では標高2.4m（−2.6m）を第2面とせざるを得なかった。又、第1面は機械的に鋤取りを行っており、標高3.4mを遺構面とした。



調査区東壁土層名称
1. 黄茶色砂質土
2. 暗灰色砂質土
3. 黒灰褐色砂質土
4. 3より暗い
5. 明茶色微砂質土
6. 黄色微砂質土
7. 明黄茶色砂質土
8. 炭化物層
9. 暗灰褐色粘質土
10. 黒灰色砂質土
11. 黒色粘質土
12. 黒灰色粘質土
13. 暗茶色砂質土
14. 暗茶灰色砂質土
15. 灰褐色砂質土
16. 10より黄色をおびる
17. 暗灰色粘質土
18. 暗茶褐色砂質土
19. 暗灰白色粘質土
20. 暗黒褐色粘質土
21. 20よりも赤味をおびる
22. 暗黒灰色砂質土
23. 暗灰褐色砂質土
24. 暗茶灰褐色砂質土
25. 暗青灰色粘質土
26. 暗灰茶色粘質土
27. 26より黄色をおびる
28. 明白色粗砂層
29. 明黄色砂質土に黒灰色砂質土混入
30. 暗茶灰色粘質土
31. 12に暗茶色微砂混入
32. 明茶色微砂層
33. 暗茶色微砂層
34. 33に黒色微砂混入
35. 暗灰黒色砂質土
36. 13に黒色粘質土混入
37. 黄灰色砂質土
38. 黄灰黒色砂質土
39. 黄茶色砂層
40. 暗黄白色砂層
41. 暗茶灰色砂層、炭化物を含む

Fig. 3 調査区東壁面土層図（縮尺1/80）

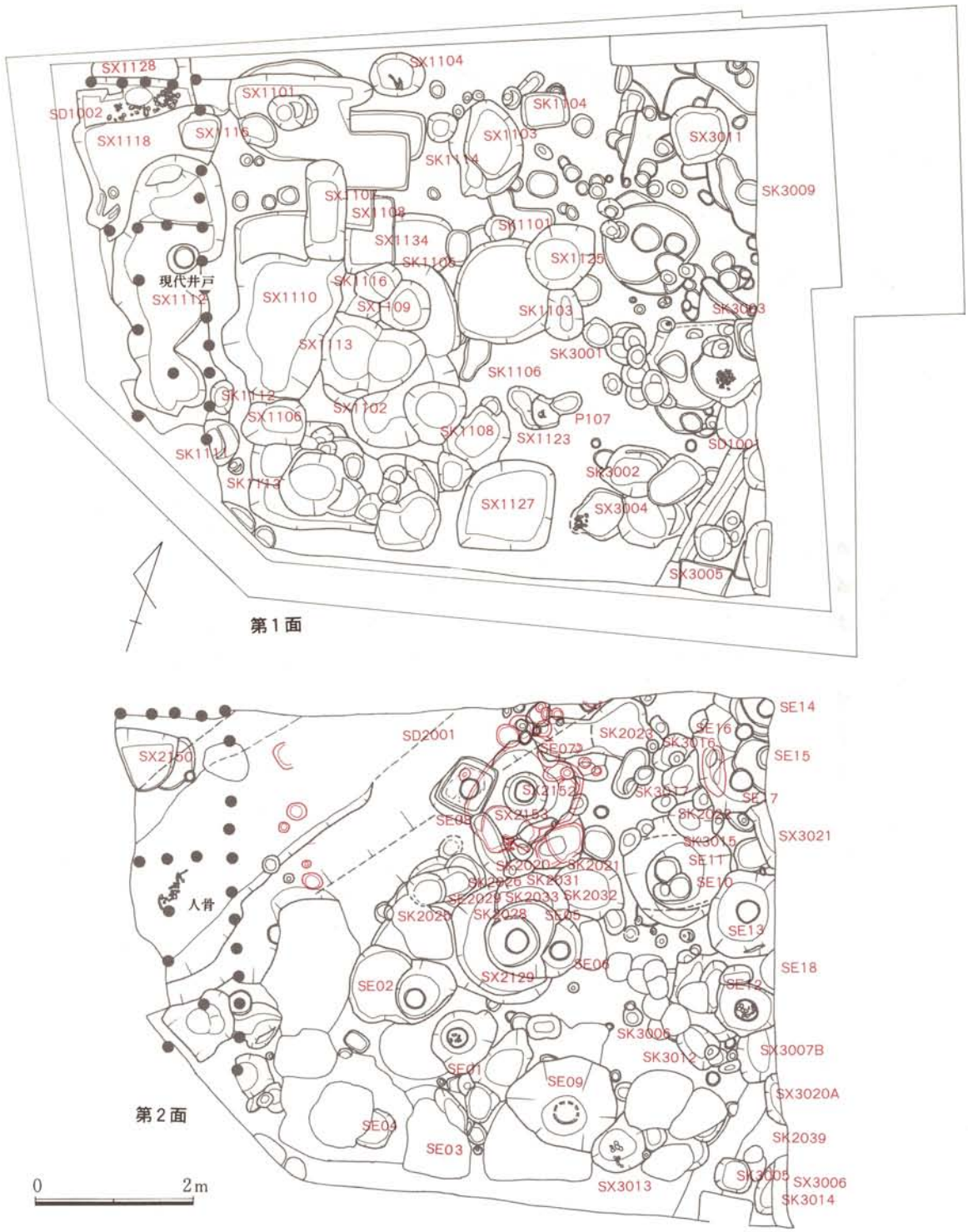


Fig. 4 第１・２面遺構配置図（縮尺1/200）

4．第１～３面の調査概要（Fig. 4）

(1) 第１面の調査（Fig. 4）

標高約3.5ｍを測る。第１面は鋤取り工事で機械的に1.2ｍまで地下げされた面である。地山の砂層は検出できない。主に近世遺構が密集して重複しており、一部に中世遺構 SE01の掘り方を検出した。遺構面の西側にはシートパイルが集中して打ち込まれている。

遺構は土壙、室状土壙、井戸、溝、柱穴などであるが、土壙は規模が大きく、廃棄坑として利用されたものである。特に西側では、中世の溝を大きな攪乱土壙が破壊している。井戸は素掘りが多く、SX1104からは鯨骨と思われる骨が、又、SX1127からは鮫の脊椎骨が出土した。これらの近世遺構の時期は17～19世紀の年代幅をもっている。

(2) 第２面の調査（Fig. 4）

遺構面の標高は約3.5～3.8ｍを測る。第２面の遺構面は暗黄褐色砂質土、又は暗灰色砂質土である。近世遺構及び整地層を完全に除去した面を第２面とした。遺構の西側及び南側は、近世遺構によって中世遺構は削平を受けている。遺構は北東側が遺存状態が良く、ここでは更に遺構面を２面に分離することができた。この間を整地層と考え、第２面下包含層として遺物の取上げを行った。検出した遺構は井戸が多く、他には土壙、溝、柱穴等がある。井戸は全て素掘りである。土壙は形状、深さ共に規格性がない。掘立柱建物は検出できなかった。遺構の時期は出土遺物により11世紀後半～13世紀までが考えられる。第２面包含層の土師器は13世紀後半時期を示している。

(3) 第３面の調査（Fig. 4）

第３面は中世遺構を全て撤去した後、地山の砂層上面で検出した。標高は2.26ｍを測るが、中世遺構に削平を受けており、元来の遺構面は中世遺構と大差ないように思える。遺構は井戸の他、柱穴を検出したが、遺存状態は悪く、特に井戸は溝 SD2001に切られ、基底部分のみが遺存する状態であった。時期は井戸 SE08出土遺物より、８世紀中頃を考えたい。

5．遺構・遺物各説

(1) 検出遺構

中世の遺構は井戸18、土壙11、溝１、Pit 多数である。

井戸（SE）は近世遺構及び切り合い関係により遺存状態は悪い。いずれも素掘りの井戸で、井筒には木桶を用いている。木桶を確認した井戸は SE01・02・05・06・07・09・11に及ぶが、いずれも１～２段であった。井戸底部には曲物等を据えた痕跡はない。井戸掘り方の平面形は不整円形又は不整楕円形を呈し、長径は423～220㎝を測る。深さは256～128㎝を測り、基底部の標高は1.4～０ｍである。井筒の直径は85～54㎝を測り、SE01は最大の現存高は3.8ｍを測る。

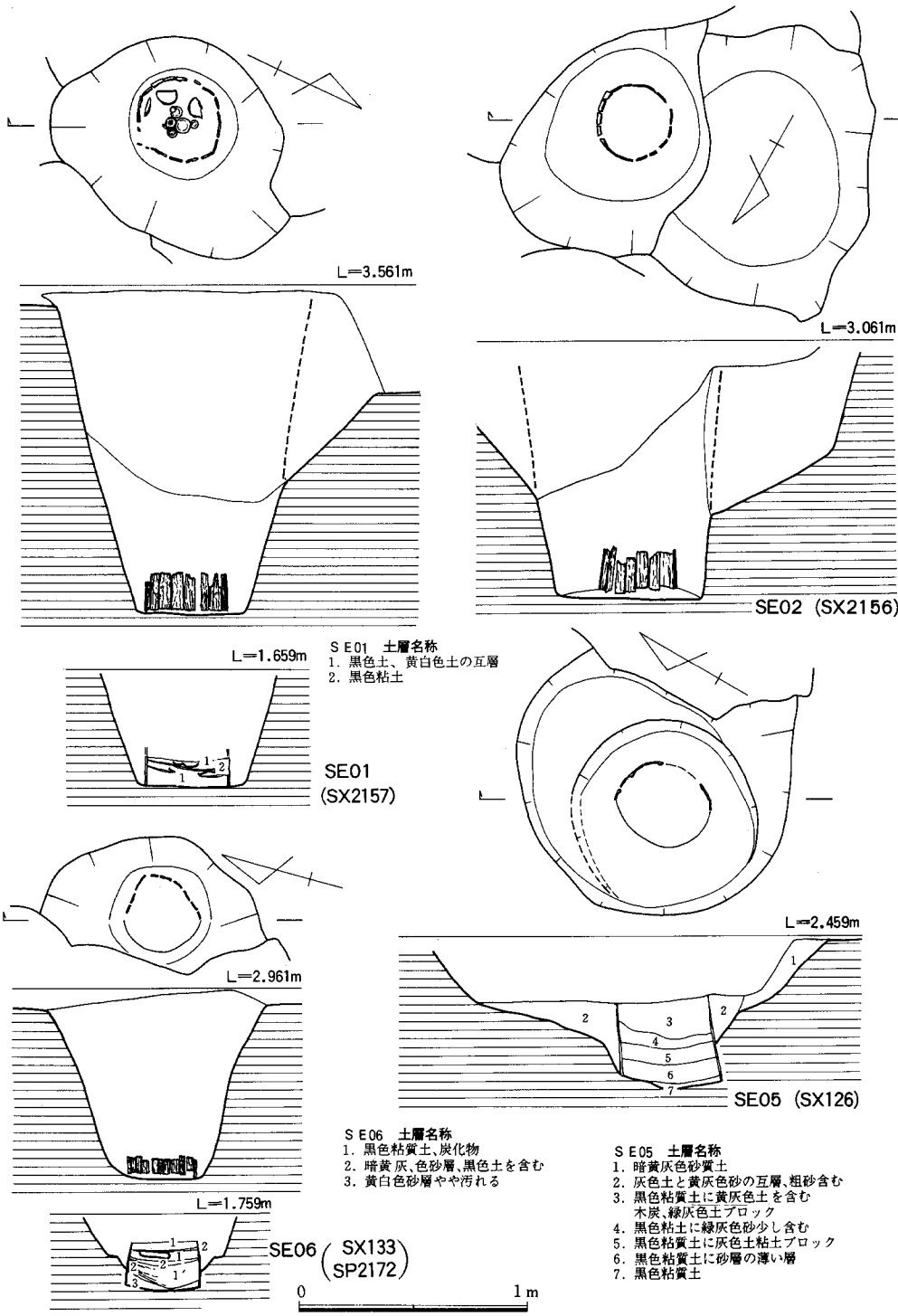


Fig. 5 井戸 SE01・02・05・06実測図（縮尺1/60）

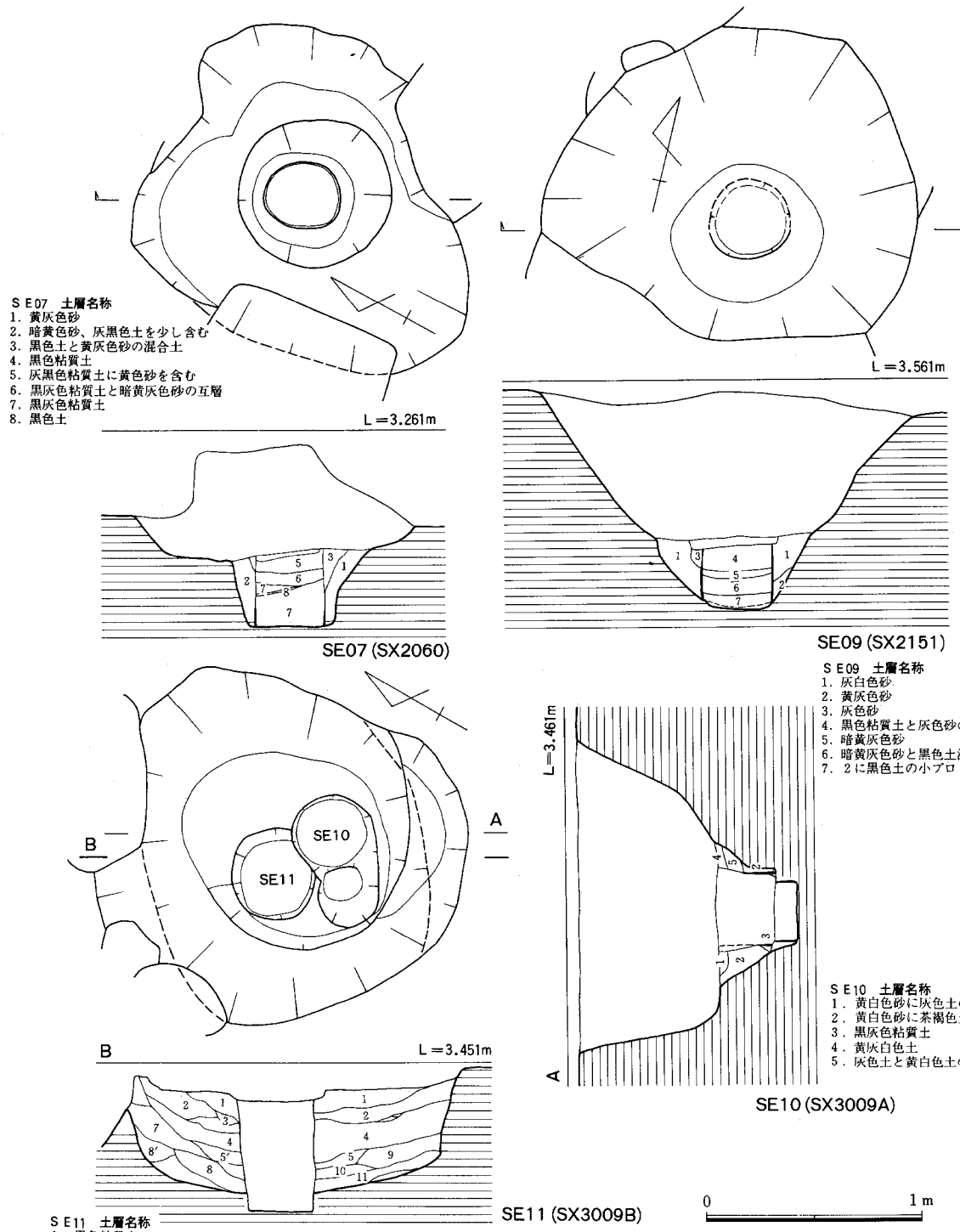
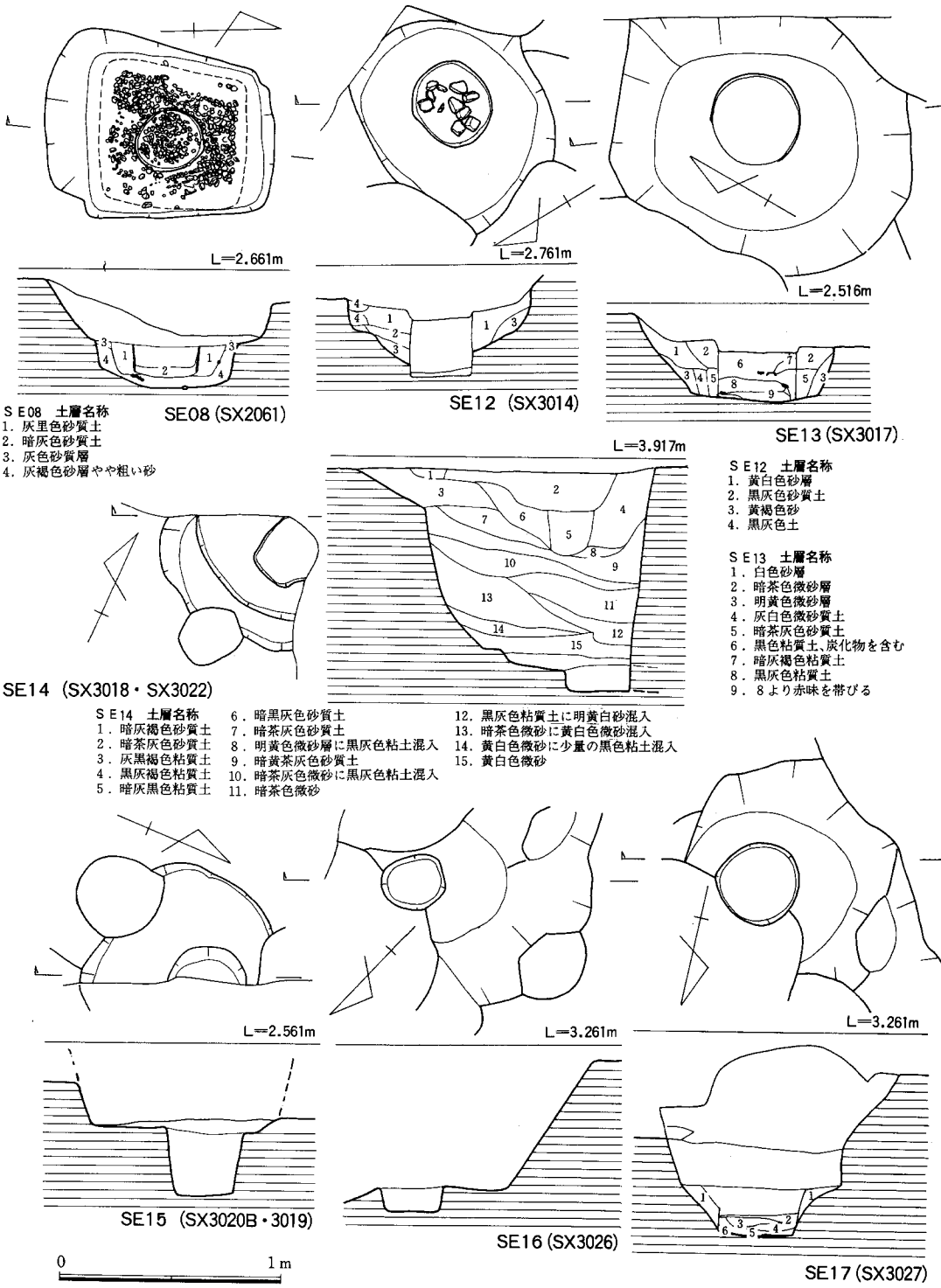


Fig. 6 井戸 SE07・09～11実測図（縮尺1/60）



SE08 土層名称
1. 灰里色砂質土
2. 暗灰色砂質土
3. 灰色砂質層
4. 灰褐色砂層やや粗い砂

SE12 土層名称
1. 黄白色砂層
2. 黒灰色砂質土
3. 黄褐色砂
4. 黒灰色土

SE13 土層名称
1. 白色砂層
2. 暗茶色微砂層
3. 明黄色微砂層
4. 灰白色微砂質土
5. 暗茶灰色砂質土
6. 黒色粘質土、炭化物を含む
7. 暗灰褐色粘質土
8. 黒灰色粘質土
9. 8より赤味を帯びる

SE14 土層名称
1. 暗灰褐色砂質土
2. 暗茶灰色砂質土
3. 灰黒褐色粘質土
4. 黒灰褐色粘質土
5. 暗灰黒色粘質土
6. 暗黒灰色砂質土
7. 暗茶灰色砂質土
8. 明黄色微砂層に黒灰色粘土混入
9. 暗黄茶灰色砂質土
10. 暗茶灰色微砂に黒灰色粘土混入
11. 暗茶色微砂
12. 黒灰色粘質土に明黄白砂混入
13. 暗茶色微砂に黄白色微砂混入
14. 黄白色微砂に少量の黒色粘土混入
15. 黄白色微砂

Fig. 7 井戸 SE08・12～17実測図（縮尺1/60）

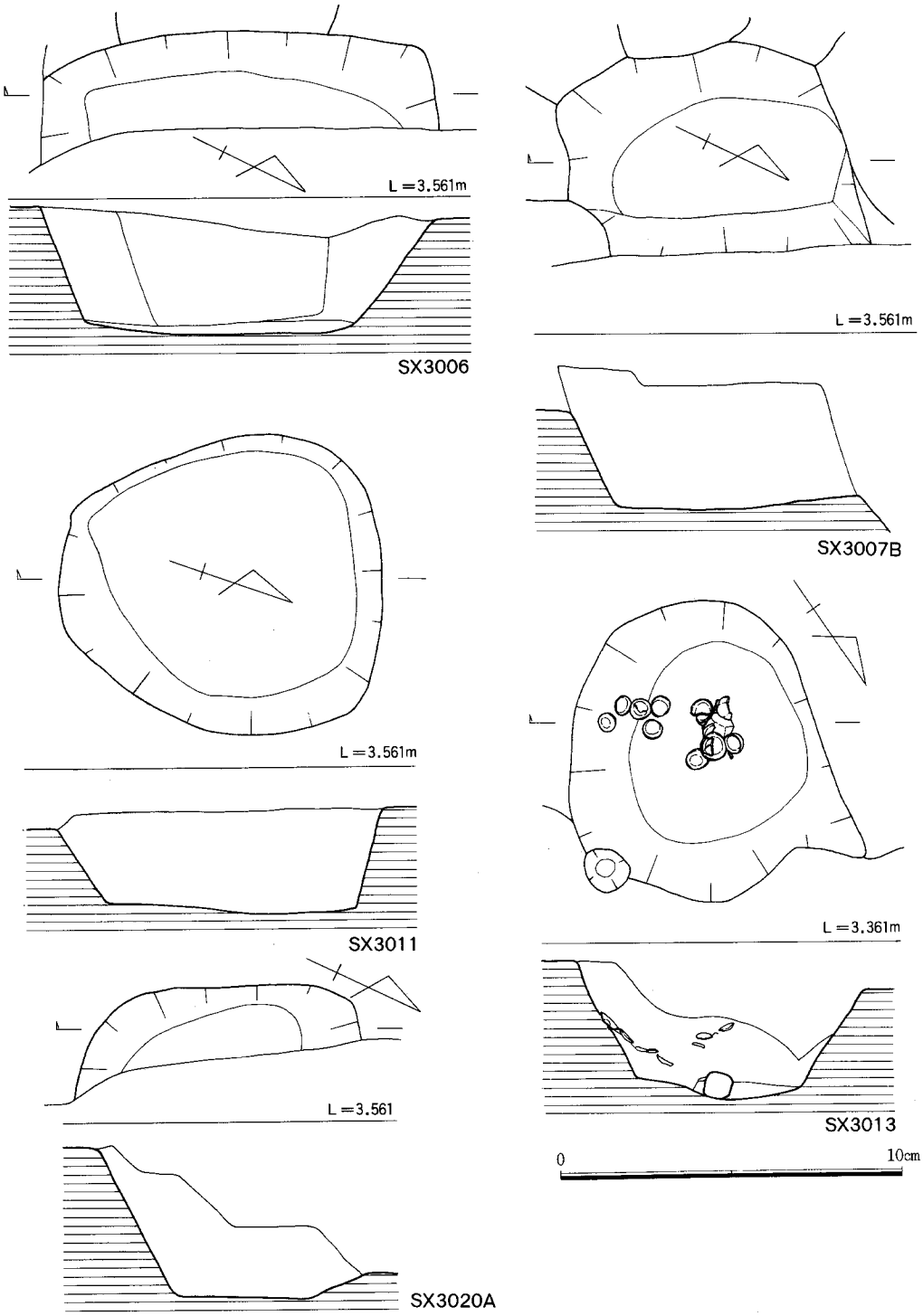


Fig. 8　土壙 SX3006・3007B・3011・3013・3020A　実測図（縮尺1/40）

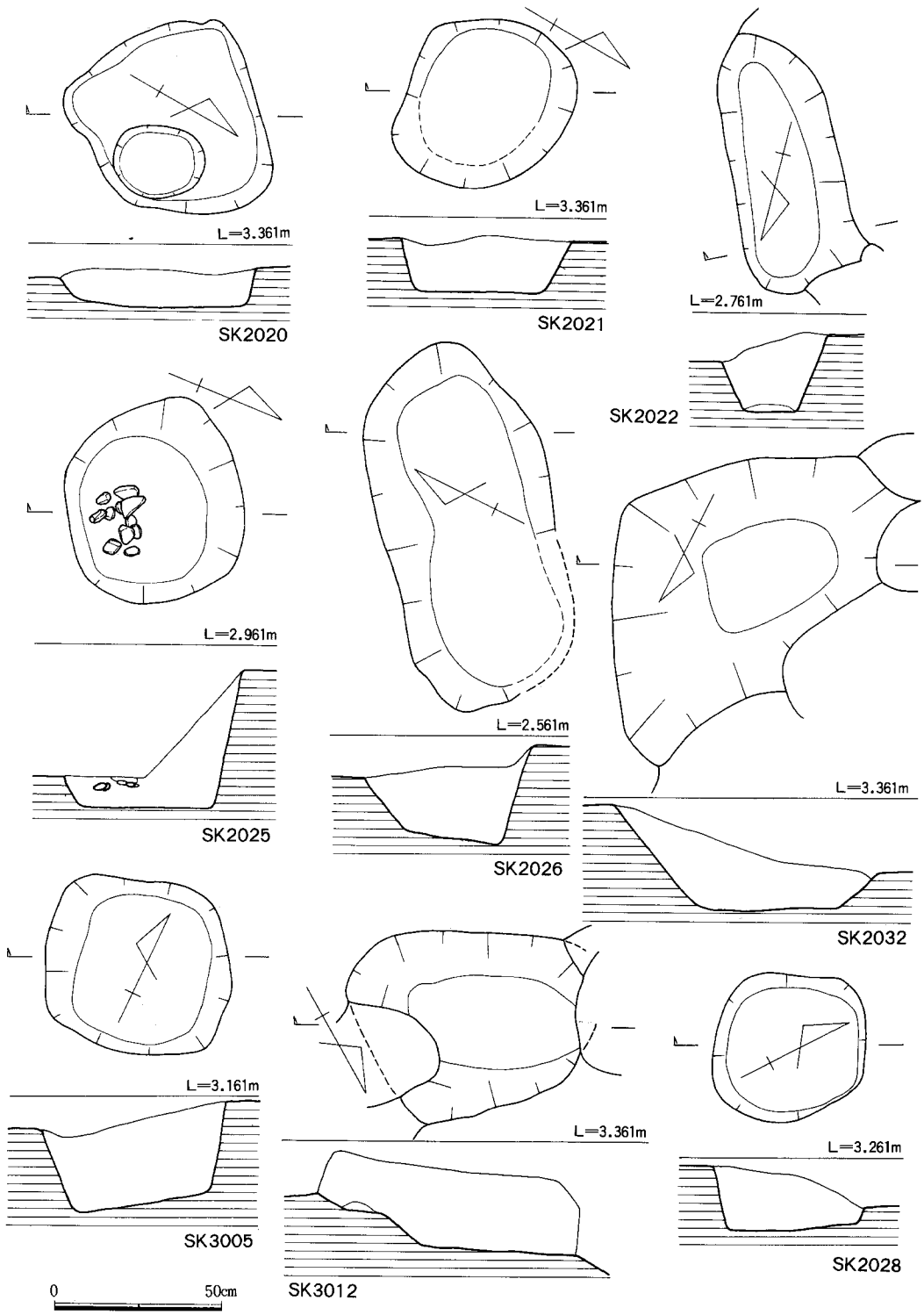


Fig. 9 土壙 SK2020～2022・2026・2028・2032・3005・3012　実測図（縮尺1/40）

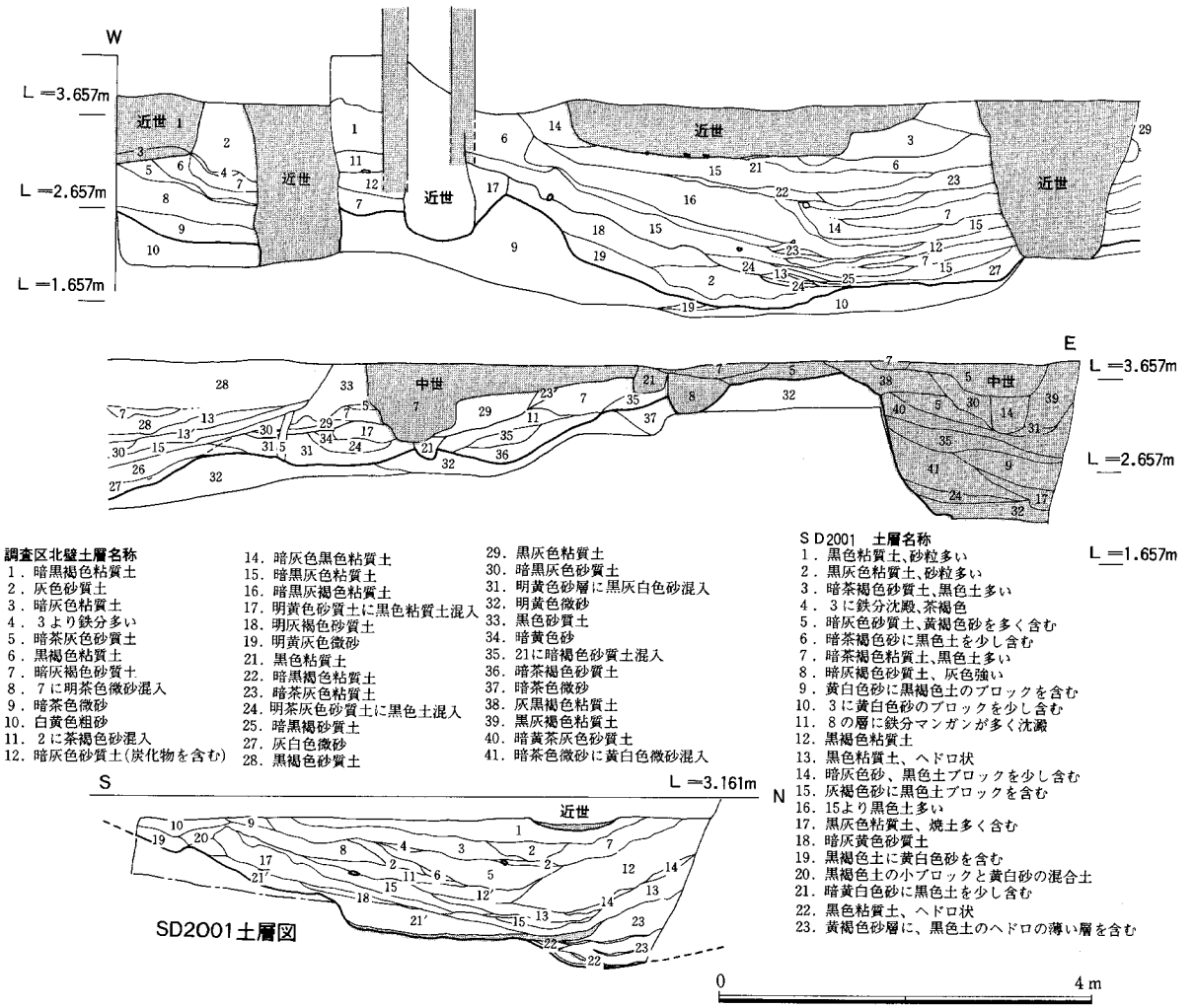


Fig. 10　調査区北側壁面及び溝 SD2001土層図（縮尺1/80）

木桶に用いられた板材は18～20枚を数える。SE01に用いられた板材の厚さは1.3cm、板幅は7～12cmを測る。

SE01の井筒下位から鎮めの祭祀土器が出土した。これらは土師器小皿、坏、白磁皿2、鉄製刀子1、曲物の底板である。

土壙（SK）は切り合い関係のため不整長方形、又は円形を呈している。断面形は逆梯形又は摺鉢状を呈し、最大規模は長さ212cm、最小の規模は長さ83cmを測る。遺物は糸切り底の土師器を中心に白磁・青磁が出土する。SK3014は掘り方規模から井戸であろう。

その他の遺構（SX）は井戸、又は土壙になると思われるが、規模が不明である。SX2155・2068はSE05と切り合い関係にあって平面形が不整形を呈し、SX2129の最大長約240cmを測る。SX3002・3003・3013は近世遺構に切られている。SX3013は平面形が不整円形を呈しており、最大の深さ80.5cmを測る。断面形は摺鉢状を呈し、糸切り底土師器の坏が多数出土した。

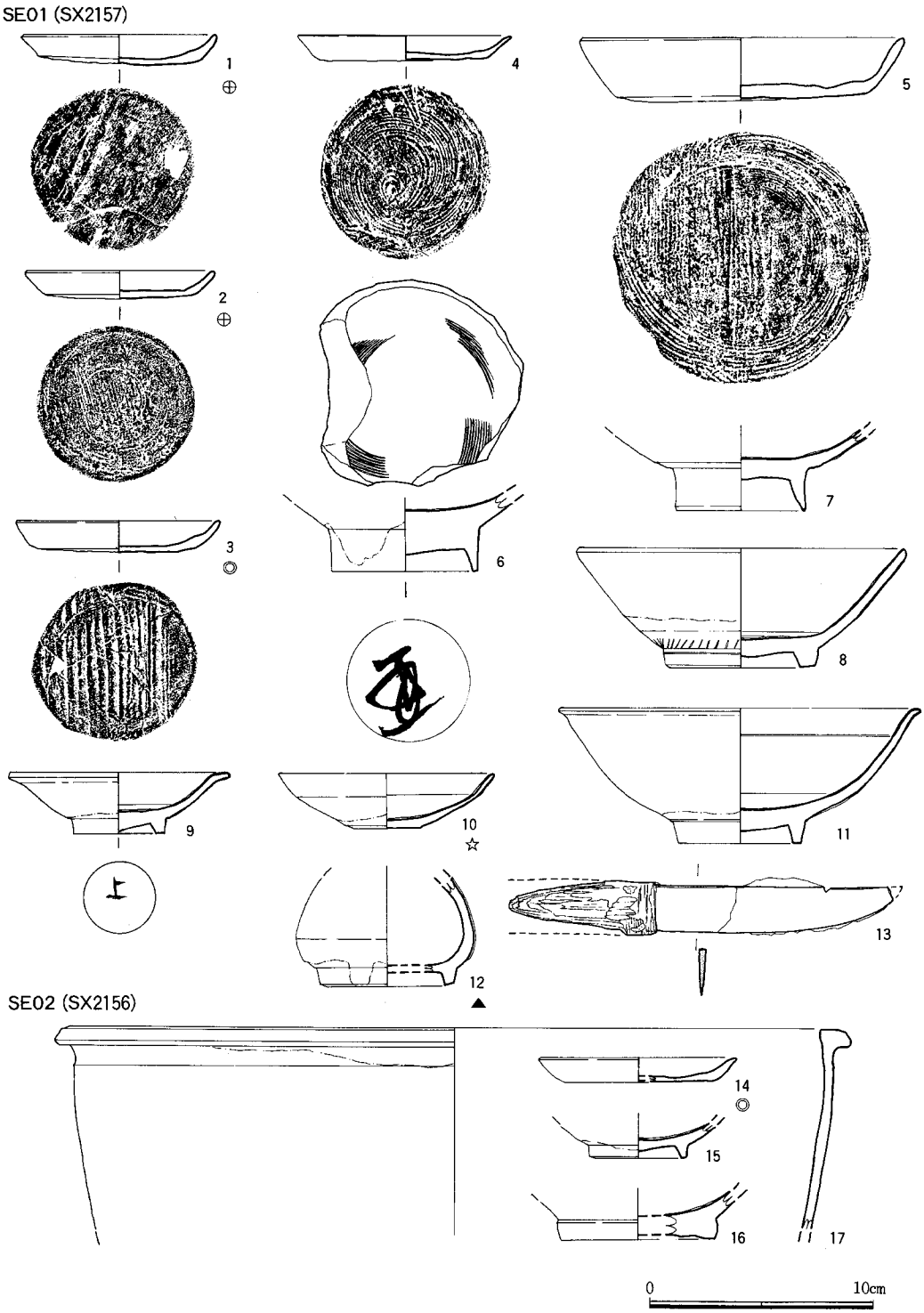


Fig. 11　井戸 SE01・02出土遺物実測図（縮尺1/3）

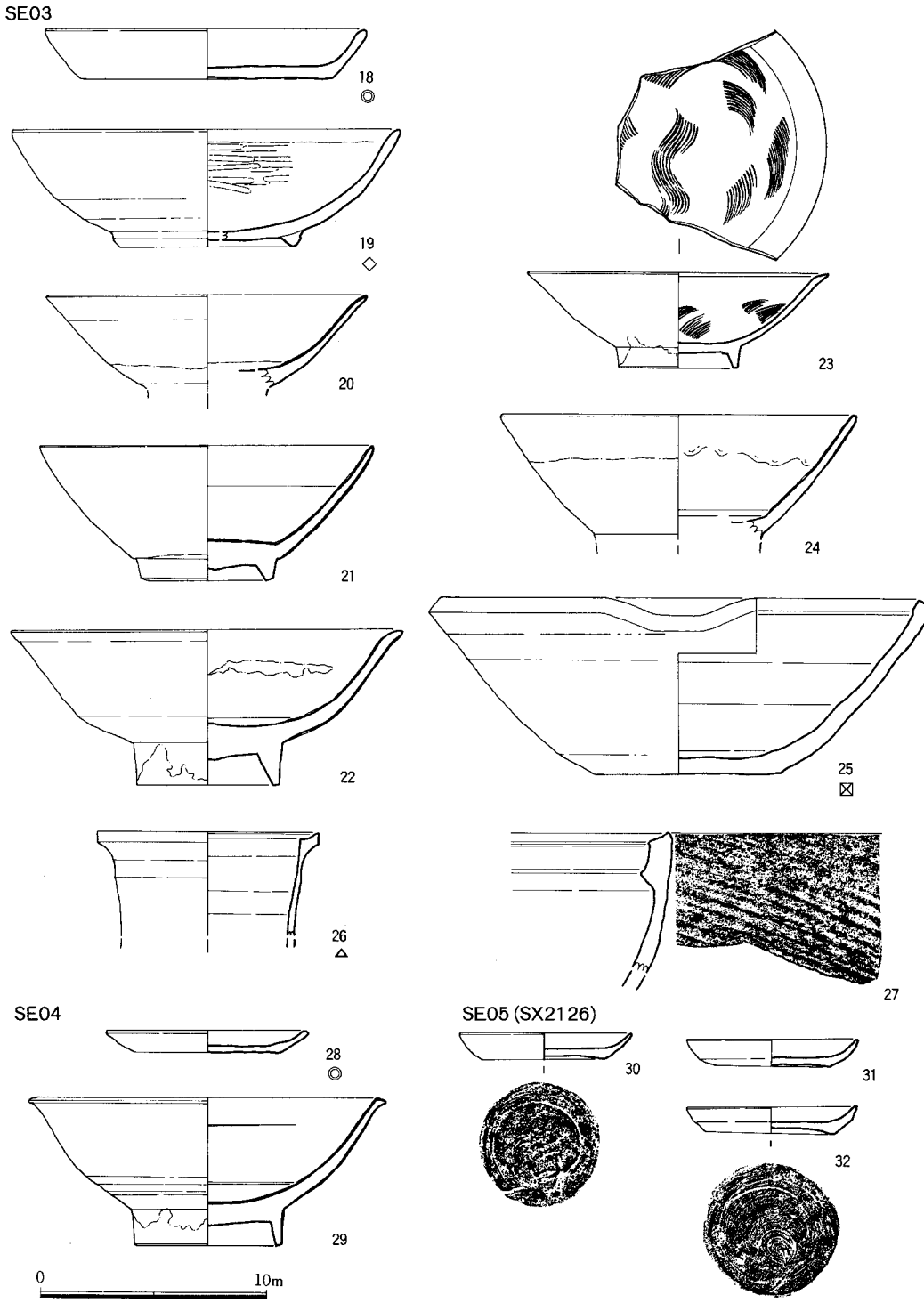


Fig. 12　井戸 SE03～05出土遺物実測図（縮尺1/3）

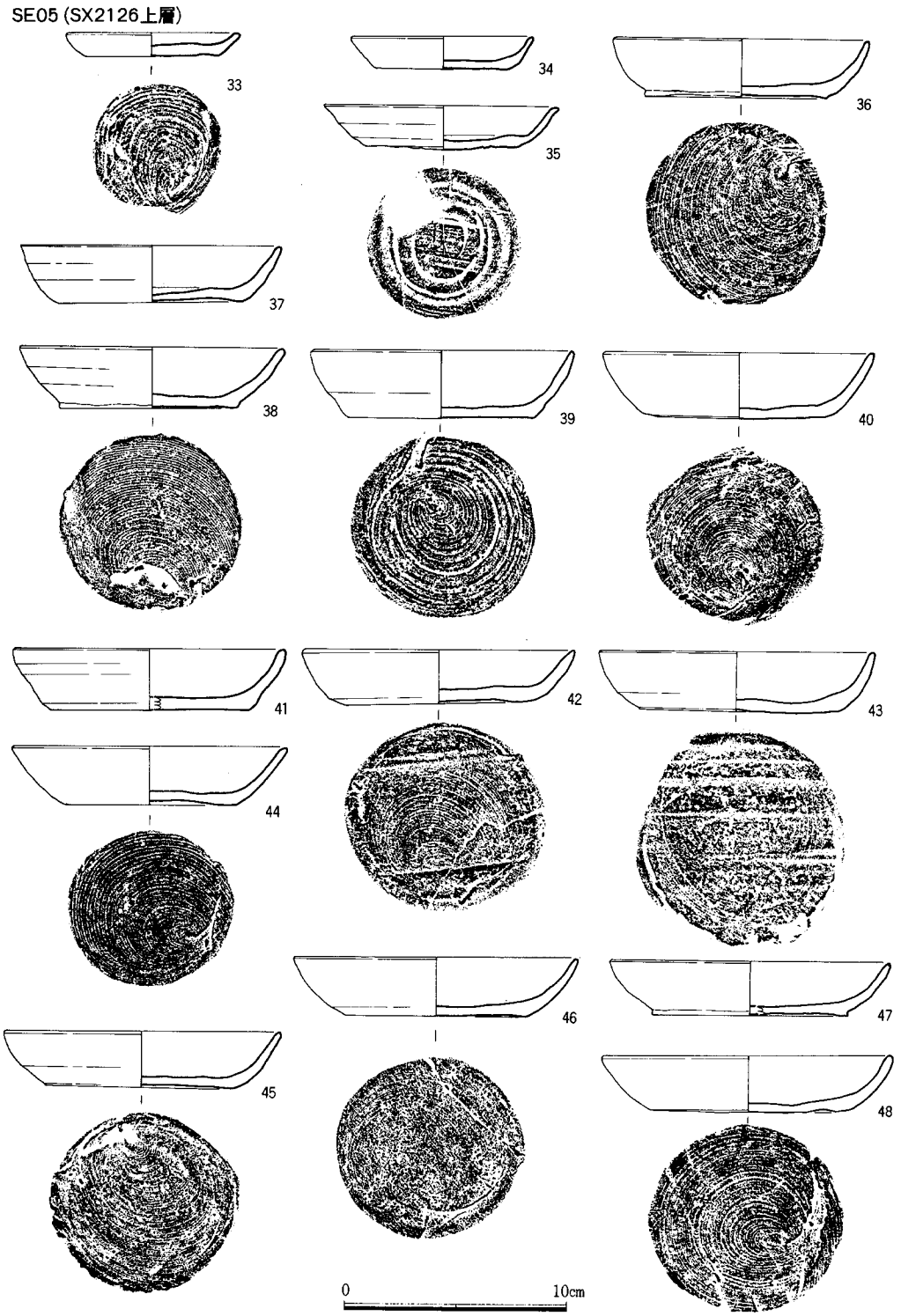


Fig. 13 井戸 SE05出土遺物実測図（縮尺1/3）

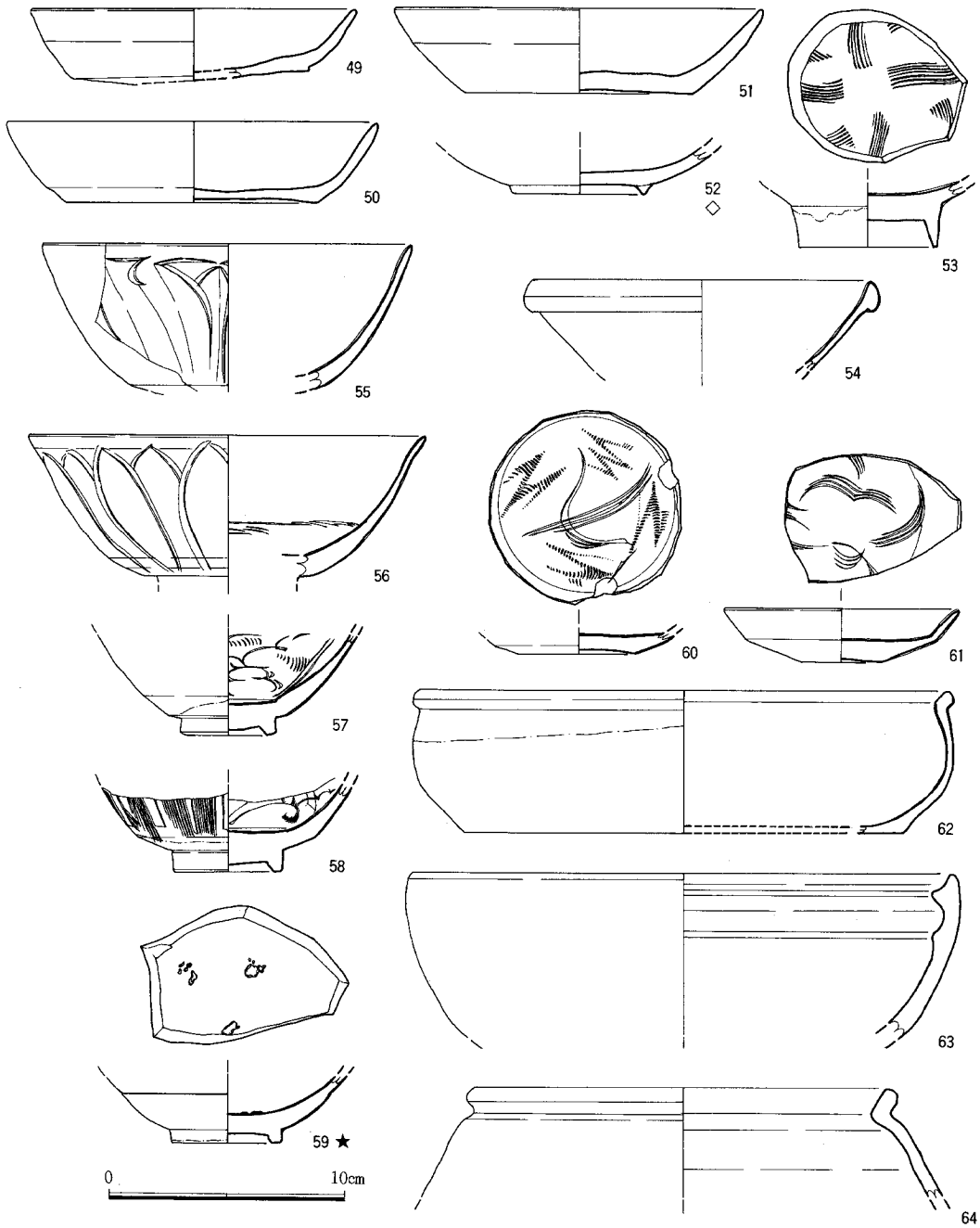


Fig. 14　井戸 SE05出土遺物実測図（縮尺1/3）

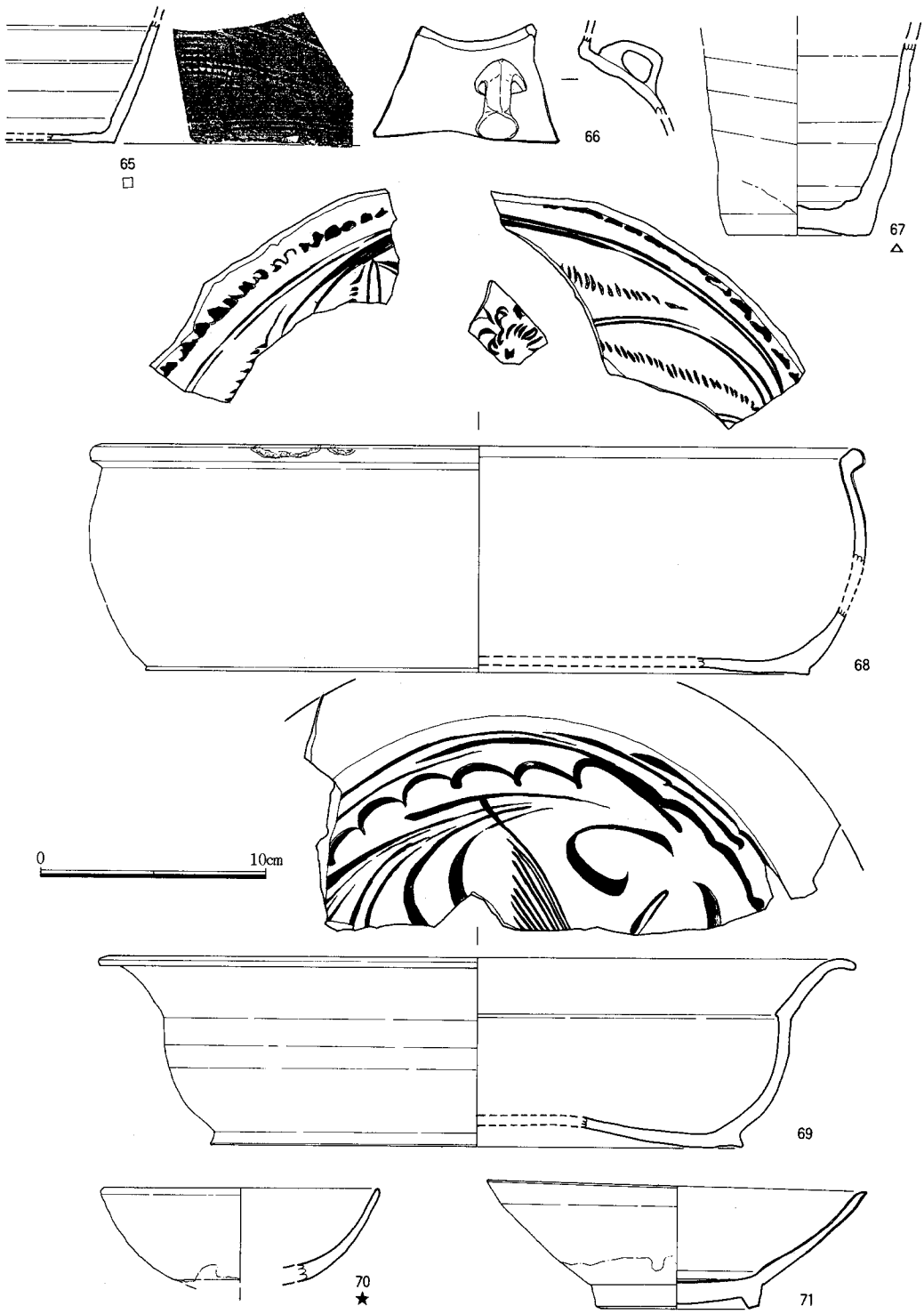


Fig. 15 井戸 SE05出土遺物実測図（縮尺1/3）

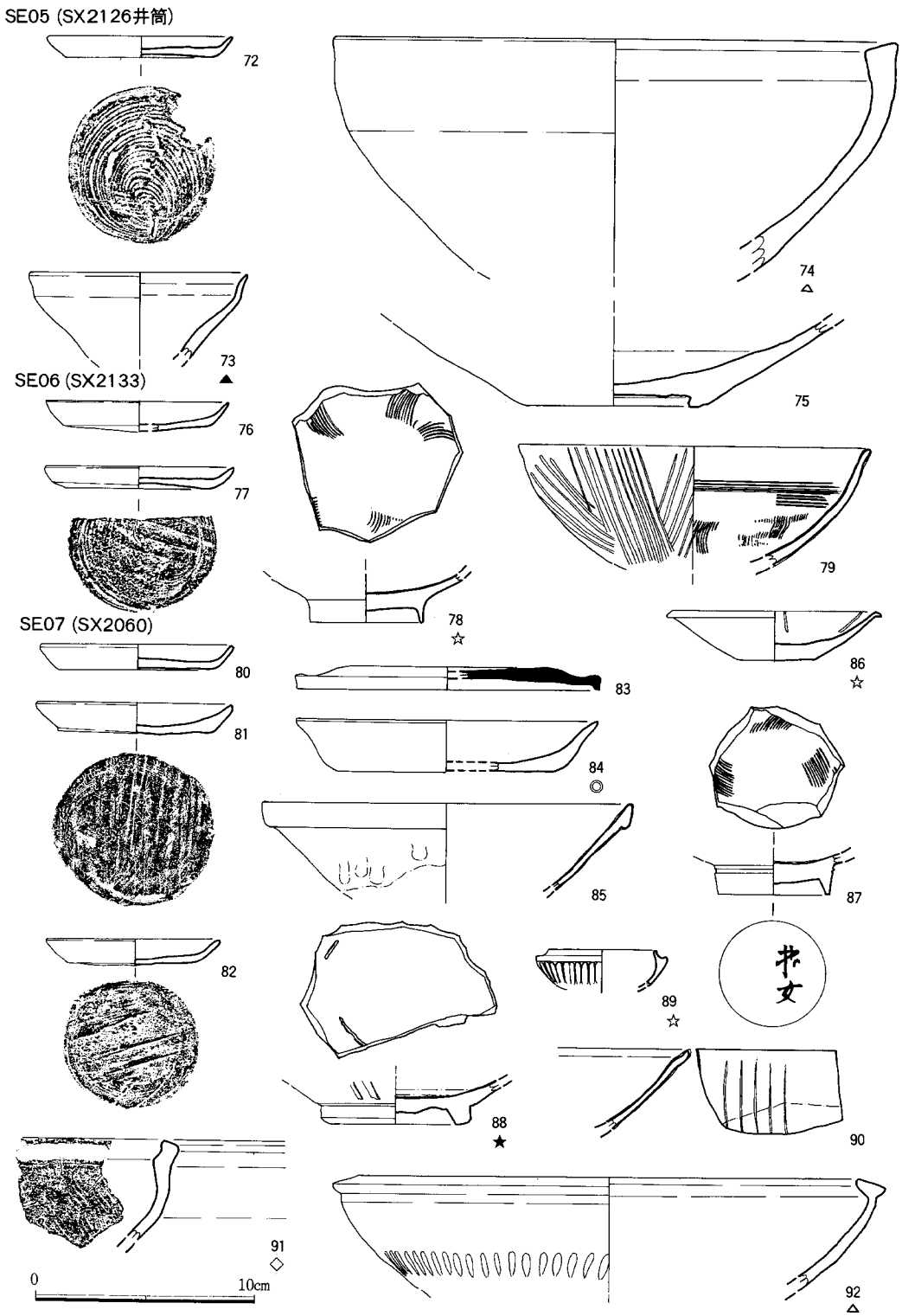


Fig. 16 井戸 SE05～07出土遺物実測図（縮尺1/3）

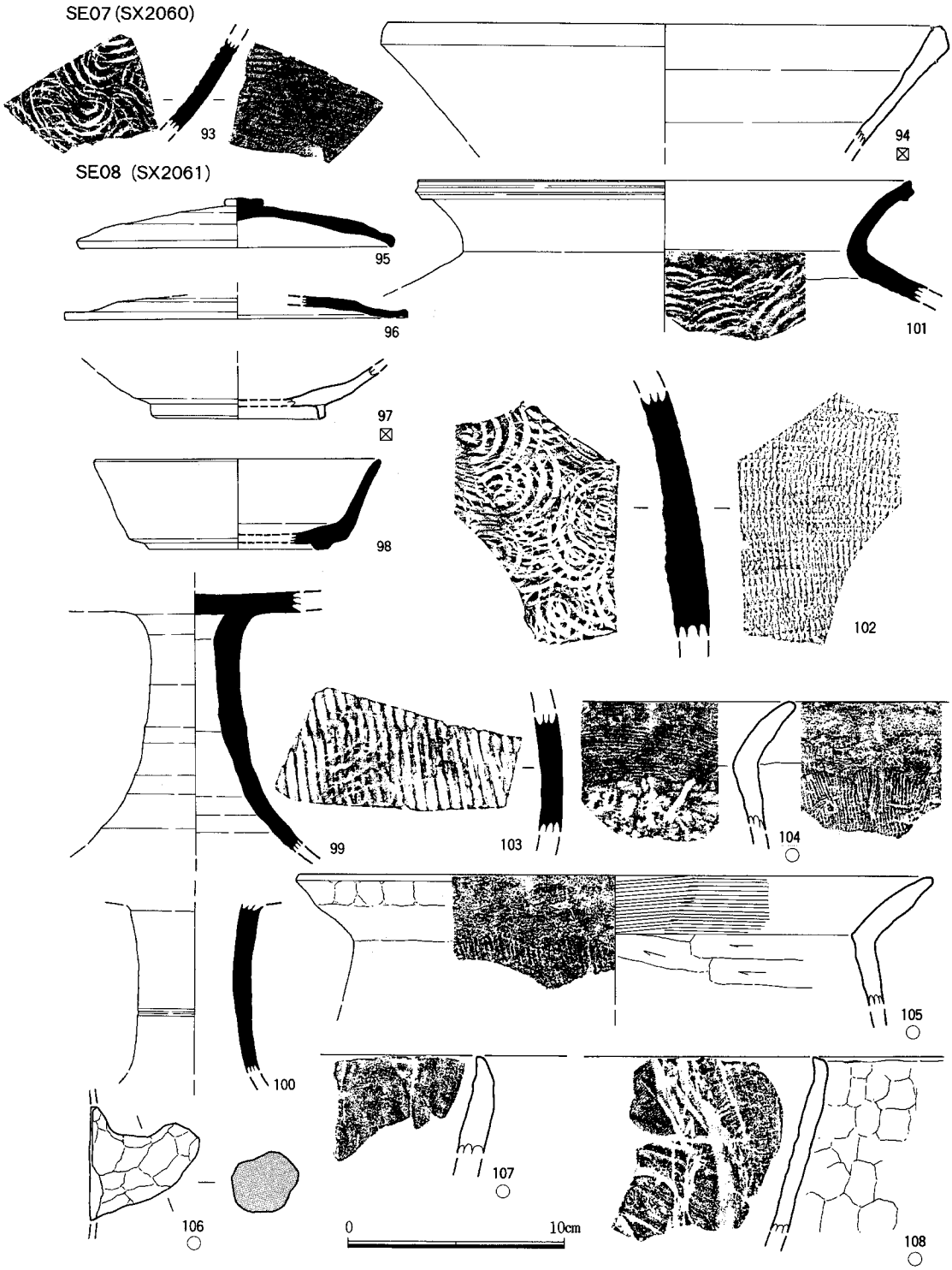


Fig. 17 井戸 SE07・08出土遺物実測図（縮尺1/3）

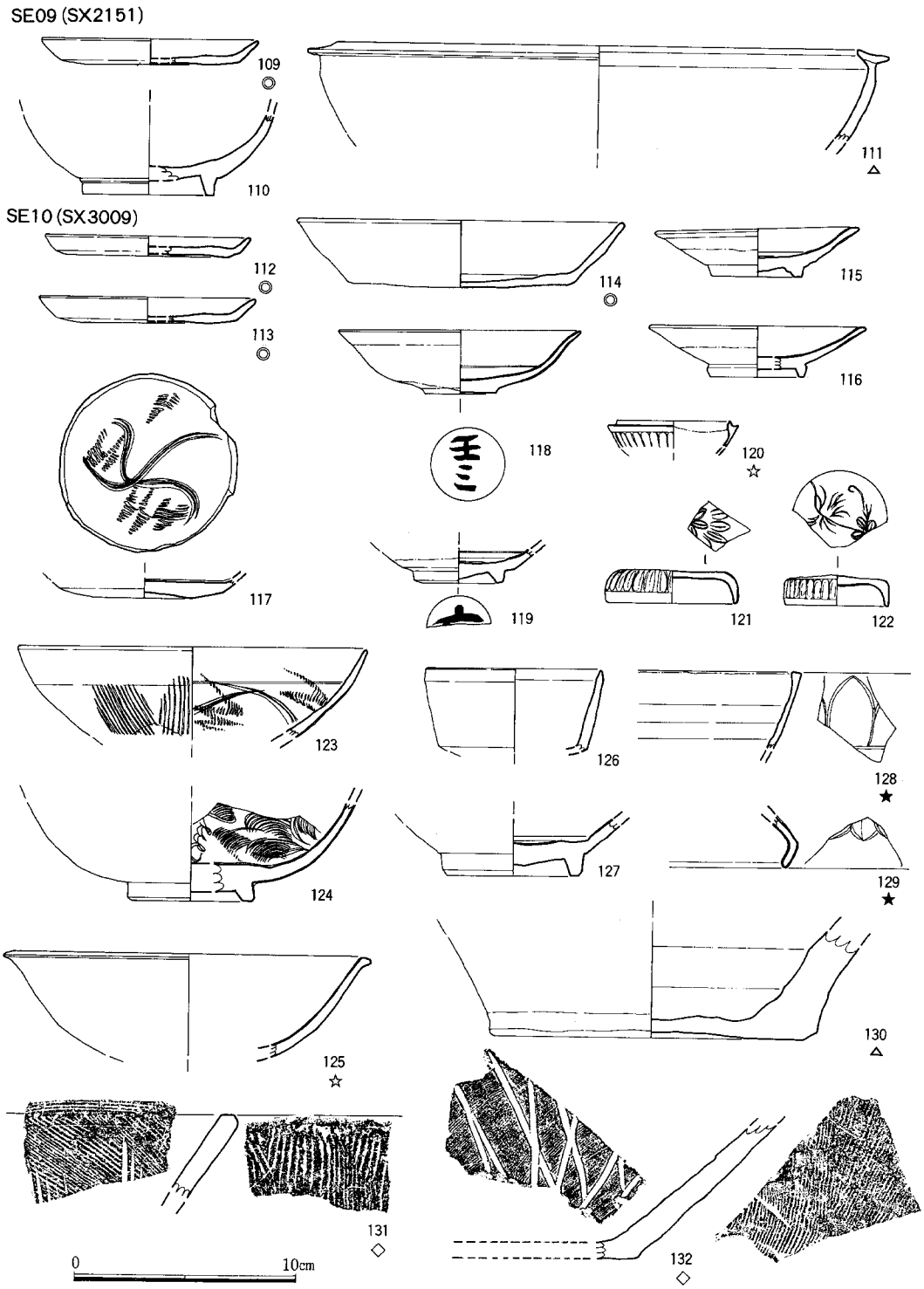


Fig. 18　井戸 SE09・10出土遺物実測図（縮尺1/3）

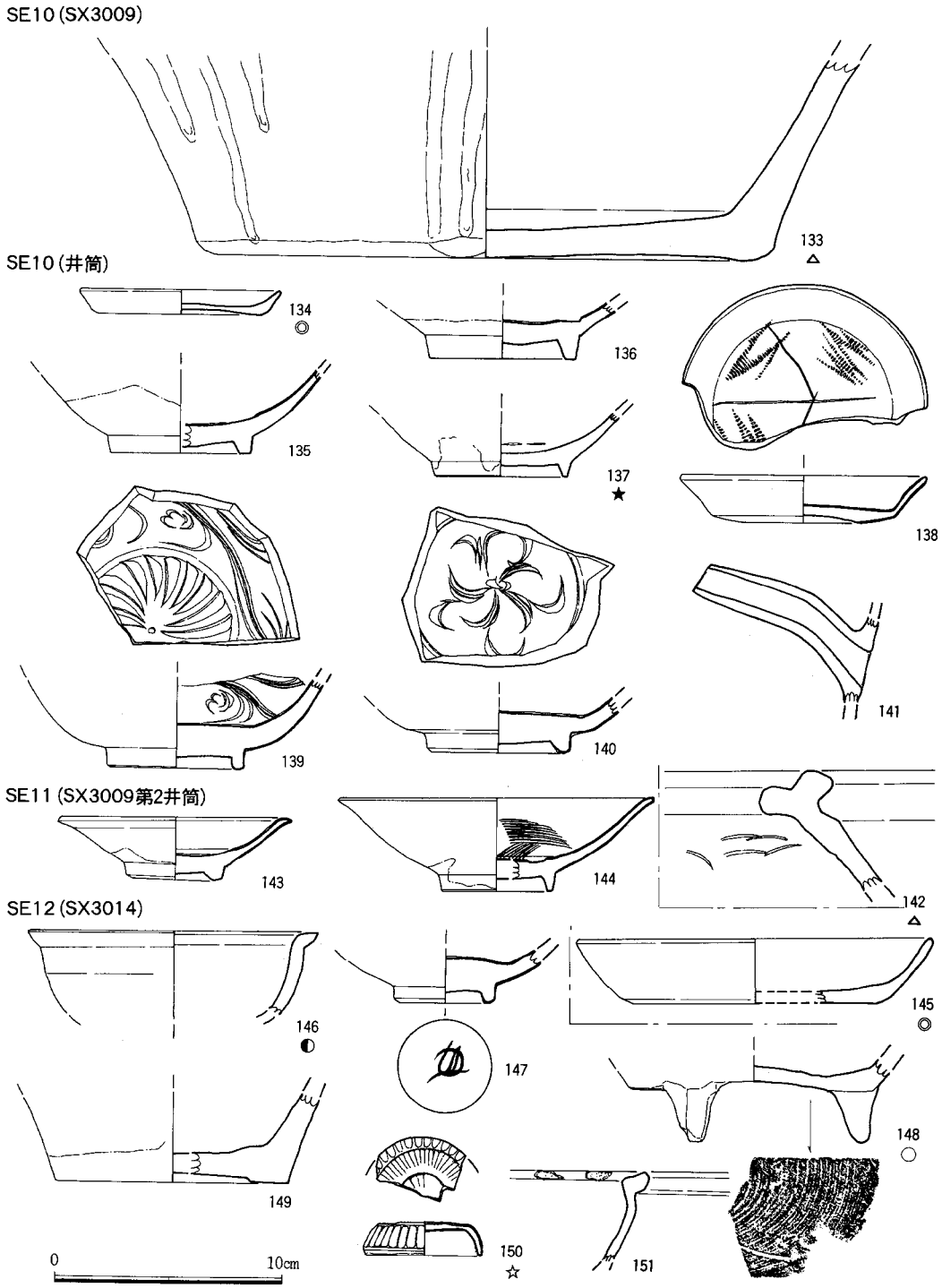


Fig. 19 井戸 SE10～12出土遺物実測図（縮尺1/3）

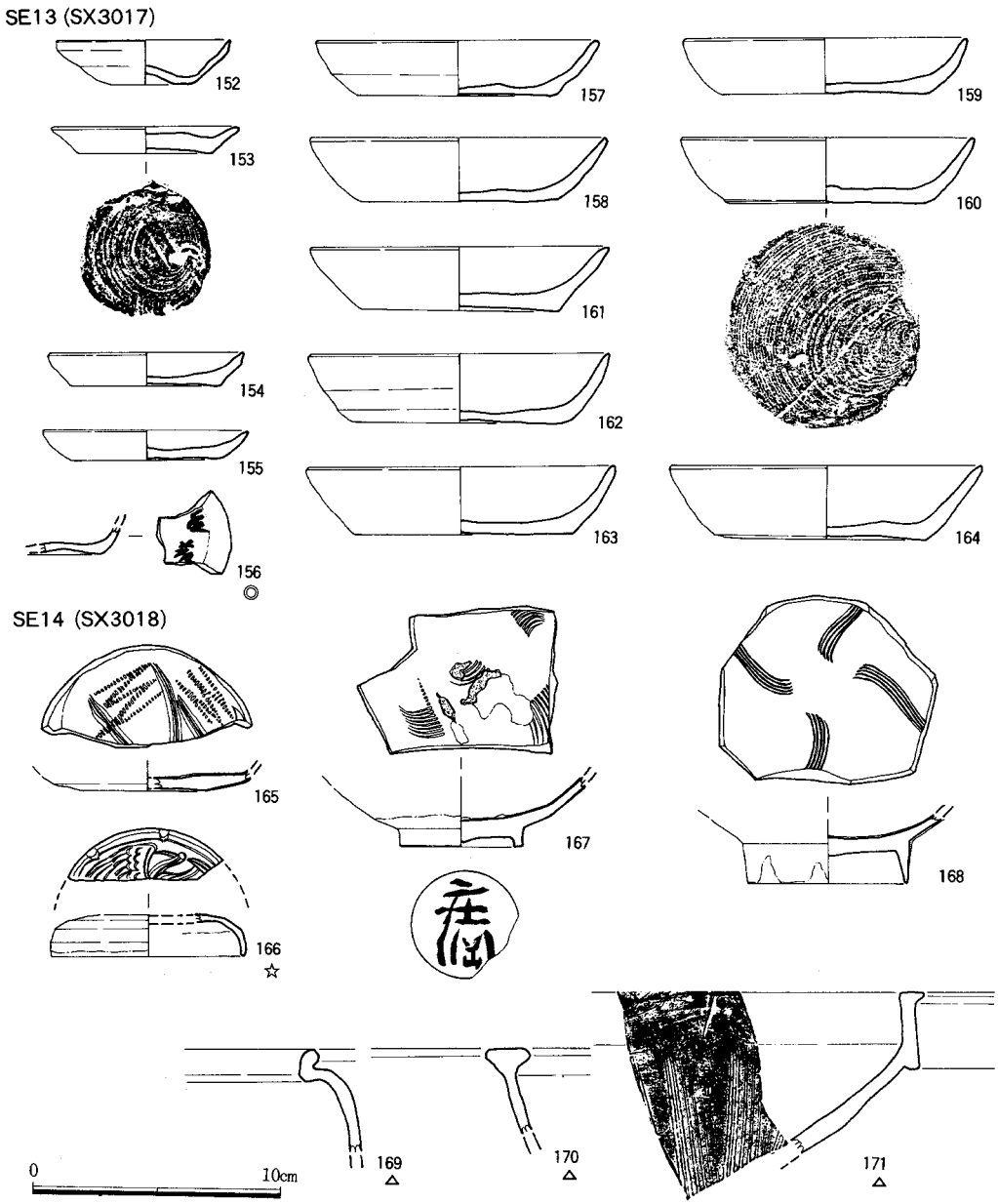


Fig. 20　井戸 SE13・14出土遺物実測図（縮尺1/3）

SX1127は平面形が方形を呈しており、江戸時代初頭の遺構である。SX2157・2158・3020A・SK3010は掘り方規模から井戸と思われる。

溝（SD）は3条検出したが、中世に属しているのはSD2001である。この溝は主軸方位を南西から北東方向に置くもので、調査区の北西側に位置する。溝の最大幅は約7ｍ、現存長14ｍ、最大の深さ138㎝を測る。溝の断面形は緩やかな逆梯形を呈する。出土遺物には土師器（糸切り底）、白磁皿・碗、同安窯系青磁皿・碗、青白磁合子、中国舶載陶器、土師器甕・甑、土師

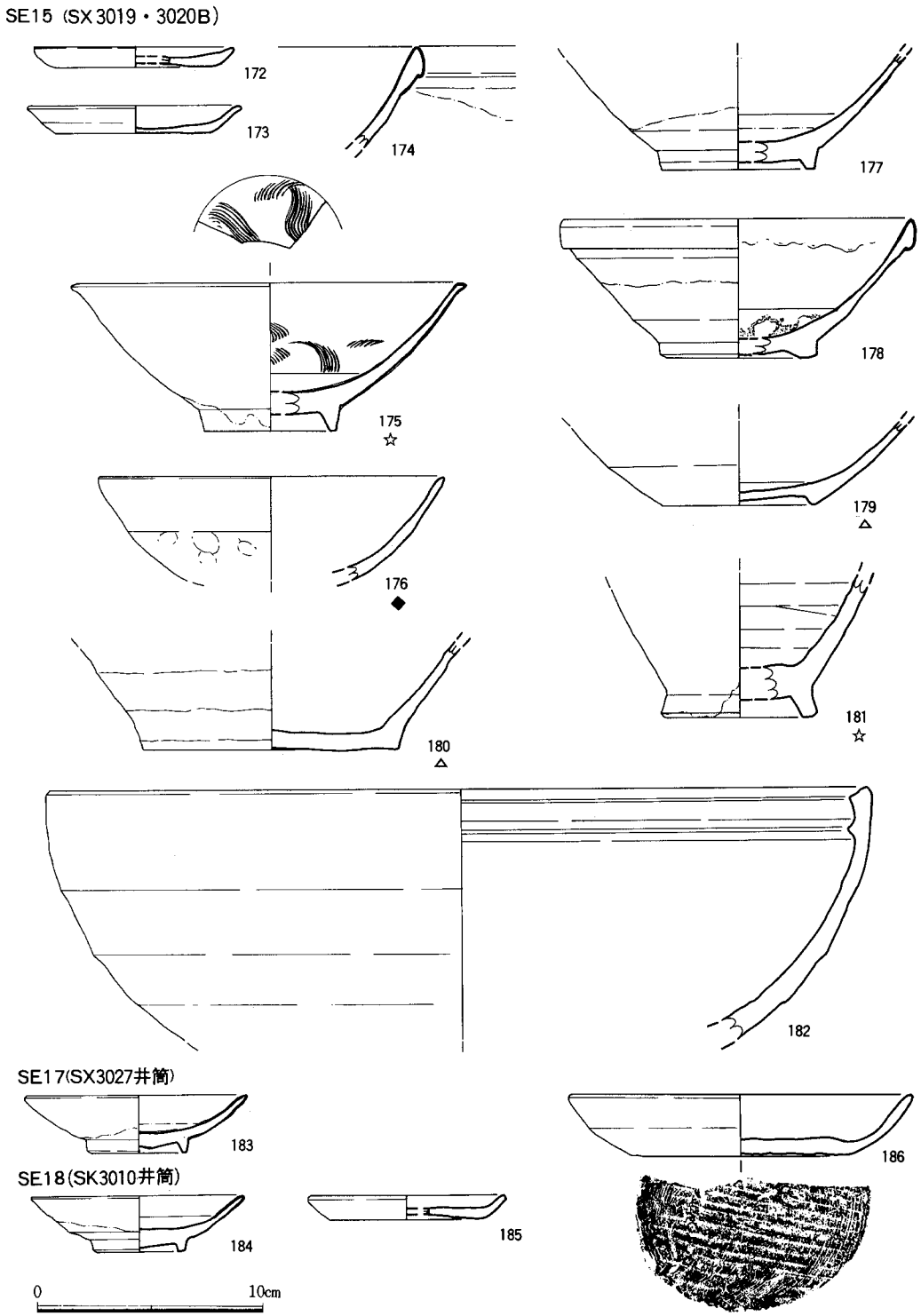


Fig. 21　井戸 SE15・17・18出土遺物実測図（縮尺1/3）

SE18 (SK3010)

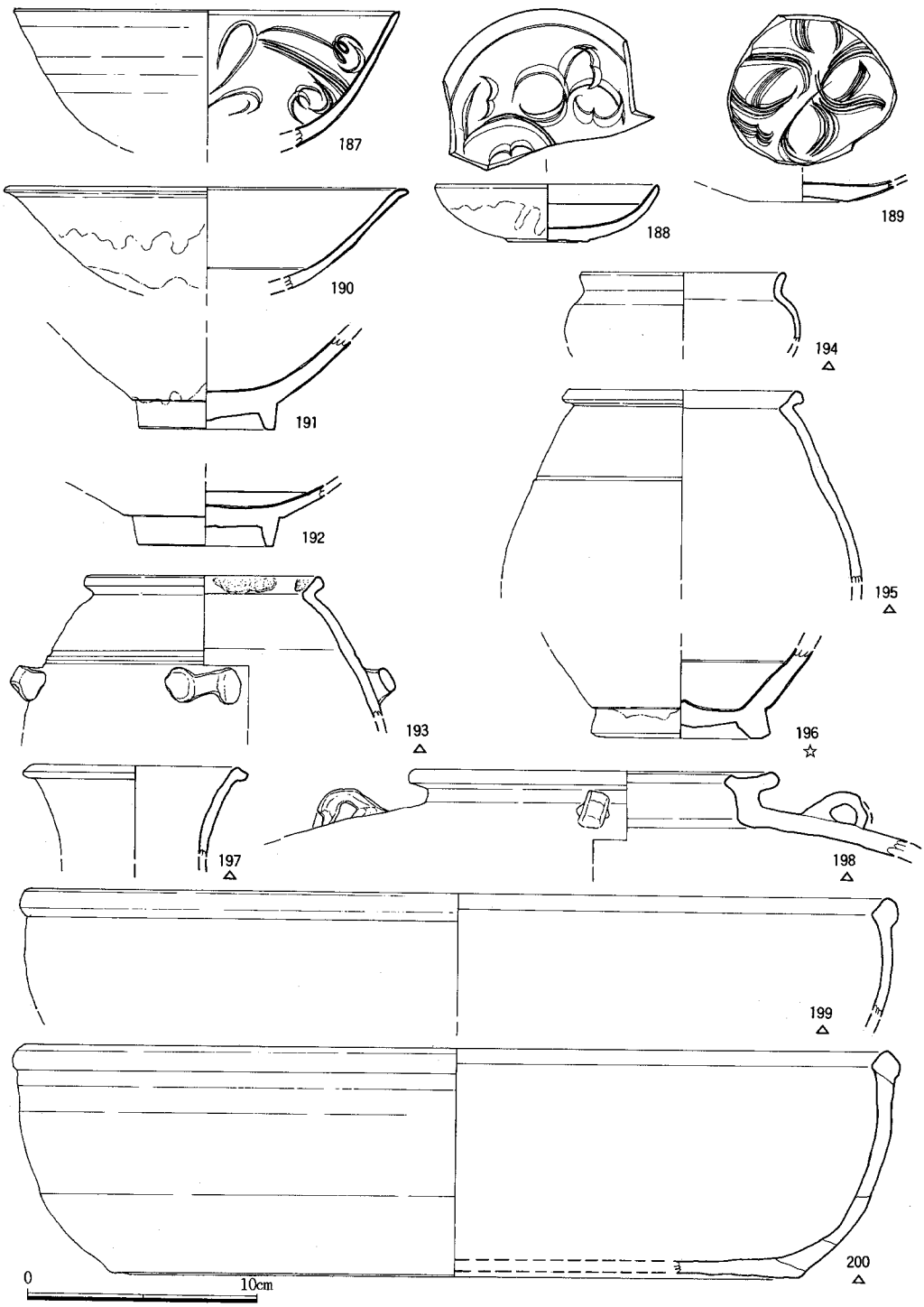


Fig. 22 井戸 SE18 出土遺物実測図（縮尺1/3）

SE18 (SK3010)

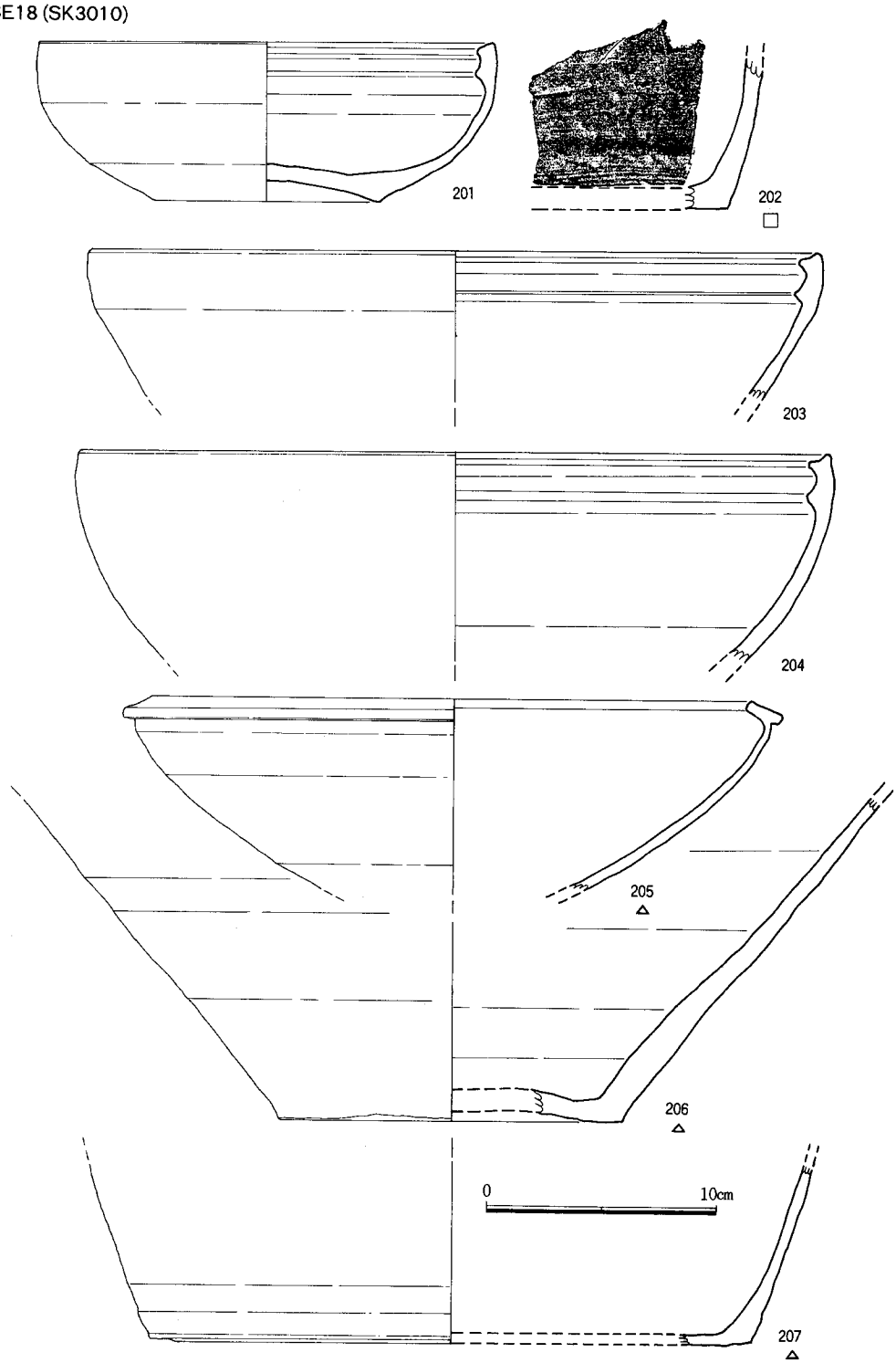


Fig. 23 井戸 SE18　出土遺物実測図（縮尺1/3）

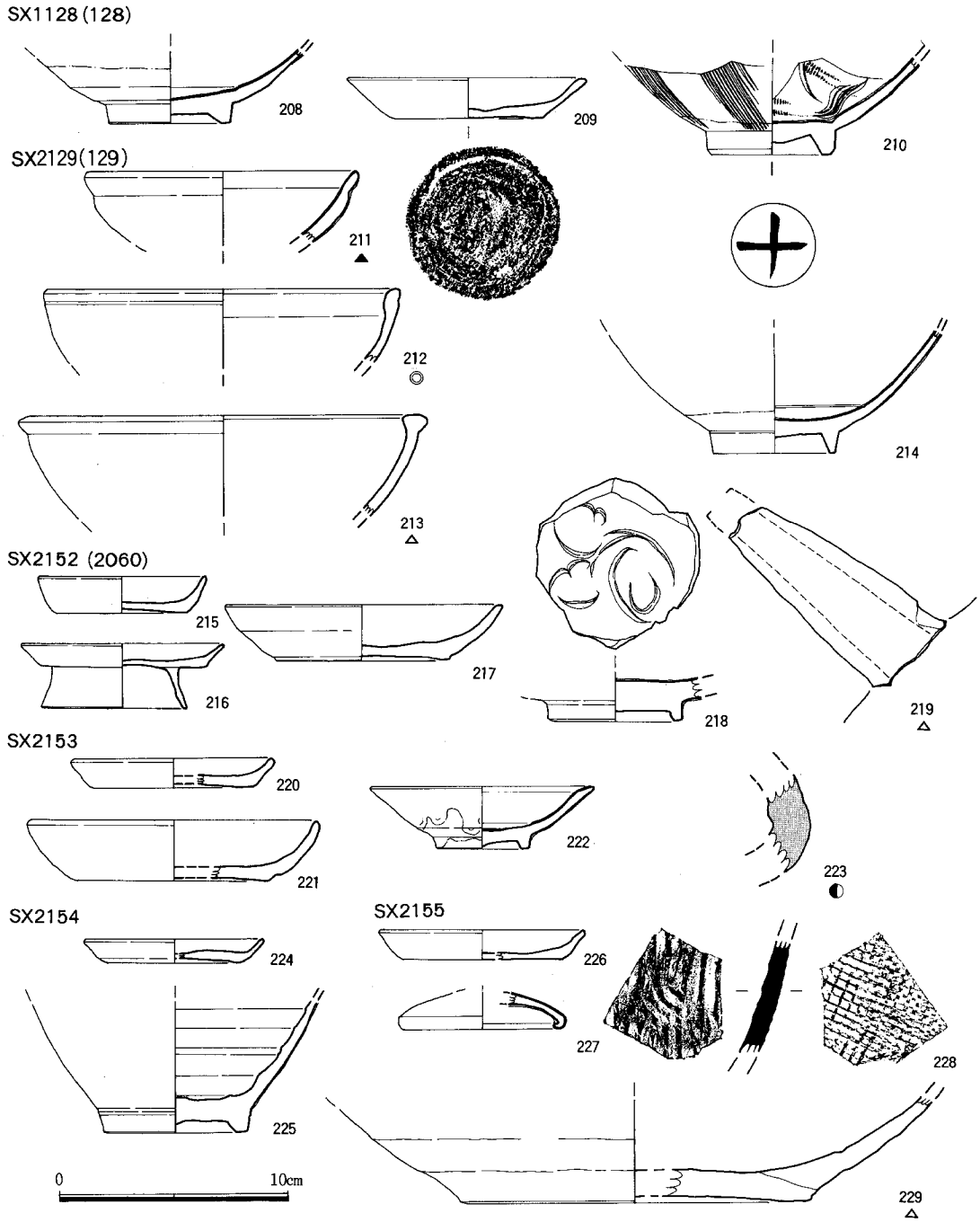


Fig. 24 SX1128・2129・2152～2155 出土遺物実測図（縮尺1/3）

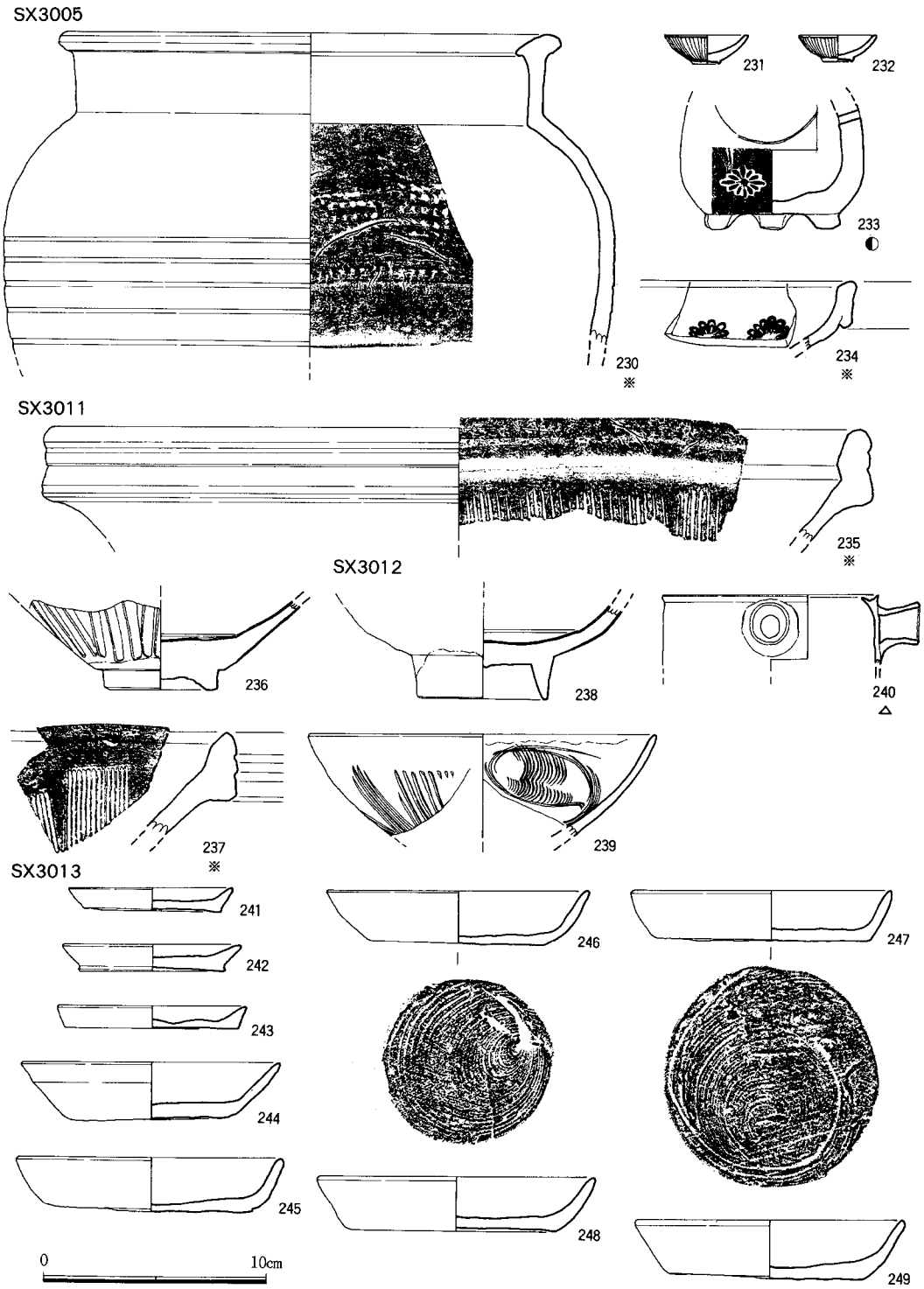


Fig. 25 SX3005・3011～3013出土遺物実測図（縮尺1/3）

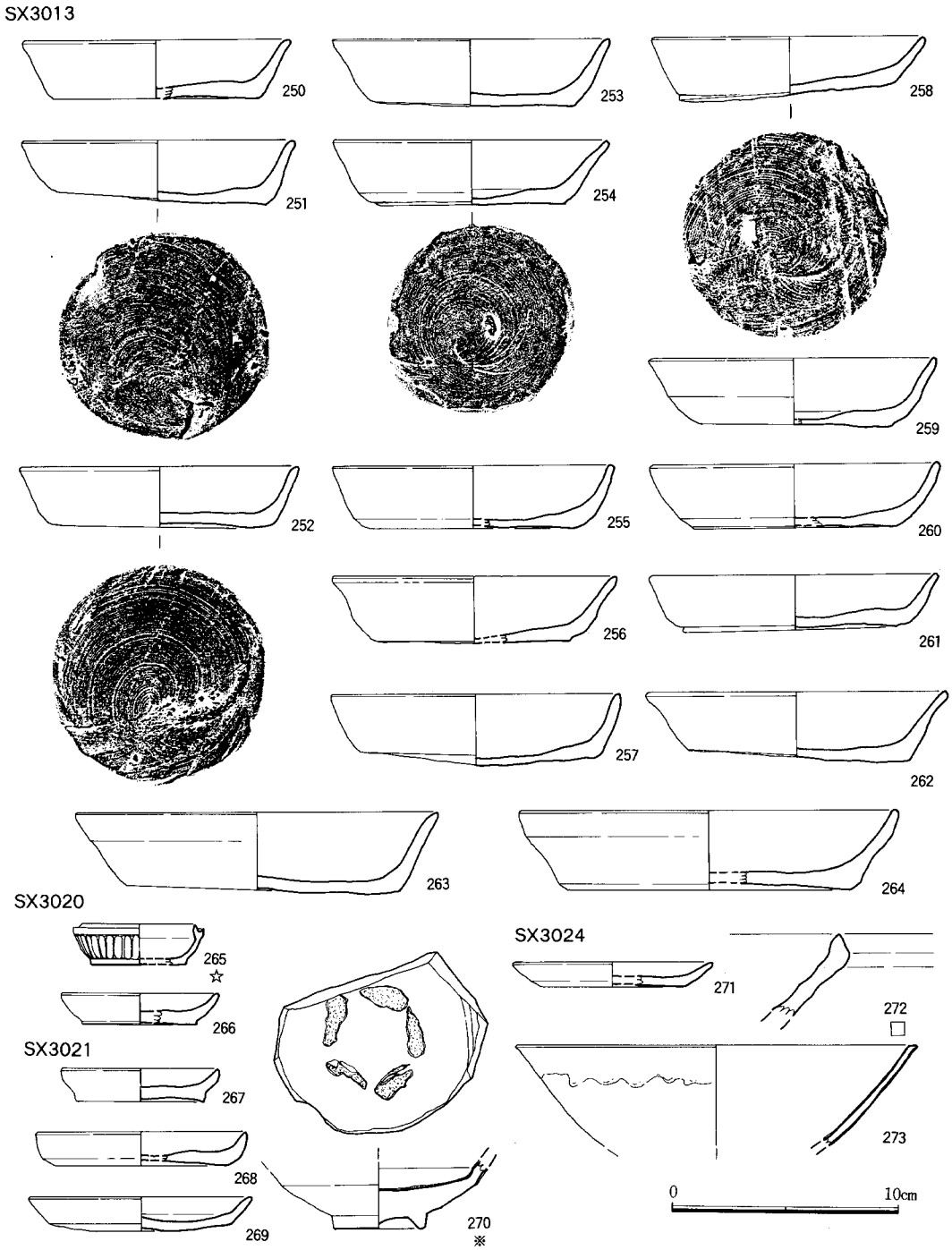


Fig. 26 SX3013・3020・3021・3024出土遺物実測図（縮尺1/3）

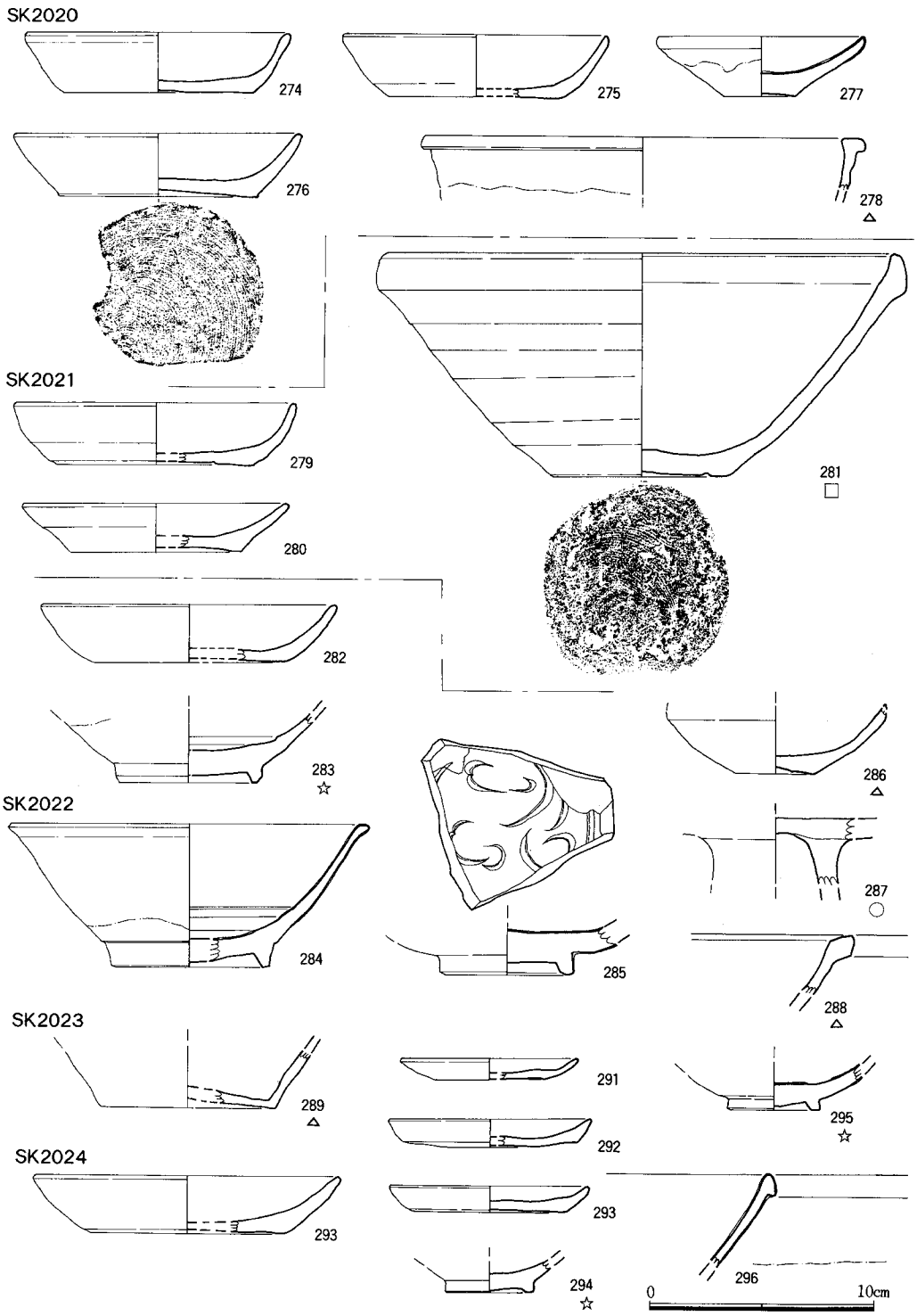


Fig. 27 土壙 SK2020～2024出土遺物実測図（縮尺1/3）

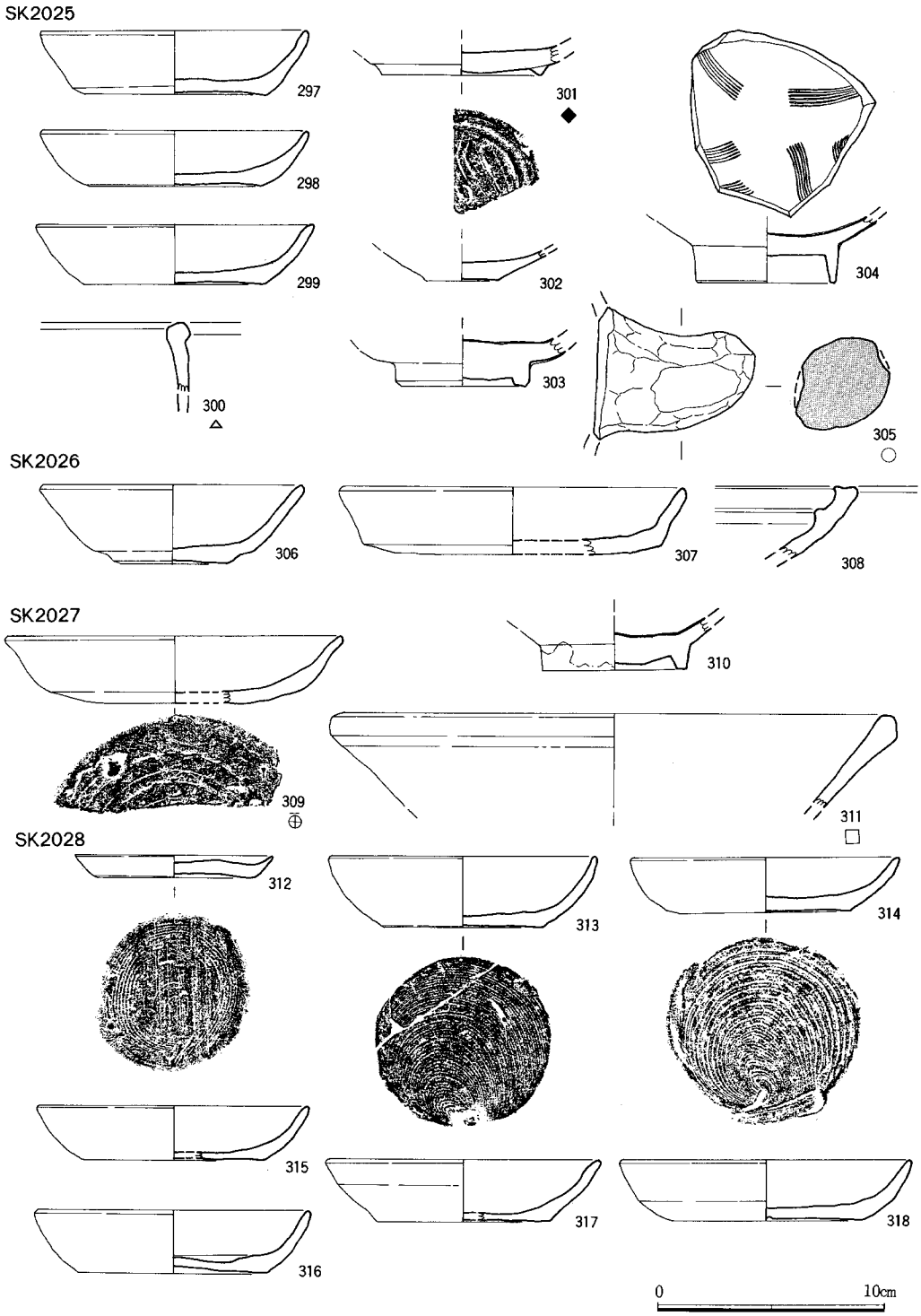


Fig. 28　土壙 SK2025～2028出土遺物実測図（縮尺1/3）

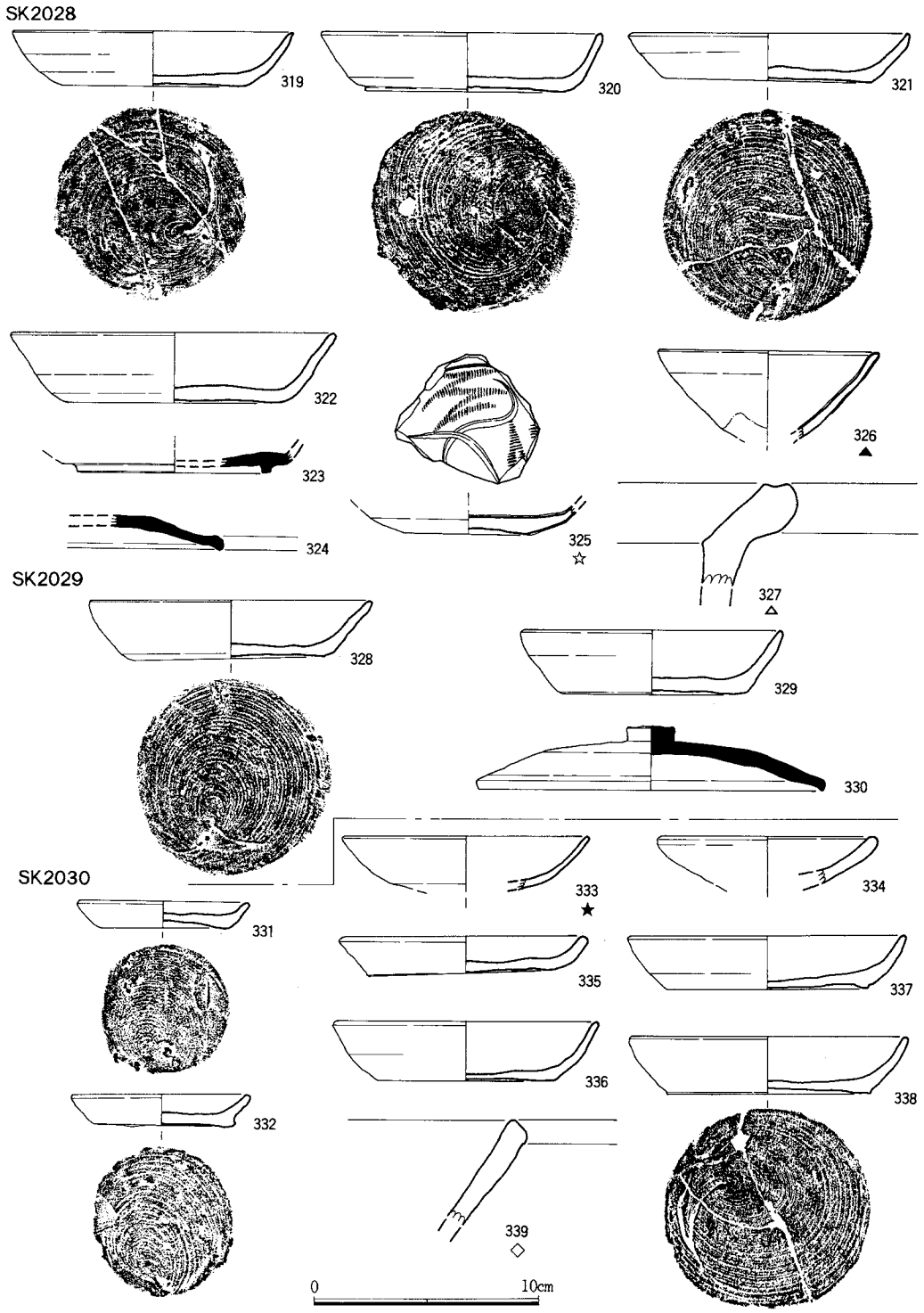


Fig. 29 土壙 SK2028～2030出土遺物実測図（縮尺1/3）

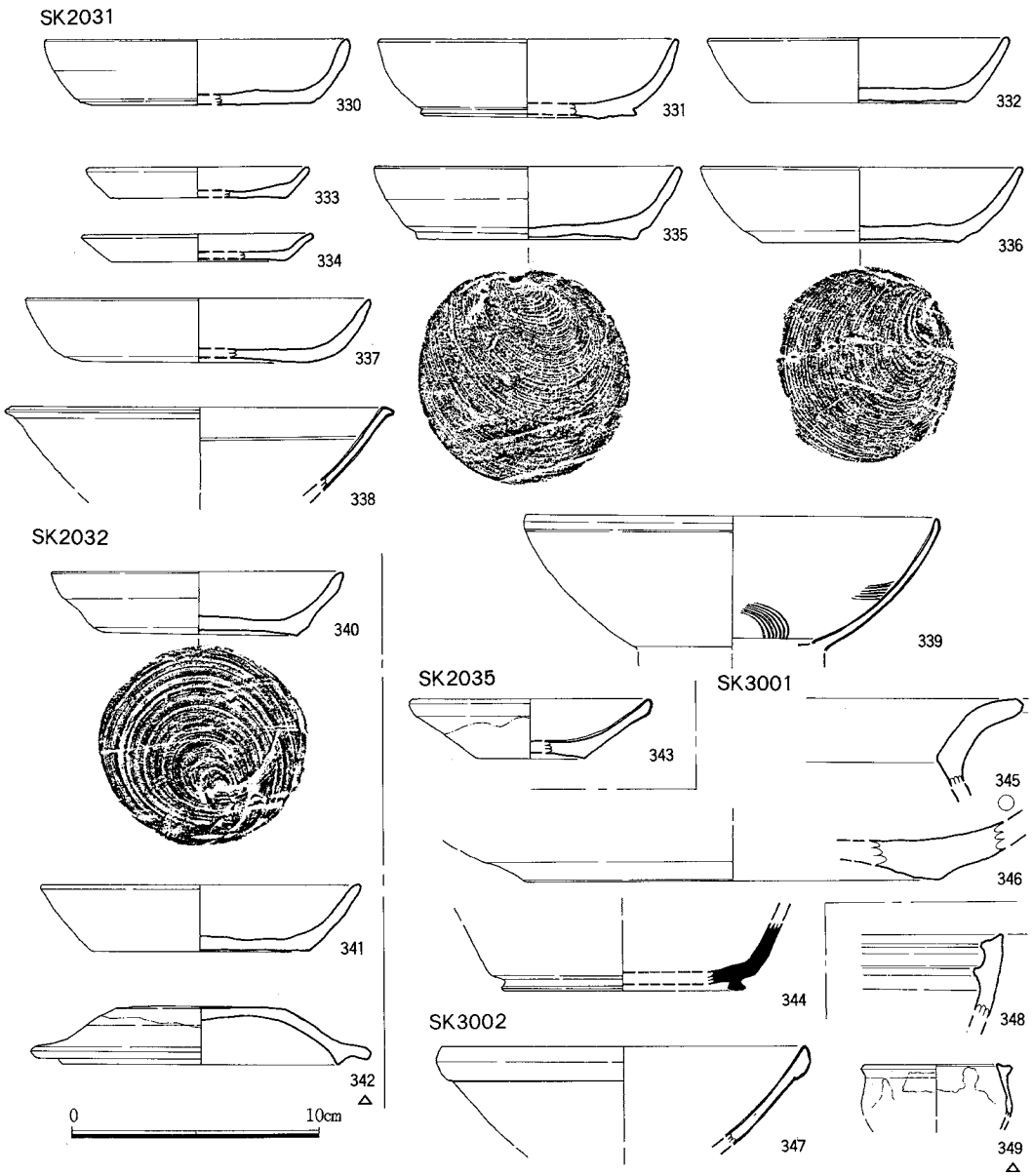


Fig. 30 土壙 SK2031・2032・2035・3001・3002出土遺物実測図（縮尺1/3）

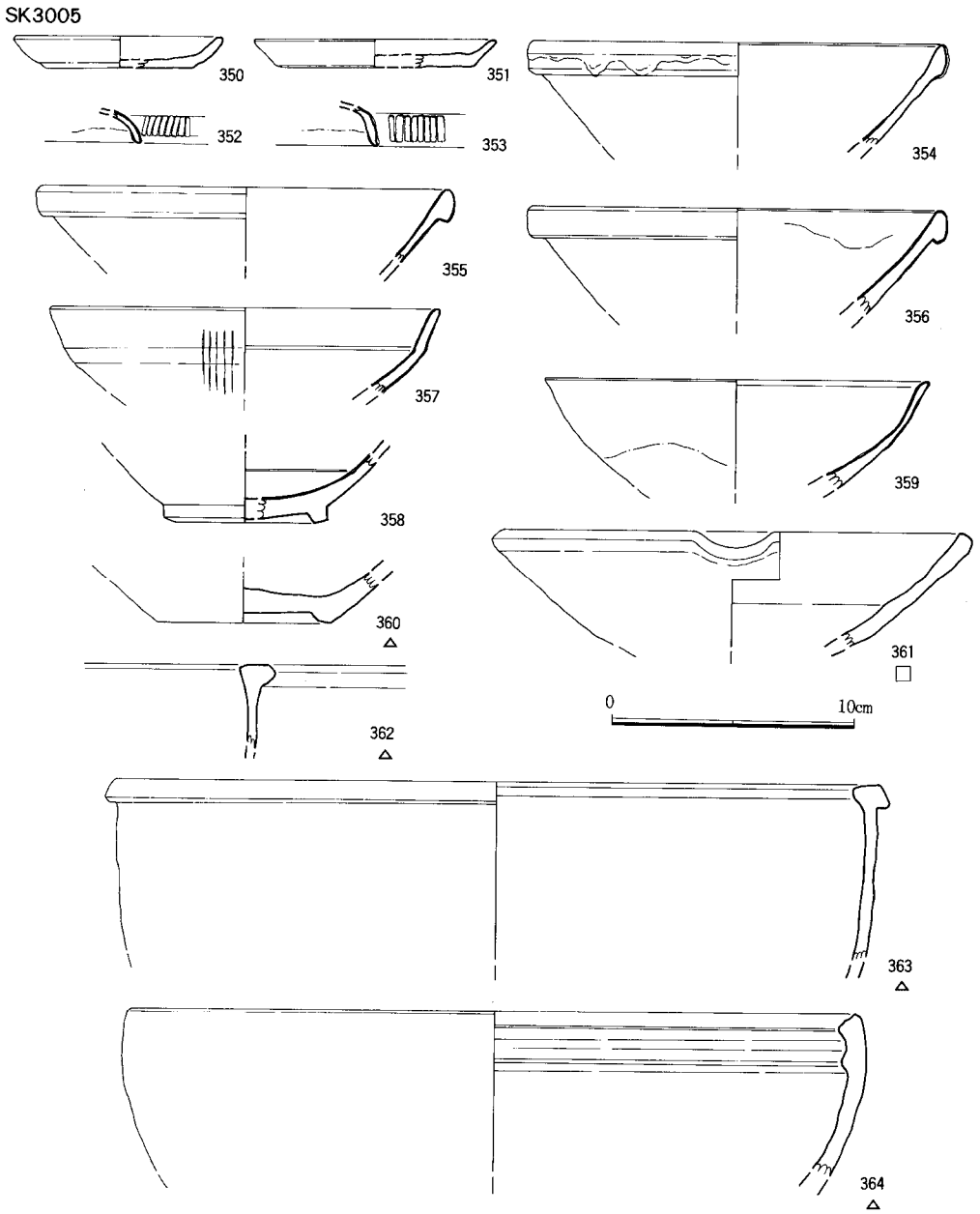


Fig. 31 土壙 SK3005出土遺物実測図（縮尺1/3）

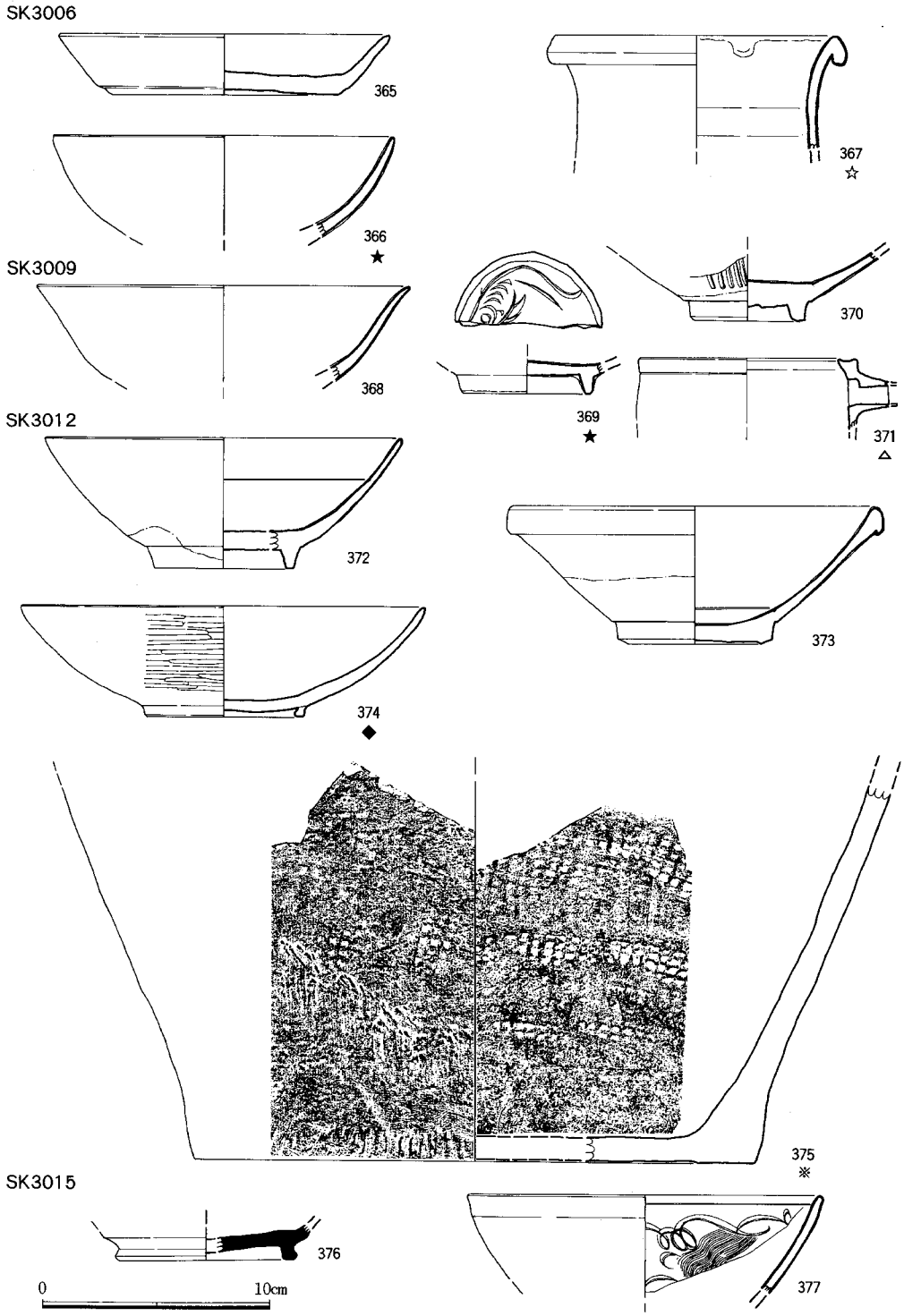


Fig. 32　土壙 SK3006・3009・3012・3015出土遺物実測図（縮尺1/3）

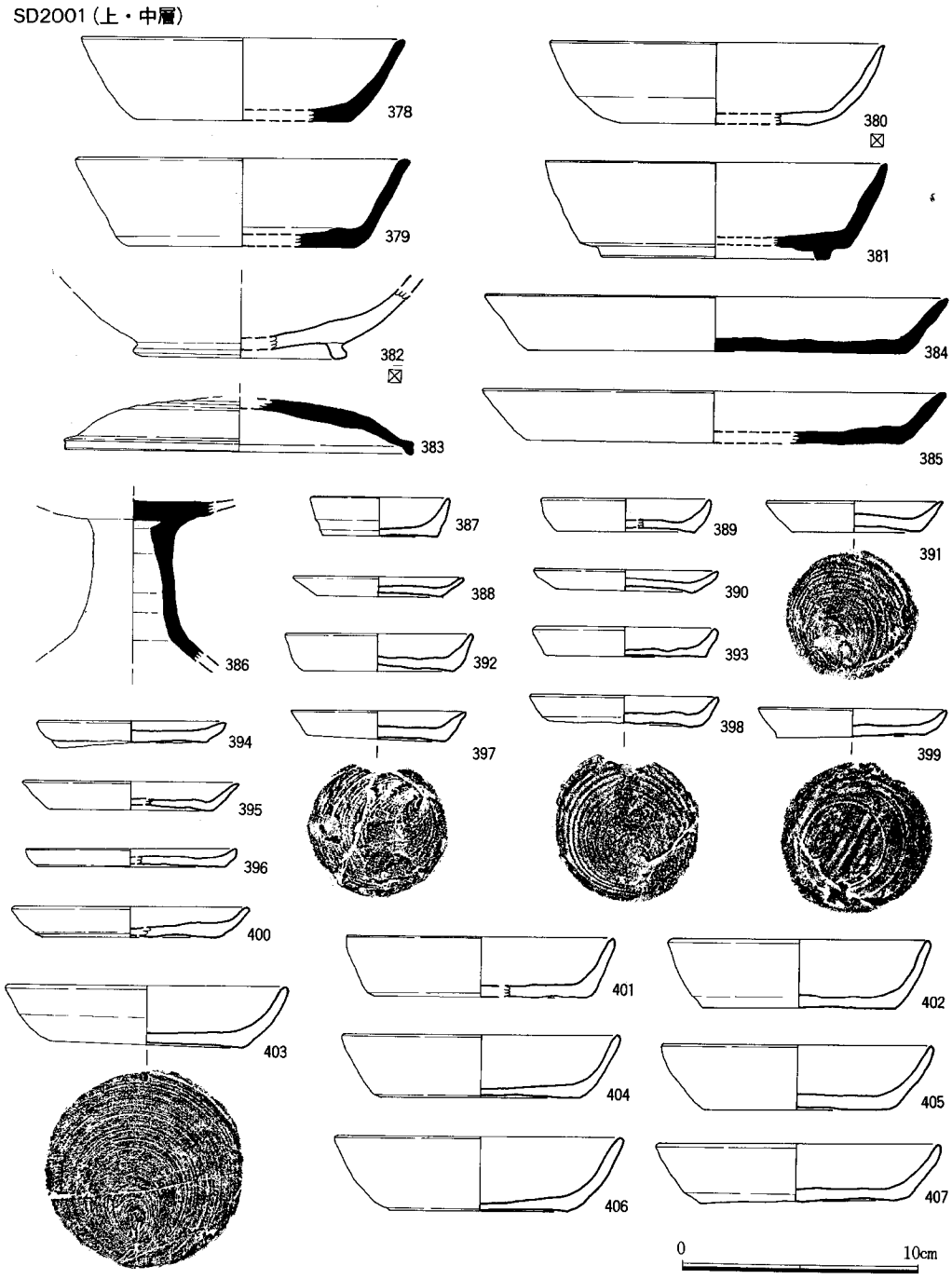


Fig. 33　溝 SD2001（上・中層）出土遺物実測図（縮尺1/3）

SD2001（上・中層）

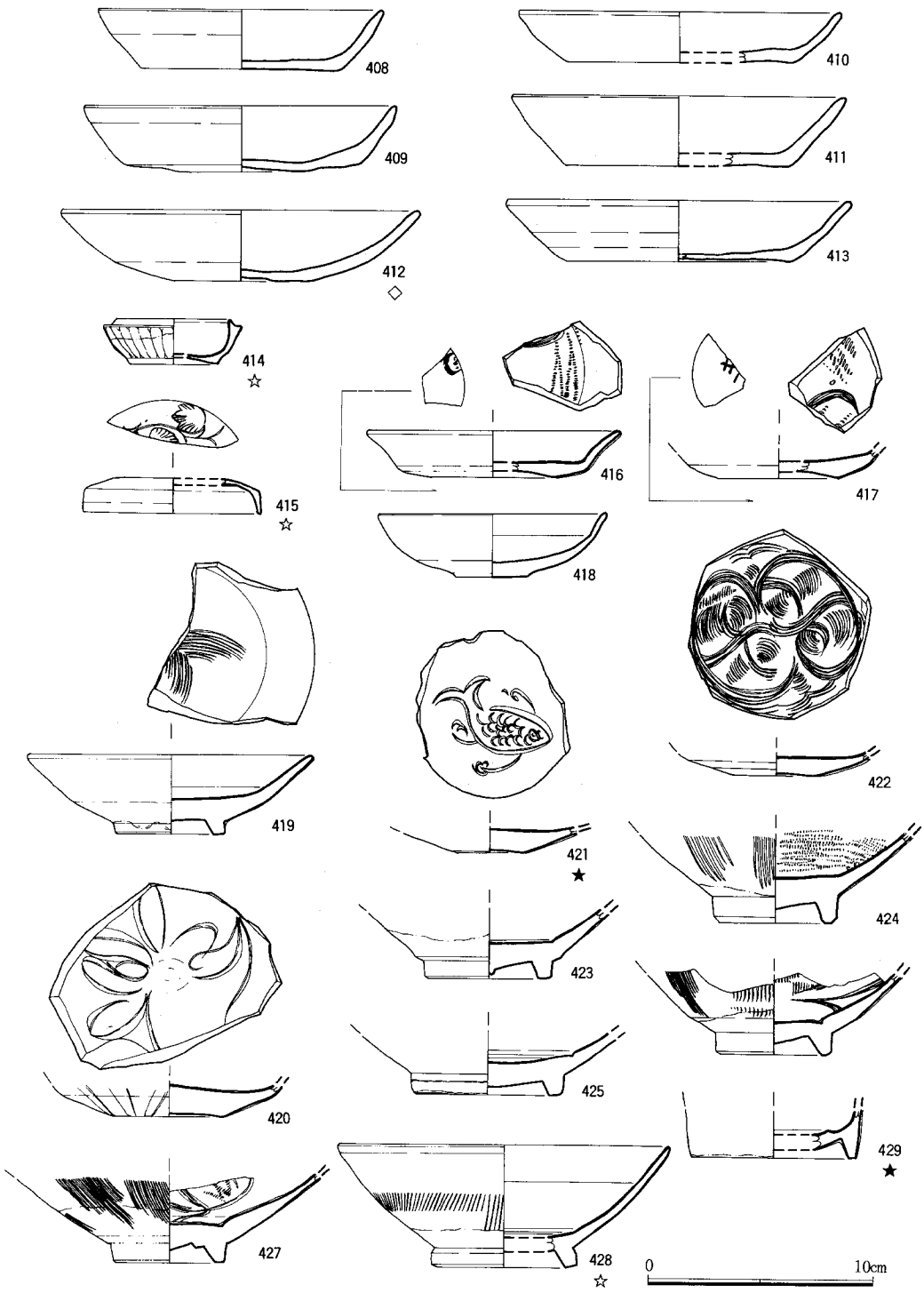


Fig. 34　溝 SD2001（上・中層）出土遺物実測図（縮尺1/3）

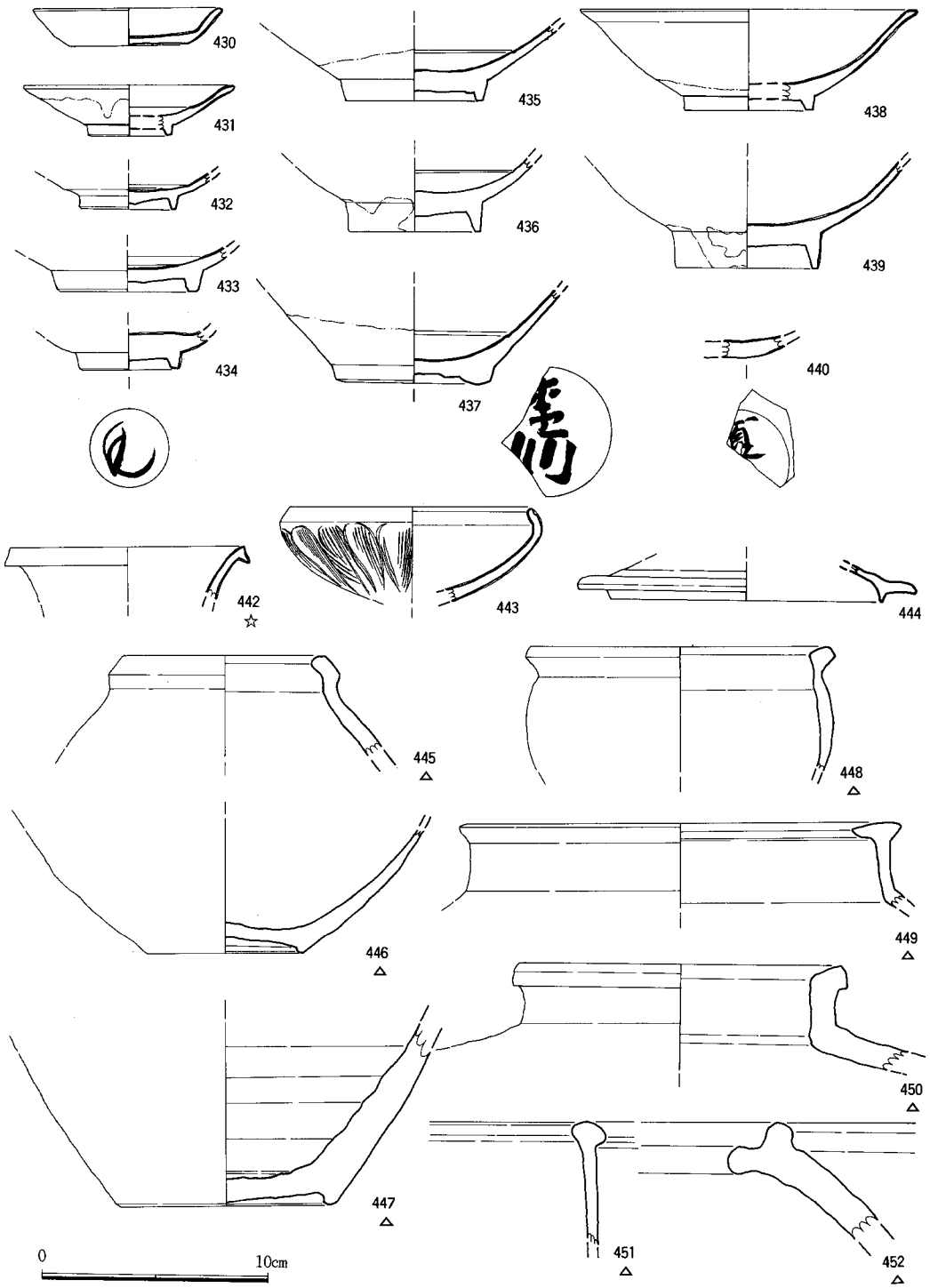


Fig. 35　溝 SD2001（上・中層）出土遺物実測図（縮尺1/3）

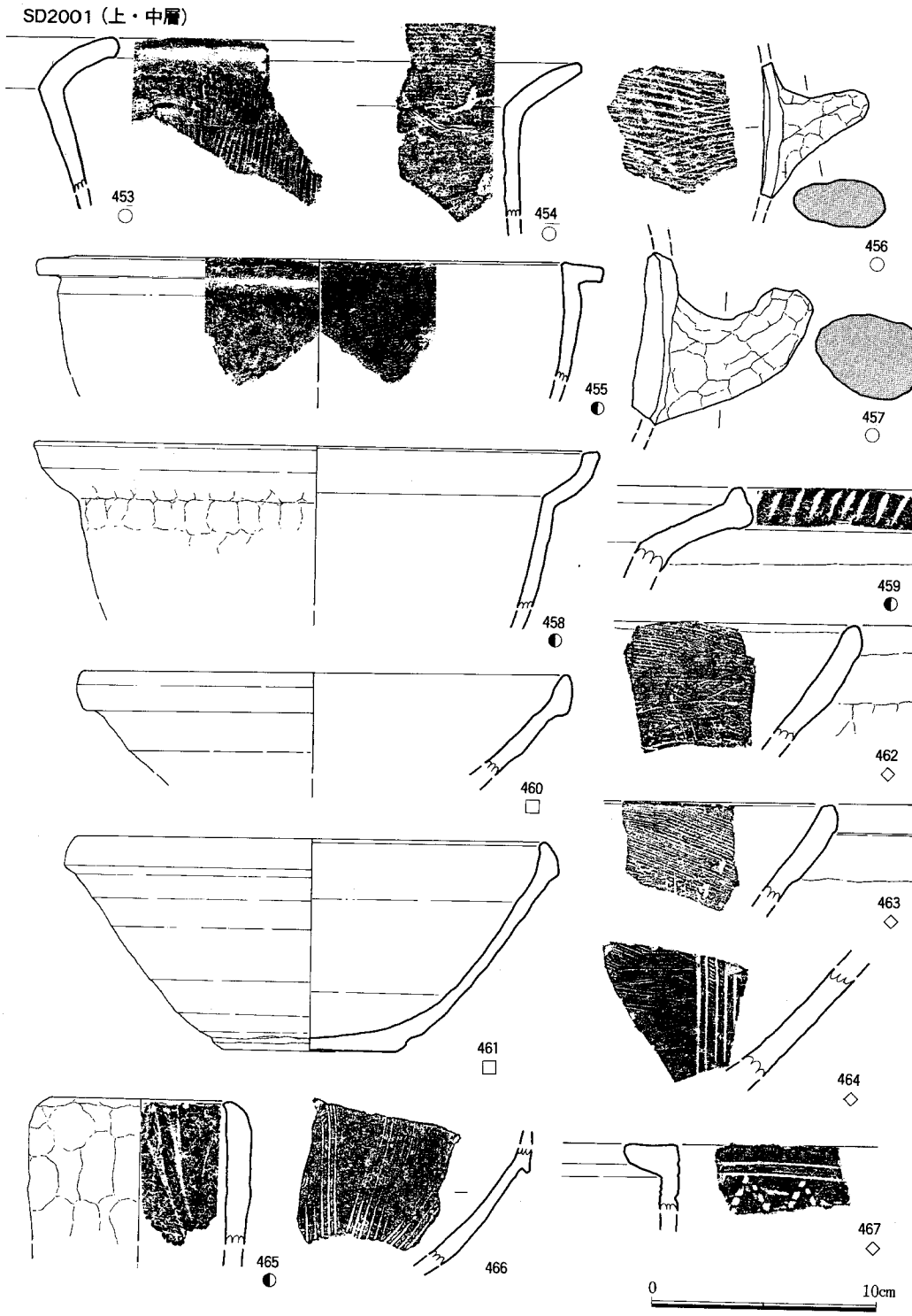


Fig. 36 溝 SD2001（上・中層）出土遺物実測図（縮尺1/3）

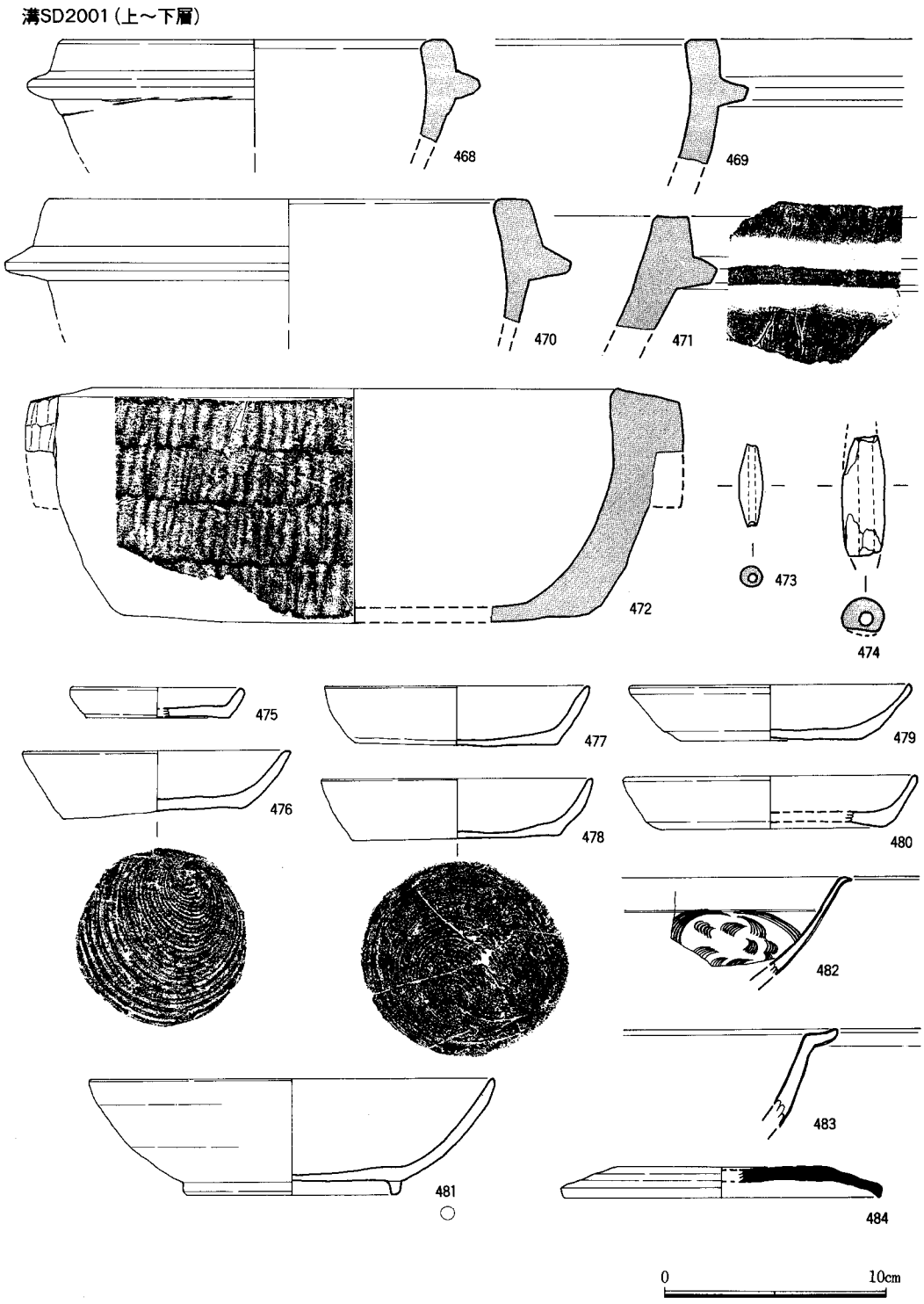


Fig. 37 溝 SD2001（上～下層）出土遺物実測図（縮尺1/3）

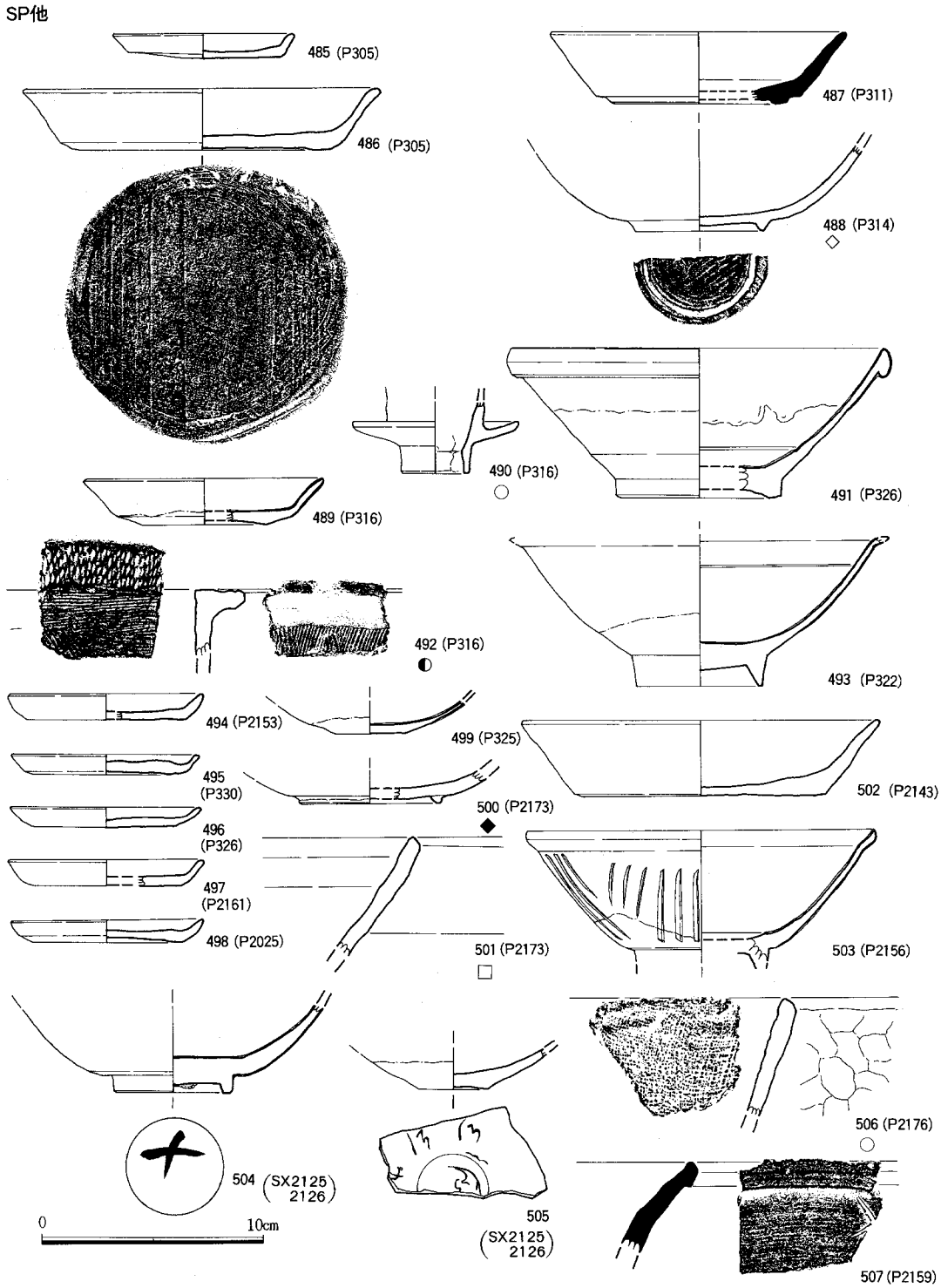


Fig. 38 Pit 及び包含層他出土遺物実測図（縮尺1/3）

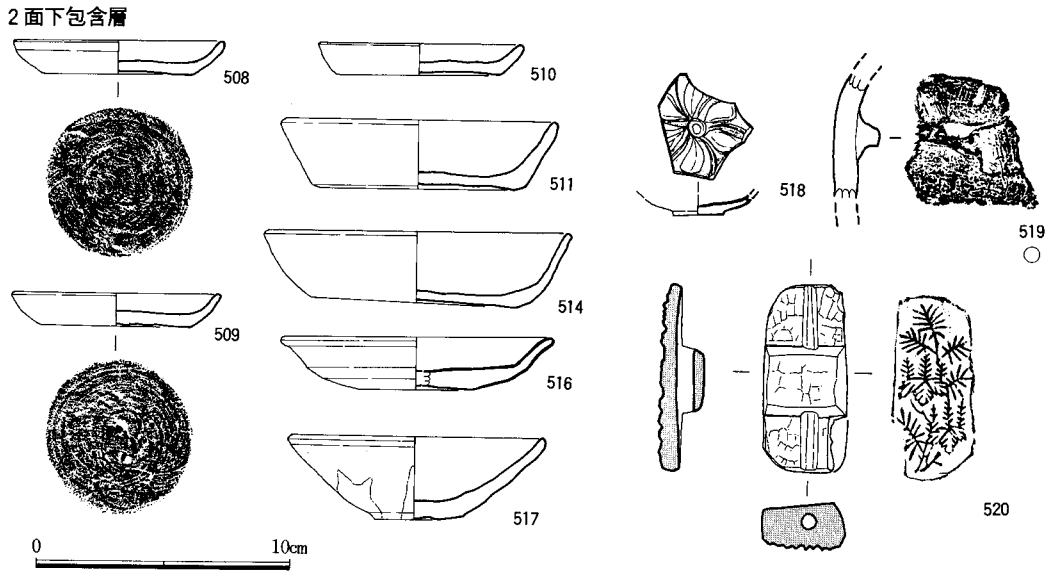


Fig. 39　2面下包含層出土遺物実測図（縮尺1/3）

質土器鍋、須恵質土器鉢、瓦質土器摺鉢・火舎、陶器摺鉢、焼塩壺、滑石製石鍋、土錘などがある。

(2)　出土遺物

中世遺物の主体となるのは糸切りの土師器である。井戸SE01（SX2157）の坏は糸切りで、皿はヘラ切りと糸切りの両者がある。白磁皿・碗を主体とする。SE03は白磁碗を主体とし、瓦器碗、須恵質土器鉢が出土、SE05の掘り方出土の土師器は糸切りが主体となるが、板目痕のあるものは少ない。鏑蓮弁文の青磁碗、外面に刷毛目を施した龍泉窯系碗や内底に目痕のある青磁碗、高麗の須恵質土器、中国製の盤などが出土した。SE06（SX133）、SE07（SX2060）出土の土師器小皿はいずれも板目痕をもち、青磁は同安窯系である。墨書土器が1点ある。SE08（SX2061）の遺物は坑底の玉石内、又は上面から出土したが、須恵器の坏・坏蓋・甕・高坏、土師器甕・甑・焼塩壺がある。8世紀中頃～後半の時期である。SE10・11（SX3009）の掘り方出土の土師器は糸切り底で、青磁は龍泉窯系、同安窯系がある。井筒内の青磁は龍泉窯系碗である。128は薄手の陶器で、外面に濃緑色釉をかける。香炉と思われる。132は瓦質土器の摺鉢で、内面の下し目は斜格子状を呈している。118・119は墨書土器である。SE12（SX3014）出土の146は青磁碗で、外底に花押を施す。SE13（SX3017）出土の153はヘソ皿で畿内からの搬入品である。土師器は糸切りであるが、板目痕は少ない。156は外底に墨書を有している。SE14（SX3018）出土のの白磁碗の外底には「王ヵ倆」の墨書がある。SE15（SX3019）出土の

土師器は糸切りで、白磁碗を主体とする。同じくSE17（SX3027）の遺物も白磁を主体とし、糸切りの土師器が出土。SE18（SK3010）からは龍泉窯系青磁碗・皿が出土し、陶器の捏鉢・盤・甕など大形品が多い。SX1128出土の210の外底には「十」の墨書がある。SX1129の211は天目碗、SX2152の216は小皿ｃである。SX1127は17世紀の前半の遺物を主体としており、備前焼摺鉢Ⅵ期、唐津焼甕、瓦質香炉がある。SX3013からは糸切りの土師器坏が出土し、口径11～13cmと口径16～17cmの２つのグループに分けられる。SX3021からは古唐津の皿が出土し、小皿ｂが共伴する。SK2021出土の須恵質土器鉢は魚住窯系で、13世紀後半の所産である。SK2028は糸切りの土師器を主体とするが、外底に板目痕はない。SK3005出土の361は須恵質土器の鉢であるが、口端部が丸味をもつ。SK3012からは唐津焼甕が出土している。SD2001の上・中層からは８世紀代の須恵器坏・蓋の他、土師器皿・坏が出土する。土師器は糸切りで、板目痕はない。青磁は同安窯を主体として、龍泉窯系ではⅠ－6aの碗や皿がある。434・437・440の白磁碗・皿の外底には墨書がある。458は土師質土器の鍋で、畿内産である。460・461は魚住窯系の鉢、462～464は瓦質摺鉢である。第２面下包含層から出土した土師器は全て糸切りである。皿の口径は８cm前後、坏の口径は11～12cmと16cmの２種類がある。

第３章　まとめ

当該調査地点の南側には第27次調査が実施されており、ここでは古墳時代の前方後円墳、配石墓、小石室の他、12～16世紀までの遺構・遺物を検出した。当該地でも古墳時代の遺構の存在を予想したが、結果的には円筒埴輪片を検出したにすぎない。近世遺構については紙面の関係上割愛した。中世遺構は井戸を中心として、土壙、井戸があるが、これらの時期は11世紀後半から14世紀後半代に納まるようである。井戸の時期は12世紀前半から14世紀中頃までの幅をもち、特に12世紀代に集中する。14世紀の遺構は溝SD2001と切り合い関係がなく、又、井戸、土壙は溝の南東側に分布し、その時期は前半～後半までの幅がある。溝の遺物は14世紀代と考えられるところから、井戸・土壙とは同時性を示すもので、これらは溝を中心とした遺構群と考えられる。第２面下包含層の遺物の内、土師器は14世紀前半を示しており、これらの遺構群が構築されるに当たっては整地が行われていたことを示している。今回の調査では明代の染付等が出土しておらず15世紀代以降の遺構は存在していない。又、遺物の内、龍泉窯系の青磁は12～14世紀代の碗が出土しているが、Ⅲ類に属する碗は出土していないのが特徴である。

Tab. 1　博多66次調査遺構一覧表（中世）

遺構名	旧遺構名	種　類	規　模（cm）			出　土　遺　物	時　期	備　考
			長　さ	幅	深			
SE01	SX2157	素掘り井戸	282 井筒70	185＋α	256	中国青磁(碗)，中国白磁(碗) 〈井筒〉土師器(皿・坏)，土師質土器(焼塩壺)，須恵器(坏)，瓦質土器(坏)，中国青磁(皿・碗・瓶)，白磁(小鉢・碗)，瓦(丸瓦)，石製品(滑石製石鍋)，鉄製品(釘・刀子)	12C前中頃	SE02に切られる
SE02	SX2156	井戸	423 井筒65	197＋α	241	土師器(皿・坏・壺)，須恵器(壺・甕)，中国青磁(皿)，白磁(碗)，中国陶器(盤)，石製品片，鉄滓 〈井筒〉土師器(皿・壺)，須恵器(甕)，瓦質土器(甕)，中国陶器(鉢)，瓦(丸瓦)	12C中	
SE03		〃	—	—	—	土師器(皿・坏・甕)，須恵器(皿)，須恵質土器(捏鉢)，瓦質土器(碗)，中国青磁(皿・碗)白磁(皿・碗)，中国陶器(捏鉢)，石製品(滑石製石鍋)	12C初～前	平面実測不可
SE04		〃	—	—	—	土師器(皿・坏)，須恵器(皿・坏・蓋・甕)，中国青磁(皿・碗・瓶)，白磁(皿・碗)中国陶器(碗・鉢・瓶)，瓦(丸瓦)，石製品(滑石製石鍋)	12C初～前	平面実測不可
SE05	SX 126	素掘り井戸	254 井筒85	184＋α	103	土師器(皿・坏・壺)，土師質土器(蓋)，須恵器(坏・蓋・甕)，瓦器(碗)，瓦質土器(鉢)，中国青磁(皿・碗・壺・水注・鉢・蓋)，白磁(皿・碗)，中国陶器(甕・盤・捏鉢)，高麗青磁片，瓦(丸瓦)，石製品(滑石製石鍋)，鉄製品(釘)，青銅製品片，古銭 〈井筒〉土師器(皿・坏)，須恵器(坏・甕)，中国青磁(皿・碗)，白磁(碗)，中国陶器(鉢・捏鉢)，瓦(丸瓦)，鉄滓	14C～中	
SE06	SX133 SP2172	〃	192 井筒85	113＋α	140	土師器(皿)，中国青磁(皿・碗)，白磁(碗)，緑釉(碗) 〈井筒〉土師器(皿)，須恵器(坏・壺・甕)，中国青磁(皿・碗)，白磁(碗)，中国陶器(鉢・水注)，瓦(丸瓦)	13C中	SE05に切られる
SE07	SX2060	〃	336 井筒68	304	169	土師器(皿・坏)，土師質土器(鍋・焼塩壺)，須恵器(坏・蓋・甕)，瓦質土器(鉢・壺)，中国青磁(皿・碗・合子)，白磁(碗)，中国陶器(盤)，瓦(丸瓦)，滑石片，輪羽口，鉄滓，鉄製品(釘)，古銭，木炭 〈井筒〉土師器(皿)，須恵器(甕)，瓦質土器(坏鉢)，中国青磁(皿・碗)，白磁(碗)，中国陶器(盤)，瓦(丸瓦)，鉄製品(釘)，鉄滓，青銅製品	13C	
SE08	SX2061	〃	220 井筒50	156＋α	74	土師器(皿)，土師質土器(甕・甑・焼塩壺)，須恵器(坏・蓋・甕)，瓦質土器(鉢)，中国青磁片，瓦(丸瓦)，鉄製品(釘) 〈井筒〉土師器(壺)，土師質土器(焼塩壺)，須恵器(坏・蓋・甕)，瓦質土器片，中国青磁(皿)，滑石片	8C中～後	
SE09	SX2151	〃	408 井筒68	351	173＋α	土師器(皿・坏・壺)，須恵器(坏・蓋・甕)，瓦質土器(碗)，中国青磁(皿・碗・壺)，白磁(皿・碗)，鉄製品(釘) 〈井筒〉土師器(皿・坏)，須恵器(坏・甕)，中国青磁(皿・碗)，古銭	12C前	境界地にある
SE10	SK3004 SX3009A	〃	307 井筒57	284	128	土師器(皿・坏)，土師質土器(摺鉢・焼塩壺)，須恵器(坏)，瓦質土器(摺鉢・火舎)，中国青磁(皿・碗・香炉)白磁(皿・碗・猪口)，中国陶器(鉢)，滑石片，鉄製品(釘)，古銭	12C後	SE11と 遺物区別なし
SE11	SX3009B	〃	303 井筒72	284	128	〈井筒〉土師器(皿・坏)，須恵器(坏・甕)，瓦質土器(坏)，中国青磁(皿・碗・壺)，白磁(皿・碗)，中国陶器(水注・盤・捏鉢)，瓦(丸瓦)，鉄製品(釘)，古銭	12C初～前	
SE12	SX3014	〃	196 井筒54	189	92＋α	土師器(皿・鉢)，須恵器(蓋・壺・甕)，瓦質土器(坏・鉢)，中国青磁(碗)，白磁(皿・碗)，中国陶器(盤・瓶)，瓦(丸瓦) 〈井筒〉土師器(皿・壺)，須恵器(坏)，中国青磁(碗・合子)，白磁(碗)，鉄製品(釘)	12C後	境界地にある
SE13	SX3017	〃	275 井筒70	222＋α	148	土師器(皿・坏)，須恵器(坏・鉢)，瓦質土器(鉢)，中国青磁(皿・碗)，白磁(碗)，中国陶器(鉢・壺・盤)，瓦(丸瓦・瓦博)，鉄製品(釘)，青銅製品(煙管火口部) 〈井筒〉土師器(皿・坏)，須恵器(坏・蓋・甕)，瓦質土器(鉢)，中国青磁(皿・碗)，白磁(碗)，中国陶器(鉢・甕)，鉄製品(釘)	14C前後	境界地にある
SE14	SX3018 SX3022	〃	192 井筒	122＋α	201	土師器(皿・坏)，須恵器(坏・甕)，瓦質土器(坏)，中国青磁(皿・碗・瓶)，白磁(皿・碗)，中国陶器(鉢・盤・捏鉢)，石製品(滑石製石鍋・石白)，瓦(丸瓦)，鉄製品(釘) 〈井筒〉土師器(皿・壺)，須恵器(皿)，中国青磁(皿・碗)，青白磁(香炉)，中国陶器(鉢・盤)，石製品(滑石製石鍋)，鉄製品(釘)		境界地にある SE16に切られる
SE15	SX3019 SX3020B	〃	162 井筒70	105	100	土師器(皿・甕)，須恵器(坏)，中国青磁(皿・碗・瓶)，白磁(皿・碗)，中国陶器(鉢・甕・盤・捏鉢)，石製品(滑石製石鍋)，瓦(丸瓦) 〈井筒〉土師器(皿)，土師質土器(焼塩壺)，須恵器(皿・蓋)，互質土器(坏・碗)，中国青磁(皿・碗)，白磁(碗)，中国陶器(鉢)，瓦(丸瓦)，石製品(滑石製石鍋)	12C前	境界地にある SE17に切られる
SE16	SX3026	〃	192 井筒56	186＋α	128＋α	土師器(皿)，須恵器(甕)，瓦質土器(坏)，中国青磁(皿)，白磁(皿)，石製品(滑石製石鍋)		SE15に切られる
SE17	SX3027	〃	182 井筒72	180＋α	136	土師器(皿)，中国白磁(碗)，瓦(丸瓦) 〈井筒〉土師器(皿・坏・壺)，須恵器(坏)，中国青磁(皿・碗)，白磁（皿）	12C初～前	境界地にある
SE18	SK3010	〃	168＋α 井筒67	53＋α	58＋α	土師器(皿)，須恵器(坏・甕)，瓦質土器(坏・鉢)，中国青磁(皿・碗)，白磁(碗)，中国陶器(鉢・壺・甕・捏鉢)，石製品(滑石製石鍋) 〈井筒〉土師器(皿・坏)，瓦質土器(鉢)，中国青磁(皿・碗・壺)，白磁(皿・碗)，中国陶器(捏鉢)	12C後	境界地にある
SK2020		土拡	120	110	37	土師器(皿・壺)，須恵器(坏)，中国青磁(皿・碗)，白磁(碗)，鉄滓	14C前～中	中にpitを有する
SK2021		〃	103	101	37	土師器(皿・坏)，須恵器(坏)，瓦質土器(鉢)，中国青磁(皿・碗)，白磁(碗)，鉄製品(釘)	12C前	
SK2022		〃	155	68	47	土師器(皿・坏・壺)，土師質土器(焼塩壺・器台)，須恵器(坏蓋・鉢)，瓦質土器(坏)，中国青磁(皿・碗)，白磁(碗)，瓦(丸瓦)，鉄製品(釘)	13C前	SP1337に 切られる
SK2025	SK2025B	〃	115	100	84	土師器(皿・坏・鍋)，土師質土器(甑)，須恵器(坏・甕)，瓦質土器(碗)，中国青磁(皿・碗)，白磁(碗)，瓦(丸瓦)	14C前	
SK2026		〃	212	110	91	土師器(皿・坏)，須恵器(坏・蓋)，瓦質土器(碗)，中国青磁(碗)，白磁(皿・碗)，青白磁(壺)，中国陶器(鉢・盤・捏鉢)，瓦(丸瓦)，青銅製品片		SK2025に 切られる
SK2028	SK2028B	〃	92	90	36	土師器(皿・坏)，土師質土器(焼塩壺・鍋)，須恵器(坏・蓋・甕)，瓦質土器(坏)，中国青磁(皿・碗)，中国陶器(鉢・水注)，瓦(丸瓦)，鉄製品(釘)，青銅製品		
SK2032		〃	160	116＋α	63	土師器(皿・坏・壺)，須恵器(坏)，中国青磁(碗)，白磁(皿・碗)		SE07 SK2033に 切られる
SK3005		〃	113	106	80	土師器(皿・坏)，須恵器(坏・蓋)，瓦質土器(碗・鉢)，中国青磁(皿・碗)，白磁(皿・碗・ミニチュア坏)，青白磁(紅皿)，中国陶器(鉢・瓶・捏鉢)，瓦(丸瓦)，鉄製品(釘)	12C前～後	
SK3012		〃	83＋α	90＋α	31.5	土師器(皿)，須恵器(坏・蓋)，瓦質土器(碗)，中国青磁(碗)		
SX3011		〃	188	174	56.5	土師器(皿・坏・高坏)，須恵器(坏・甕)，備前(摺鉢)，中国青磁(碗)，白磁(合子)，瓦(丸瓦)		
SX3013		〃	192	176	82	土師器(皿・坏・甕)，須恵器(坏・蓋・甕)，瓦質土器(坏)，中国石磁(皿・碗・壺)，白磁(碗)，中国陶器(鉢・盤・捏鉢)	14C中	

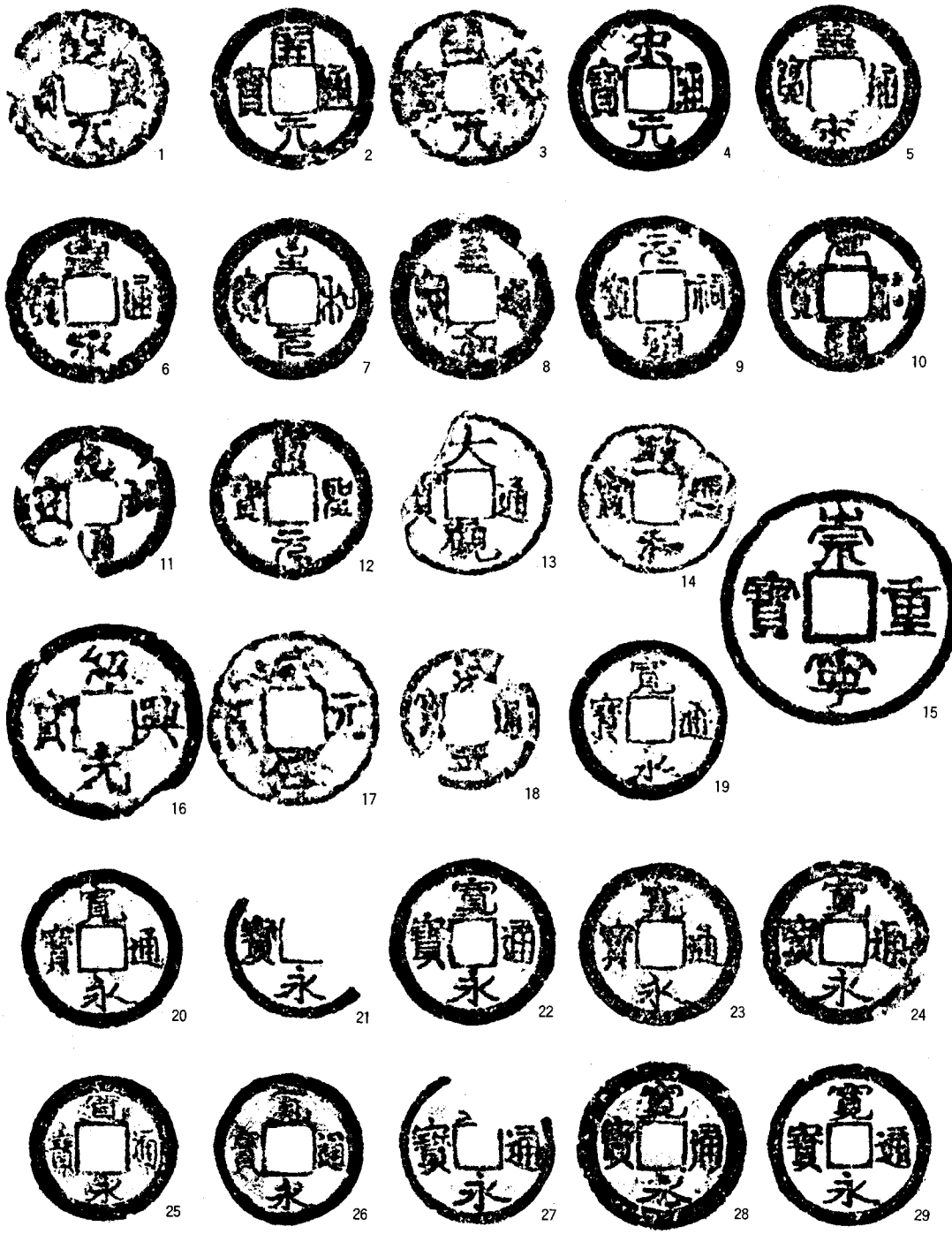


Fig. 40　博多第66次調査出土貨銭①（縮尺1/1）

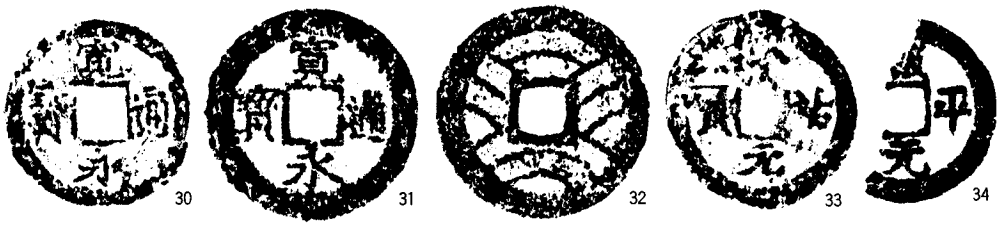


Fig. 41　博多第66次調査出土貨銭②（縮尺1/1）

Tab. 2　博多第66次調査出土貨銭一覧表

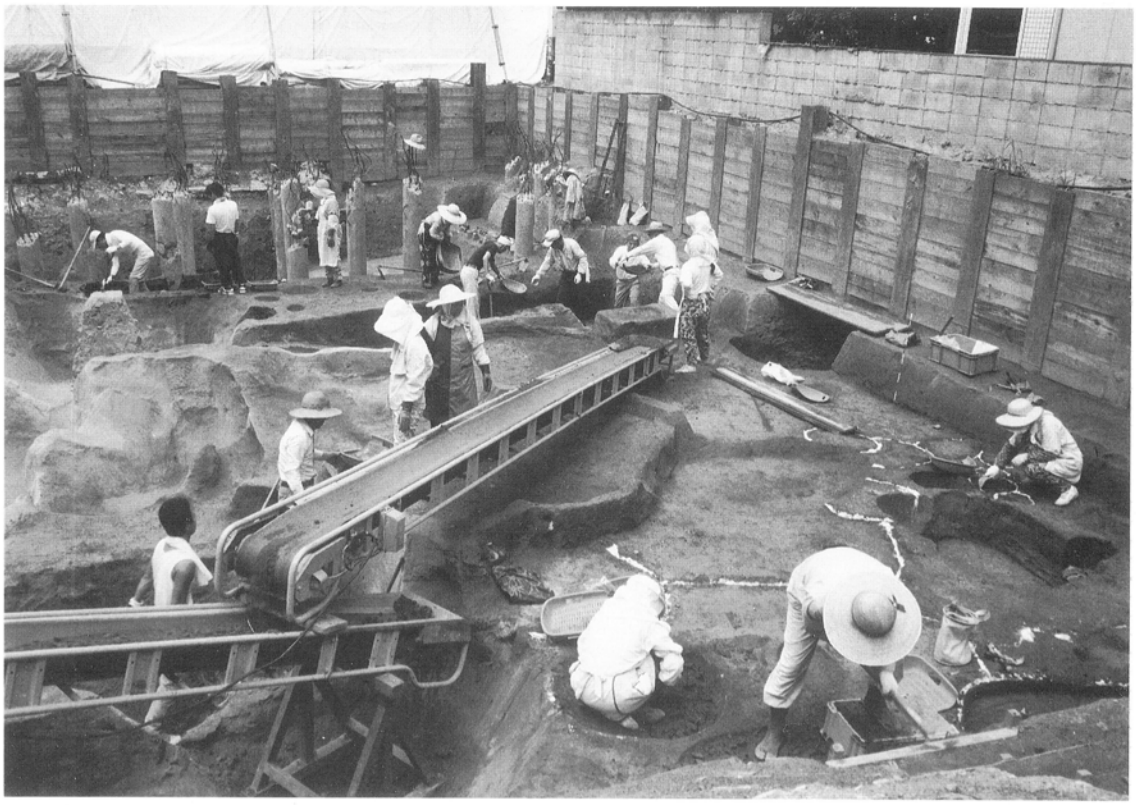
貨銭名	時代	初鋳年	数	挿図番号
開元通寶	唐	621年（武徳４年）	3	1．2．3
宋元通寶	宋	960年（建隆元年）	1	4
皇宋通寶	北宋	1039年（宝元２年）	2	5．6
至和元寶	北宋	1054～55年（至和元年）	1	7
至和通寶	北宋	1054年（至和元年）	1	8
元祐通寶	北宋	1086年（元祐元年）	3	9．10．11
紹ヵ聖元寶	北宋	1094年（紹聖元年）	1	12
崇寧重寶	北宋	1102年（崇寧２年）	1	15
大観通寶	北宋	1107年（大観元年）	1	13
政和通寶	北宋	1111年（政和元年）	1	14
紹興元寶	南宋	1131年（紹興元年）	1	16
咸淳ヵ元寶	南宋	1265年（咸淳元年）	1	17
洪ヵ武通寶	明	1368年（洪武元年）	1	18
寛永通寶	江戸	1636年（寛永13年）	14	19～32
不明			2	33．34
合計			34	

Tab. 3　博多第66次調査　青銅製品一覧表

番号	種類・形状	出土地点	計測値（単位cm）	備考
1	棒状	SE07井筒	長さ6.9、幅0.5～0.2	片端が平坦に広がる
2	煙管火口部	SE13	長さ6.1、火皿外径1.5・内径1.3・深さ0.9、吸口径0.9	完形
3	不明	SE13	長さ6.8、幅0.7～0.3	断面がＶ字形
4	煙管吸口部	SK1103	長さ(3.6)、羅宇接合部径0.9	両端欠損
5	煙管吸口部	〃	長さ(3.3)、羅宇接合部径0.9～0.4	他に小片あり。長さ3.0、径0.6、羅宇現存
6	煙管吸口部	〃	長さ(3.6)、羅宇接合部径0.8	両端欠損
7	煙管火口部	〃	長さ(2.5)、火皿外径1.6・内径1.3・深さ1.0	接合部欠損
8	輪状小片	SK2028	長さ(1.3)、幅0.15	
9	煙管吸口部	SX1101	長さ(5.1)、羅宇接合部径0.9～0.4	
10	煙管火口部	〃	長さ5.7、羅宇接合部径1.1、吸口径0.7	火皿部欠損
11	不明	〃		木をタガ状に巻いている
12	煙管吸口部	SX1102	長さ5.6、羅宇接合部径0.9～0.5	
13	煙管吸口部	〃	長さ5.6、羅宇接合部径0.9～0.4	
14	煙管吸口部	〃	長さ(5.0)、羅宇接合部径1.1～0.5	羅宇の一部露出
15	煙管吸口部	〃	長さ(4.5)、羅宇接合部径0.9～0.5	
16	煙管吸口部	〃	長さ(1.9)、羅宇接合部径0.9、吸口径0.5	両端欠損
17	煙管火口部	〃	長さ(1.1)、火皿外径1.55・内径1.3・深さ(1.1)	火皿部のみ

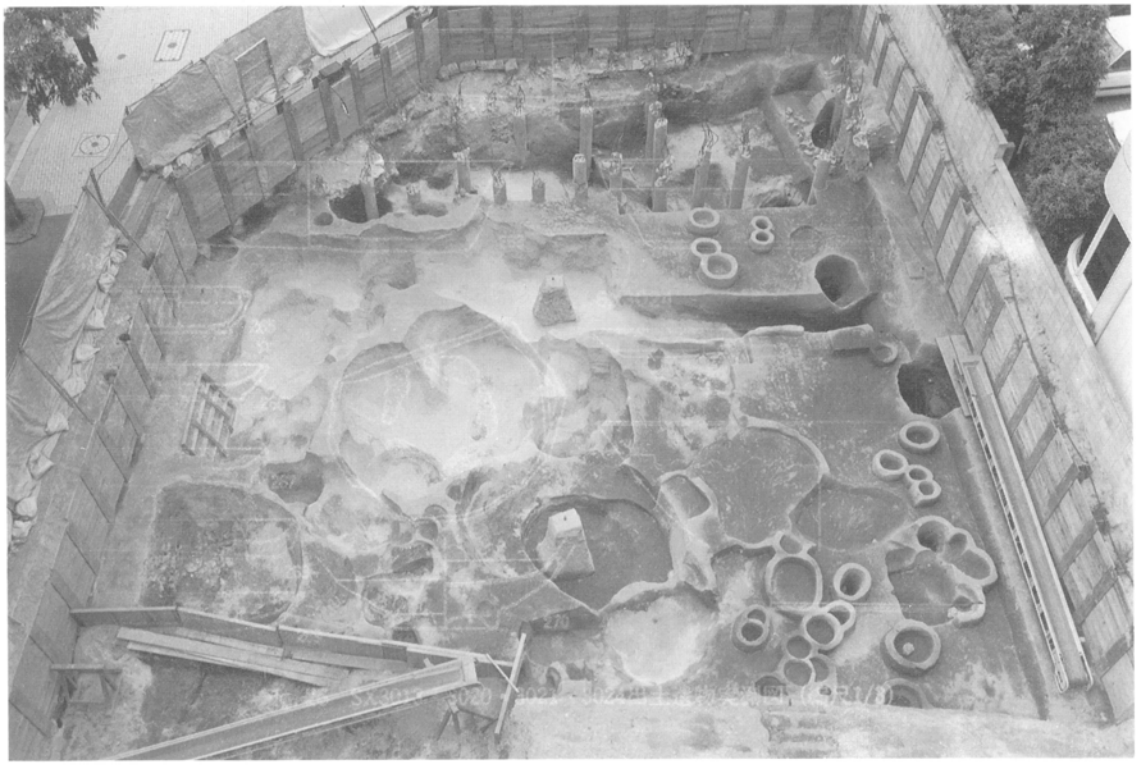
番号	種類・形状	出土地点	計測値（単位cm）	備考
18	煙管火口部	SX1102	長さ(0.4)、火皿外径1.7・内径1.3・深さ(0.4)	火皿部のみ
19	輪	〃	径4.0、厚0.5	完全な円形
20	輪	〃	径2.8、厚0.4	一部欠損
21	煙管火口部	SX1104	長さ5.5、火皿外径1.4・内径1.2・深さ0.7、接合部厚0.9	ほぼ完形　接合部わずかに欠損
22	煙管火口部	〃	長さ(3.1)、吸口径1.5	火皿部欠損
23	煙管火口部	〃	長さ11.7、羅宇接合部径0.5、吸口径0.15	
24	煙管火口部	〃	長さ2.0、羅宇接合部径1.0、吸口径0.5	
25	煙管吸口部	SX1105	長さ(5.4)、羅宇接合部径0.9	片端欠損
26	煙管吸口部	〃	長さ(3.8)、羅宇接合部径1.2～0.5	片端欠損
27	煙管吸口部	〃	長さ(3.8)、羅宇接合部径1.0	潰れている、両端欠損
28	輪状	〃	長さ11.3、厚0.3	
29	輪状	〃	長さ2.2、内径1.1、厚0.3	径0.3の穴、中空
30	不明	〃	長さ2.3、幅0.9、厚0.7	径1.1の紐状付
31	煙管か	SX1106	長さ(1.7)、羅宇接合部径0.9	
32	鈴	〃	長さ(2.8)	上半分　潰れている
33	不明	〃	径3.9、厚0.05	円盤状
34	不明	〃	長さ(5.0)、幅1.0、厚0.05	剝片　他にも破片あり
35	不明	〃	長さ(5.5)、幅3.6、厚0.05、吸口径0.05	剝片　他にも破片あり
36	飾り板か	〃	長さ(3.8)、厚0.9	半円形　2枚接合
37	蝶つがいか	〃	長さ(1.8)、厚1.1	縦半分欠損
38	煙管吸口部	SX1109	長さ(3.8)、羅宇接合部径0.9～0.5	青銅部分の一部はげる
39	針金か	〃	長さ(3.5)、厚0.2	針金状
40	煙管吸口部	SX1110	長さ7.0、羅宇接合部径1.0～0.5	完形品
41	煙管吸口部	〃	長さ(5.2)、羅宇接合部径0.9～0.5	青銅部の縦半分欠損
42	輪	〃	長さ3.3、厚0.3	
43	煙管火口部	SX1112	長さ(5.5)、羅宇接合部径1.4・1.2・0.9、吸口径0.9	火皿部の半分欠損
44	煙管火口部	〃	長さ6.1、羅宇接合部径1.3～0.8	火皿部が欠損　飾りがつく
45	棒状	〃	長さ12.9、厚0.3～0.1	
46	棒状？	SX1113	長さ8.8、厚0.3	先端部輪になっている
47	不明	SX1116	長さ(4.5)、幅0.8、厚0.4	潰れて変形　折曲げられている
48	煙管火口部	SX1117	長さ(4.5)、羅宇接合部径1.0～0.7	火皿部欠損
49	煙管火口部	〃	羅宇接合部径1.7・1.4・0.8	火皿部のみ現存
50	不明	SX1117	長さ(7.7)、厚0.4	L字形　頭が大きい
51	管状	SX1127	長さ1.8、厚1.1	中空
52	棒状	〃	長さ8.5、径0.2	他に2片あり
53	不明	〃	長さ(4.5)、幅2.3、厚0.05	L字状に曲がる
54	煙管吸口	SX2128	長さ4.9、羅宇接合部径1.0	片端潰れている
55	不明	SX1131	長さ5.3、幅1.0、厚0.2	L字型
56	不明	SX3001	長さ10.3、幅0.3	先端部が輪No.51と同一器形
57	不明	〃	長さ(4.1)、幅0.6、厚0.4	
58	煙管火口部	SX3003	長さ6.2、羅宇接合部径1.6・1.3・1.0、吸口径0.9	完形潰れている
59	煙管火口部	〃	羅宇接合部径1.6・1.4・1.1	火皿部分のみ
60	棒状	SX3005	長さ3.0、幅0.3、厚0.1	
61	輪状	SD01上面	長さ2.3、幅0.3	
62	煙管吸口部分	包含層1面	長さ5.8、羅宇接合部径1.0～0.5	完形
63	煙管吸口部分	包含層1面	羅宇接合部径1.55・1.35・0.9	火皿部分のみ少し潰れている
64	不明	包含層2面	長さ1.6、厚0.3	丸い底状
65	管状	表採	長さ4.1、径1.55	
66	不明	不明	長さ(1.9)、幅0.6、厚0.4	潰れている

図　　版



第１面　作業風景

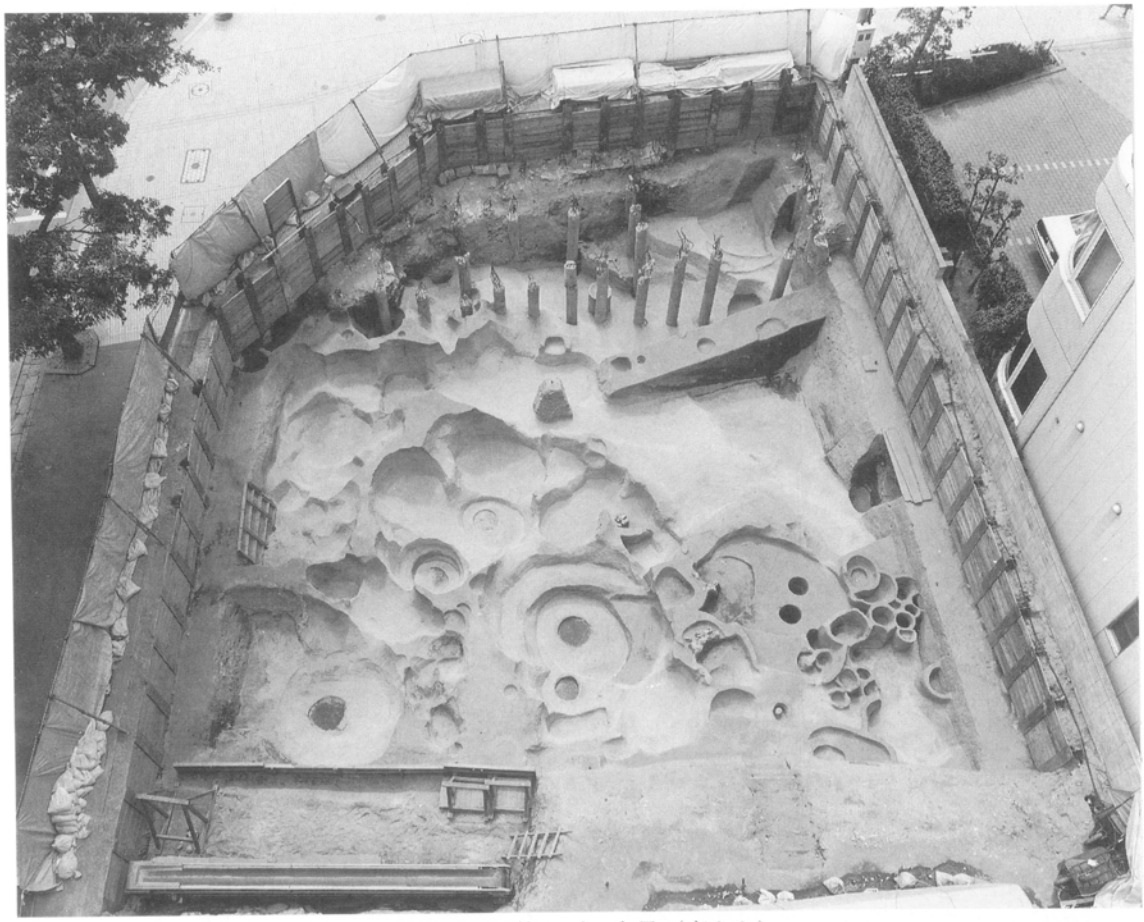
調査区西側第１面　全景（東から）



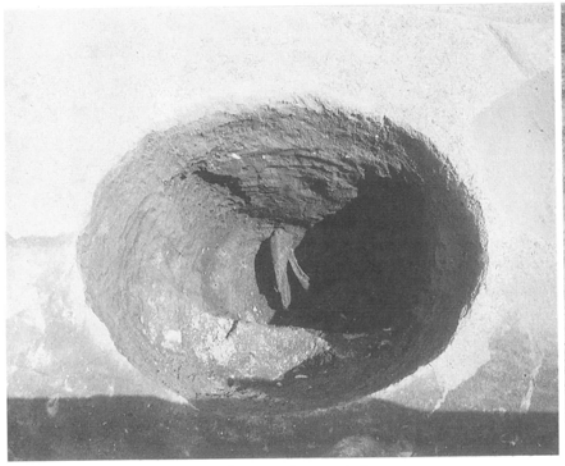
調査区西側第１-ｂ面　全景（東から）

調査区東側第１・２面の状態（南から）

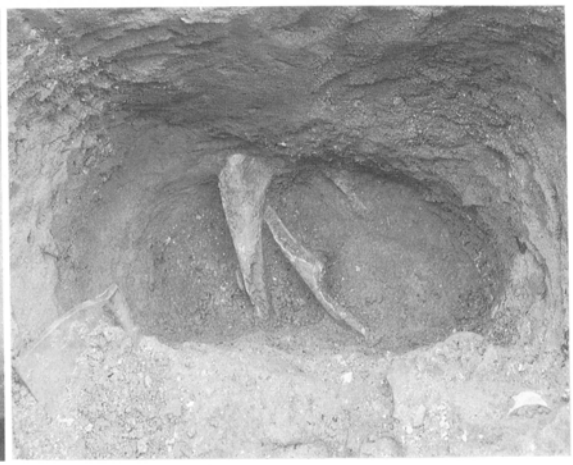
調査区東側第１・２面完掘状態（南から）



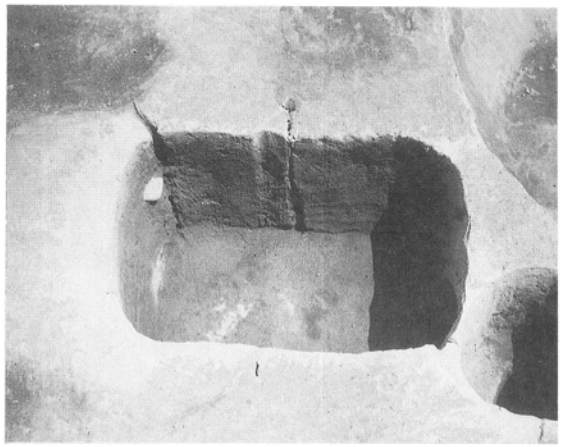
調査区西側第２面　全景（東から）



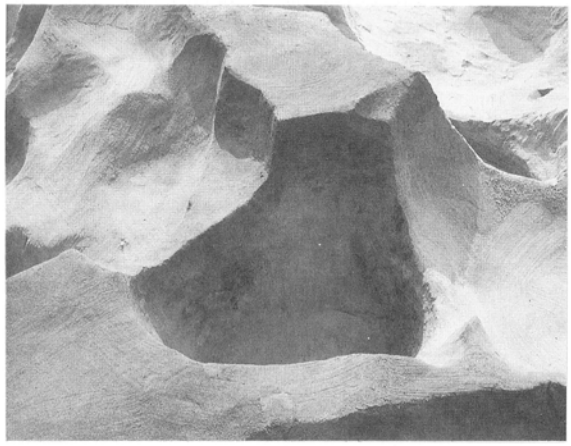
SX1104（北から）



SX1104内の獣骨出土状態



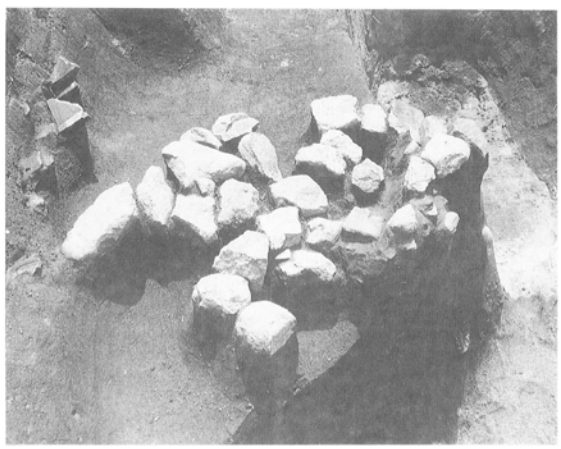
SK1105（北から）



SK1108（南から）

SK1109（東から）

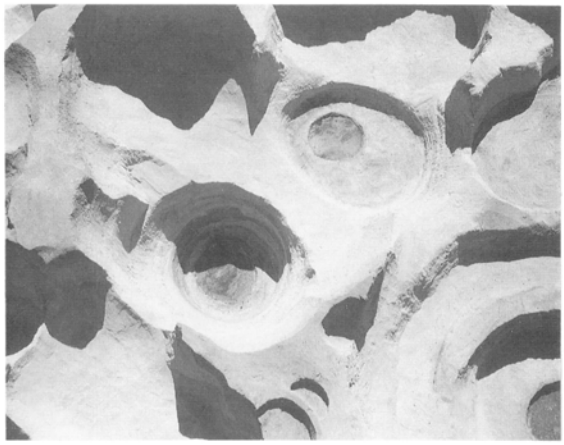
SX1115（北から）



SX1125上面の礫群

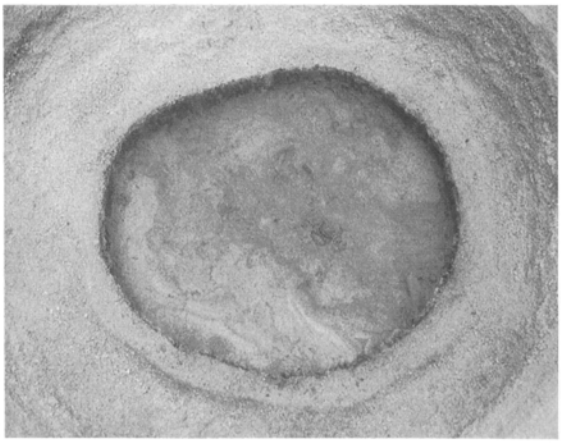
SX1127（東から）

SX1102・1113、井戸 SE01・02（東から）

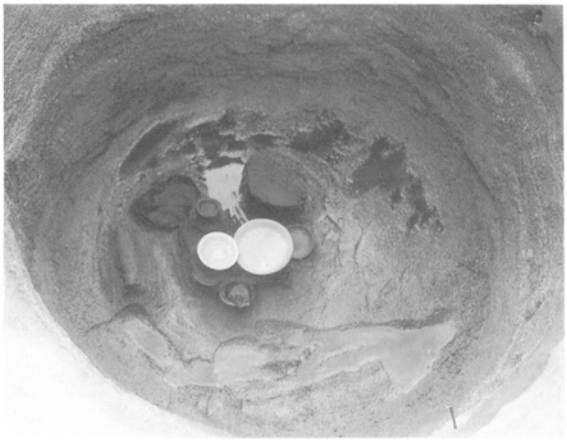


井戸 SE01・02全景（北から）

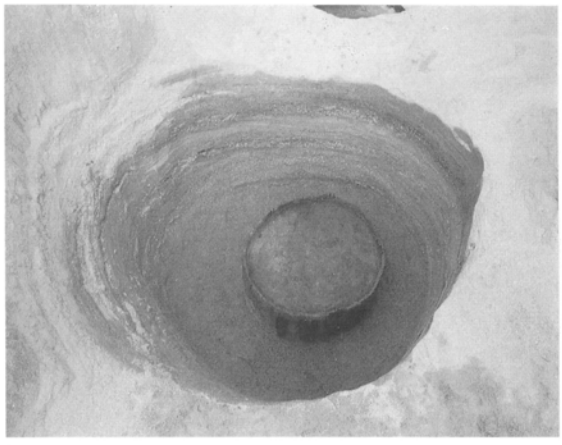
井戸 SE01全景（西から）



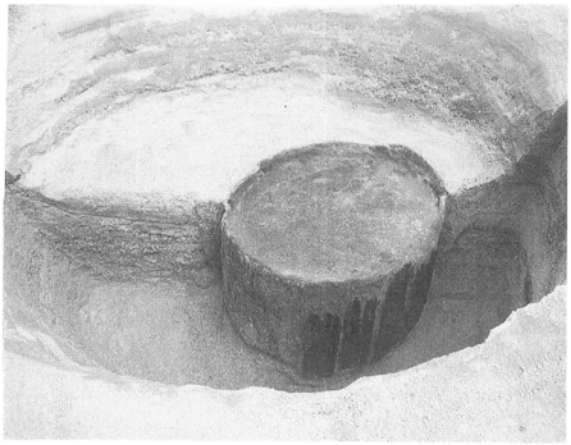
井戸 SE01木桶の状態（西から）



井戸 SE01井筒内の祭祀遺物（西から）



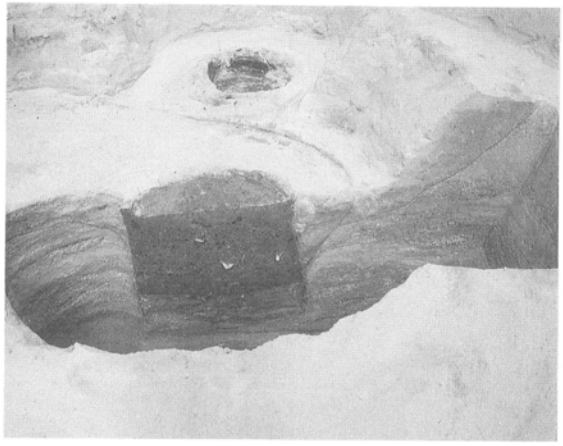
井戸 SE02（西から）



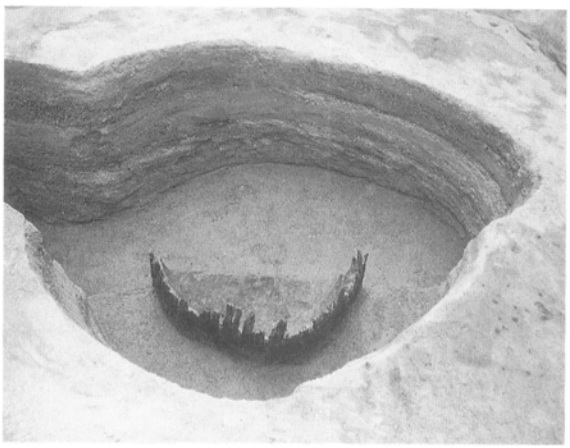
井戸 SE02井筒の状態（東から）

井戸 SE05・06全景（東から）

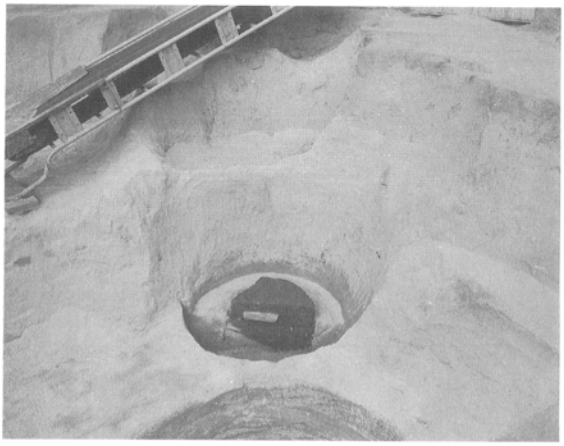
井戸 SE05上部の遺物



井戸 SE05井筒状態（西から）

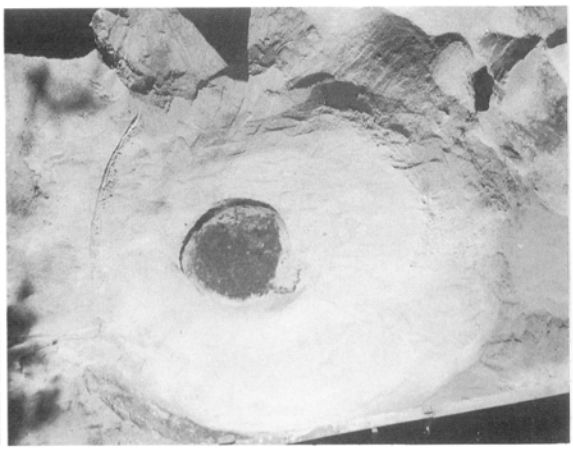


井戸 SE05木桶の状態（北から）



井戸 SE06全景（西南から）

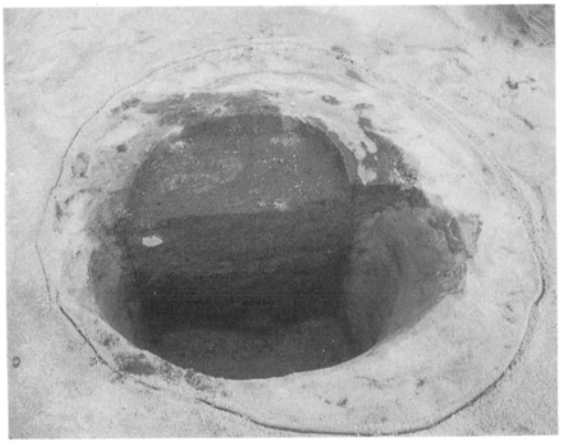
井戸 SE06木桶状態（南から）



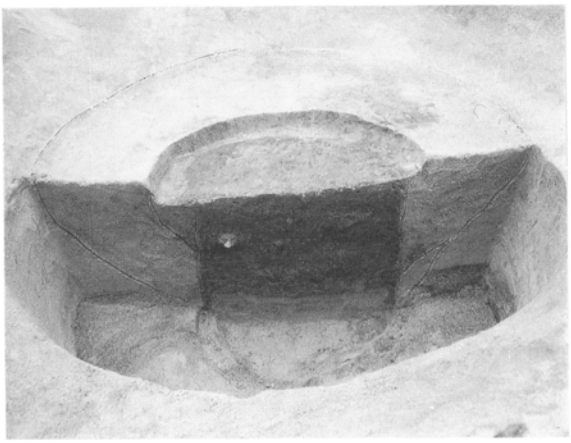
井戸 SE09全景（東から）

井戸 SE07 全景（東から）

井戸 SE09完堀状態（南から）



井戸 SE07井筒の状態（北から）

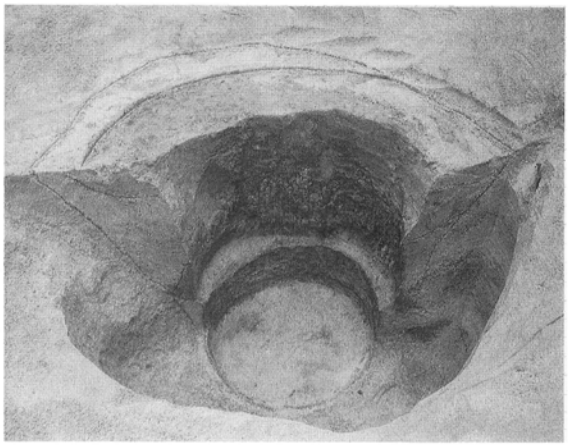


井戸 SE09井筒の状態（南から）

井戸 SE08全景（北から）

井戸 SE10全景（北から）

井戸 SE08曲物跡（西から）

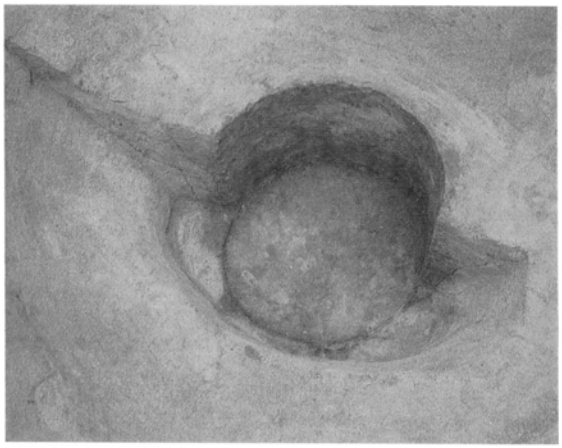


井戸 SE10井筒状態（南から）

井戸 SE08断面の状態（東から）

井戸 SE10土層状態（西から）

井戸 SE11全景（北から）

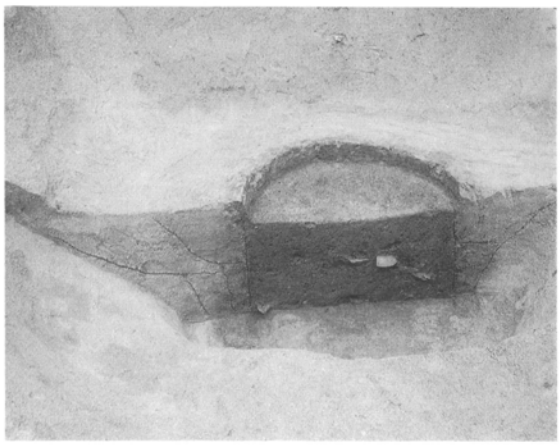


井戸 SE11井筒の状態（南から）

井戸 SE12井筒の状態（西から）

井戸 SE12（西から）

井戸 SE13（東から）



井戸 SE13井筒の状態（西から）

井戸 SE14・15・17全景（北から）

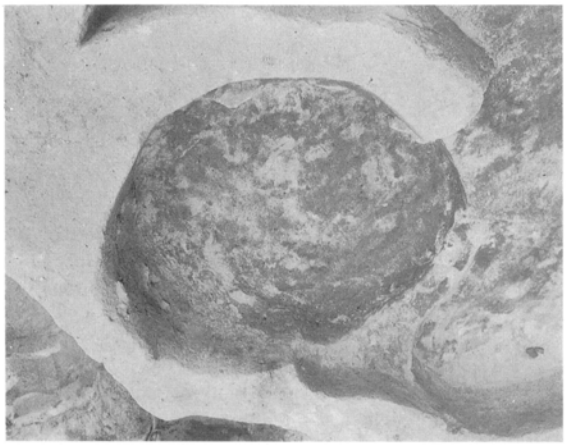
井戸 SE14・15・17全景（西から）

井戸 SE14（北から）

井戸 SE17（南から）

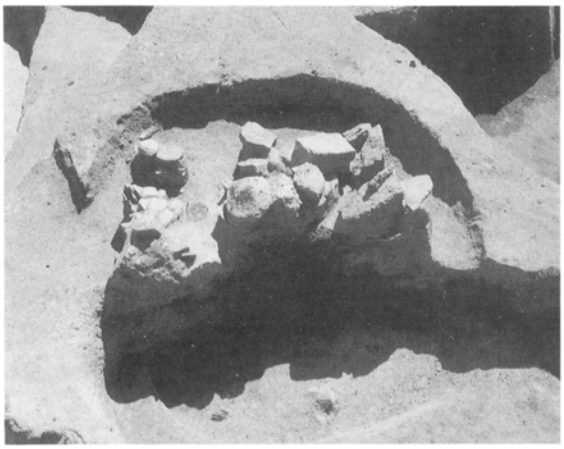
SX3020A（東から）

SX3007B（東から）

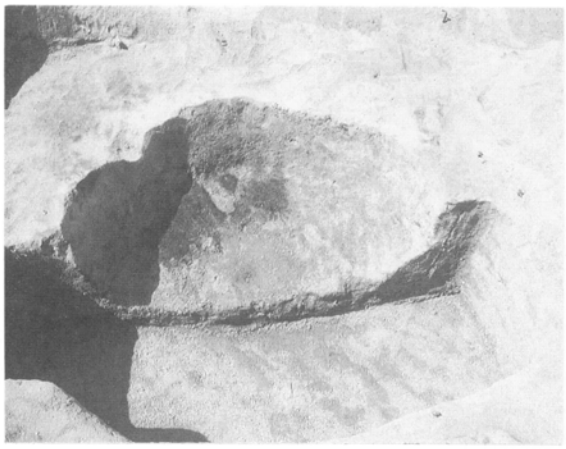


SK2025（西から）

SK2026（南から）



SK2029（東から）



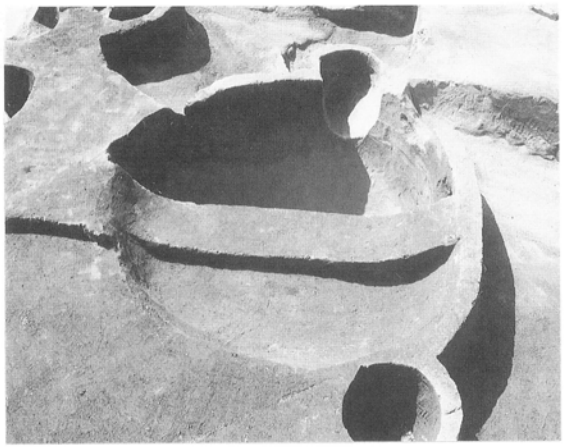
SK2061（東から）

SK2030（東から）

SK2030上部の土師器（北から）

SK3005（東から）

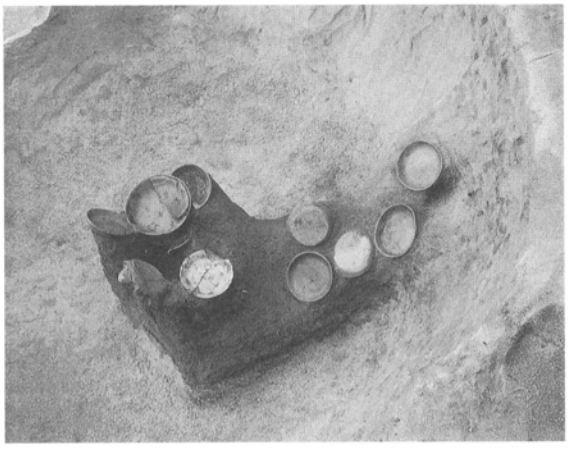
SX3002（西から）



SX3011（東から）

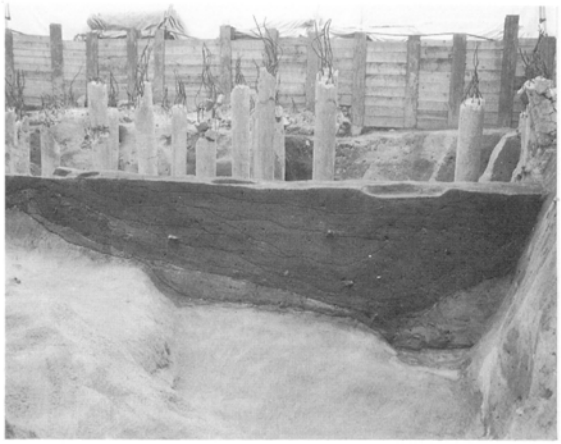
SX3019（西から）

SX3013（北から）



SX3013出土遺物（西から）

溝 SD2001北壁土層（南東から）



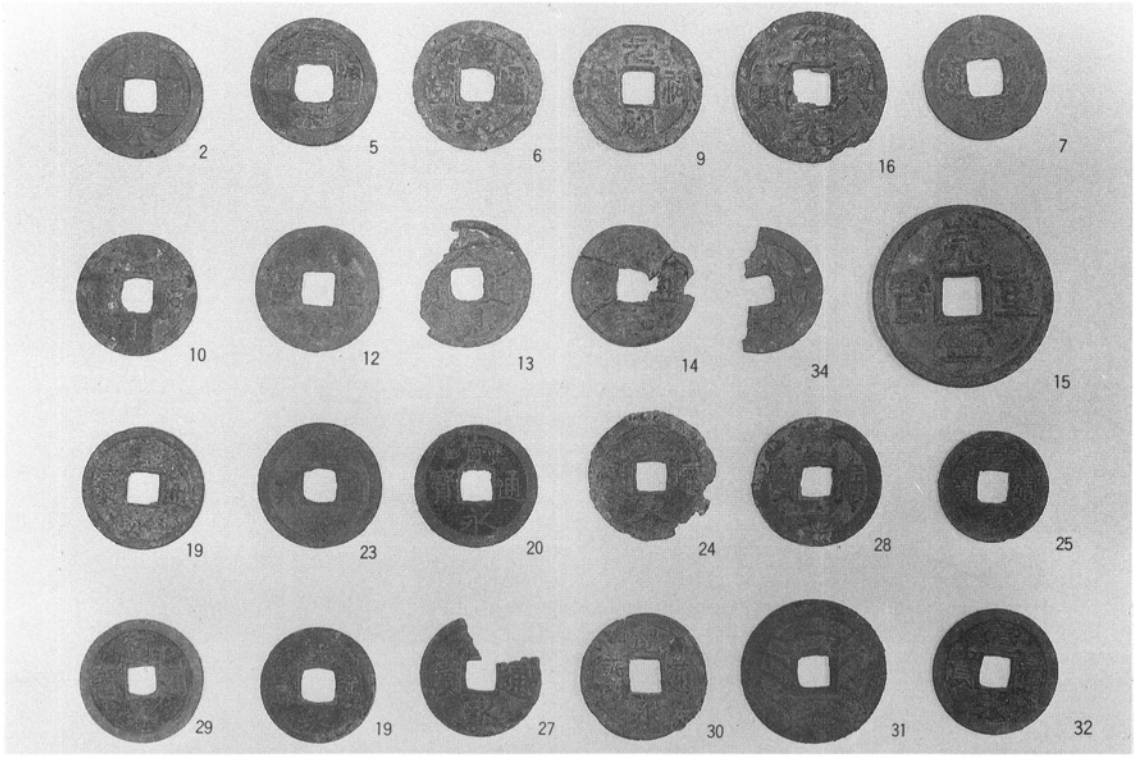
溝 SD2001ベルトの土層（東から）

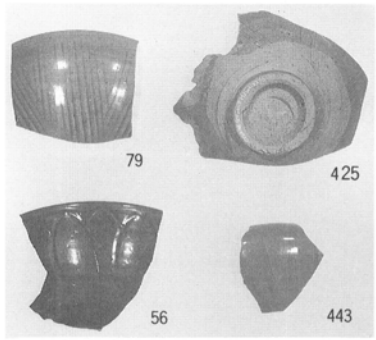
溝 SD1001（北東から）

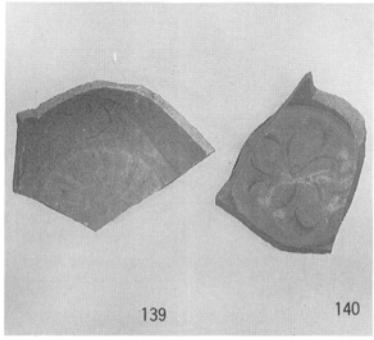
溝 SD2001内人骨の状態（南東から）

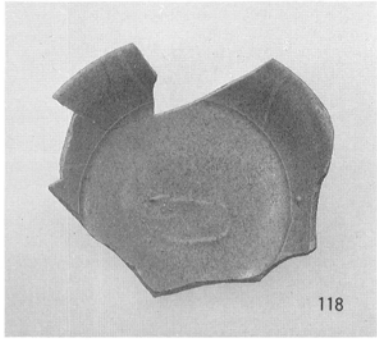
溝 SD1002（東から）

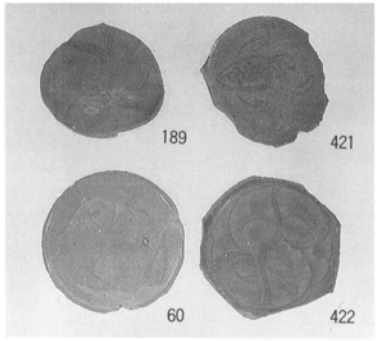
溝 SD1002の遺物出土状態（西南から）

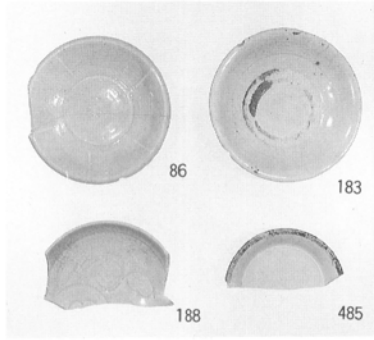


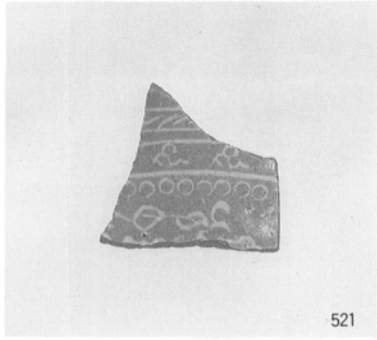






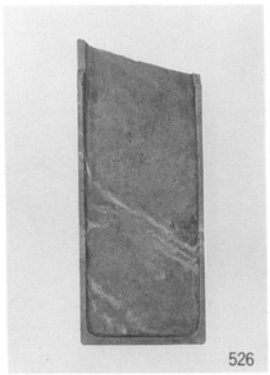






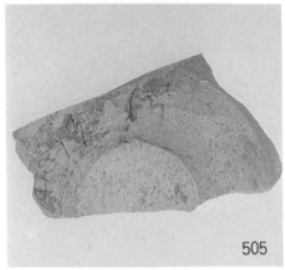
※数字は実測図の番号に一致する
521はSX3035出土

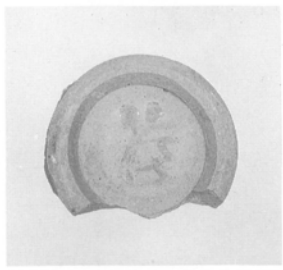
525

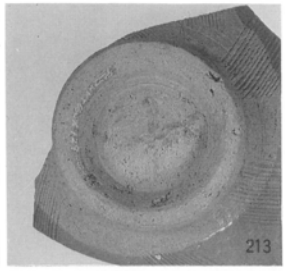

526

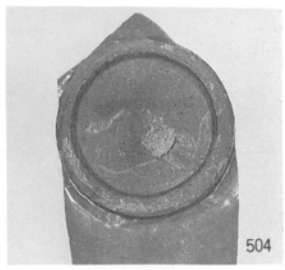
13

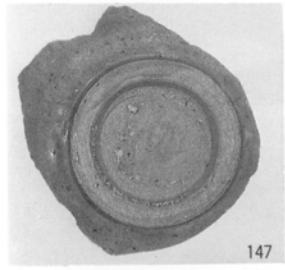
520

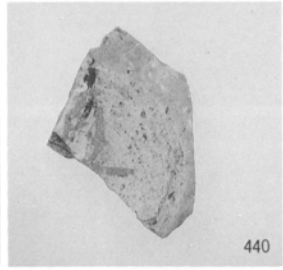

505



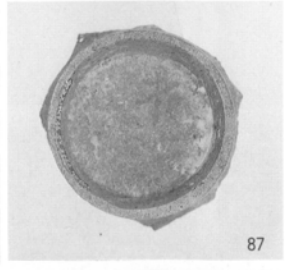

213

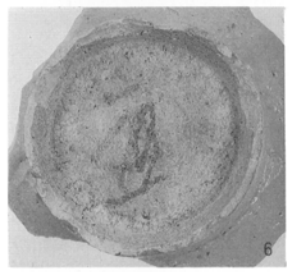

504

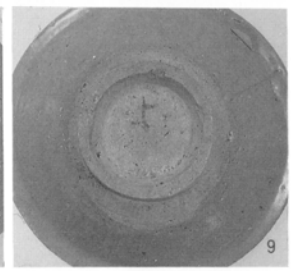

147

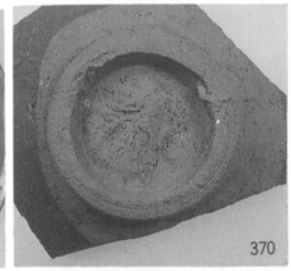

440

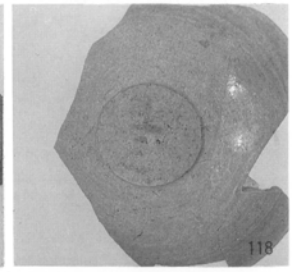
523

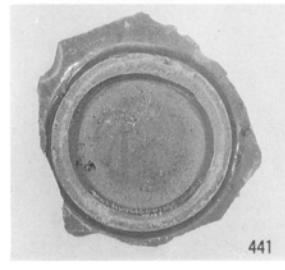

87

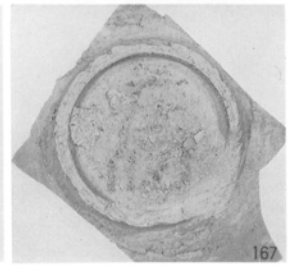

6


9

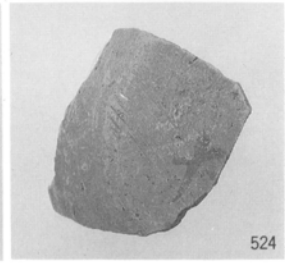

370


118


441


167

436


524

※数字は実測図の番号と一致する。
523は SX3017井筒、524は SX3037
525は SX2101、526は SX2112-B 出土

博　多　38

—博多遺跡群第66次調査報告—

1993年（平成５年）３月31日

発　行　福岡市教育委員会
福岡市中央区天神一丁目８番１号

印　刷　正光印刷株式会社
福岡市中央区赤坂一丁目３番７号